

ノ希望及提案ニ合致シ以テ世界連帶ノ事實ヲ一層明ニセリ尤モ吾人ハ人口分配ノ問題並ニ資本貨物及人ノ移動ノ自由ノ問題ヲ解決スルニ非サレハ吾人最終ノ目的ニ達セリトハ言ヒ難カルヘク此等ノ問題ハ共存共榮ノ精神ヲ以テ之ニ當ラハ之カ解決必スシモ困難ニ非スト信スルモノナリ
吾人当面ノ急務ハ本會議ノ決定及勸告ノ即時且具體的ナル実行ナル処之カ為ニハ現存諸機關ノ利用及非聯盟國ノ完全ナル協力ノ二点ニ留意スルコトヲ要スヘシ日本代表ハ右諸決議ノ原則ヲ自國ニ普及セシメ以テ輿論作興ノ運動ニ全力ヲ以テ参加セントス最後ニ聯盟經濟機關及本會議々長其他ニ深甚ナル謝意ヲ表ス」

第八、商、工、農各委員會ニ於テ我方委員ノ主張セル諸点

各委員會ニ於テ我委員ノ主張セル諸点左ノ如シ

- (一) 商業委員會ニ於テハ(イ)關稅引下ケヲ力説シ其ノ実行ニ關スル方法ヲ指示シ(ロ)關稅ニ關スル最惠國條款ノ適用ヲ求メ趣旨ニ於テ委員會ノ贊同ヲ得(ハ)「ダンピング」取締方法ニ關シ主張スル所アリ決議案中ニ採択セラル
 - (二) 工業委員會ニ於テハ(イ)天然資源ノ自由開放及原料品ノ合理的使用方法ニ關シ後者ハ決議案中ニ採択セラレ(ロ)工業品規格ノ國際的統一ヲ主張シ是亦決議案中ニ加ヘラルコトナレリ
 - (三) 農業委員會ニ於テハ低度農業教育ノ普及ヲ計リ生産ノ増加ヲ計ルコトヲ主張シ其ノ趣旨ハ決議案中ニ採択セラレ産業組合ノ國際協調ニ關スル提議亦採択セラレタリ
- 他國委員ノ提案ニ係ル農業簿記ノ統一蒐集及ヒ農業「センサス」ニ關シテハ簡單ナル形式ヲ採用スヘキ旨ヲ勸告シテ其ノ趣旨採用セラル

一 ジュネーヴ經濟會議

2 「國際經濟會議報告書」

昭和二年五月於寿府

國際經濟會議報告書

(編注)

目次 (編注)

一 一般討議要領	門 脇 官 補
二 第一委員会 (商業)	上 田 代 表
三 商業部第一小委員会	高 嶋 委 員
四 第二小委員会	上 田 代 表
関税及 通商条約	
五 第三小委員会	成 瀬 委 員
通商航海保護ノ間接手段 商業委員会 第三分科会	
六 工業部委員会	倉 橋 委 員
七 第三委員会 (農業)	佐 藤 代 表
	荷 見 委 員
八 委員会終了後ノ本会議經過	坂 本 書 記 官
	以 上

一 国際經濟會議一般討議要領

第一 国際經濟會議開催ノ次第

一九二五年九月二十四日国際聯盟第六回總會ハ仏国代表（主トシテ「ルーシュール」氏）ノ提議ニ基キ次ノ如キ意味ノ決議案ヲ可決セリ

国際聯盟總會ハ

世界平和ヲ招来シ得可キ一切ノ方法ヲ探究スヘク經濟的平和カ人類ノ安全ヲ確保スルニ貢獻スルトコロ大ナルニ鑑ミ一般繁栄ノ復興ヲ妨クル經濟的問題ヲ考究解決シ紛争ヲ避ク可キ最善ノ方法ヲ発見スルコト必要ナルヲ確信シ聯盟並ニ国際労働事務局ノ技術的組織ニ立脚シ将来ノ国際經濟會議ノ事業ヲ準備ス可キ準備委員會ヲ任命スヘキヤ否ヤヲ研究ス可キコトヲ理事会ニ勧告ス

聯盟理事会ハ右決議ヲ採用シ三十五名ヨリ成ル準備委員會ヲ構成セリ

準備委員會ハ一九二六年四月其第一回會議ヲ同年十二月其第二回會議ヲ催シ将来ノ国際經濟會議ニ対スル「ドキュメント」ノ準備並ニ分類等ヲナシ最後ニ一ノ報告案ヲ作成セリ。此報告案ハ同年十二月九日聯盟理事会ノ採用スル所トナリ此ニ準備委員會ノ事業ヲ終了シ国際經濟會議ハ一九二七年五月四日寿府ニ開催セラルコトニ決定セリ

外交官補 門脇 季光 起草

第二 一般討議經過要領

国際經濟會議五月四日午前 Salle de la Réformation ニ開會議長「トューニス」ノ開会ノ辞ニ次キ同日ヨリ七日迄世界

經濟ニ関スル一般討議ヲ行フ

七日ノ討議中議長ノ推挙ニヨリ英仏独伊日米露澳伯蘭波丁ノ各首席代表ハ本會議ノ副議長ニ推サレ次イテ第一(商業)第二(工業)第三(農業)ノ三委員會ヲ設クルコトナリ更ニ議長ノ提議ニヨリ「コライン」氏(和蘭)「ホダツチ」氏(智恵古)「フランデツシュ」氏(セルブクロアースロヴェエヌ)夫々第一第二第三各委員會ノ議長ニ推サル
五月四日ヨリ同七日迄各国代表ノサレタル演述要旨左ノ如シ

議長「トユニス」(M.G. Theunis)氏開會ノ辭

本會議ハ聯盟加入各国ノ代表ノミナラス米露土ノ如キ非聯盟国代表ヲ集ムル点ニ於テ更ニ國際労働事務局万国農事協會國際商業會議所ノ如キ國際の機關ノ代表者ヲ以テ成ル点ニ於テ將又女性団体ノ代表者ヲ以テナル点ニ於テ從來ノ會議トハ異ル特別ノ色彩ヲ有シ此等ノ代表者ハ夫々生産者消費者工業家農家政治家商業家労働者等ヲ代表スルモノニシテ国家ノ多数ナルト各方面ノ代表ヲ集ムルトヲ見ルニ世界各民族カ渴望スル二大問題——平和ト繁榮——トヲ研究スルニ足ルモノト信スト述ヘ次イテ本會議ノ開催セラル、ニ至レル経路即チ「ルーシユール」氏ノ提案準備委員會ノ構成及其事業ノ大要ヲ述ヘ更ニ本會議ノ先ツナス可キコトトシテ世界經濟狀態ノ主要觀察現今各方面ニ於ケル不均衡ノ經濟的原因及世界平和ニ影響アル可キ經濟的傾向ニ関スル一般的論議ヲナス可クコレニヨリ各民族ノ經濟政策ト国家ノ政治的平和トノ間ニ如何ニ密接ナル關係ノ存スルカヲ示ス可ク次テ農工商ノ三項目ノ下ニ問題ヲ分ツテ現在ノ經濟狀態ノ各要素ヲ詳細ニ且ツ正確ニ研究スヘシトシ財政及人口問題ハ元來他ノ分科ノ一部ヲナスモノナレハ特ニ項目ヲ分タストナス討議ニ当リ特ニ重要ナル問題トシテ通商關稅政策ノ問題及國際工業協定ノ問題ヲ挙げ且ツ農業ハ他ノ産業ノ基礎ニシテ一般繁榮ト關係大ナレハ特別ニ研究ノ要アリトセリ又問題ノ多クハ歐ニ関スルモノナランモ各民族皆相依リ相助クル關係ニ在ルカ故ニ一國一団体ニ関スル問題モ他國ニ大ナル反動ヲ及ホスモノナレハトテ各問題ニ関シ各員ノ協力ヲ希望シ

コレニ関シ「トキユメンテーシヨン」ノ有効ナルヲ述ヘタル後世界經濟狀態ニ関スル自己ノ考察ヲ披歴ス。

戰時中ノ一時的ノ異常ナル需要増加商業關係ノ挫折ハ異常ノ事態ヲ生シ之カ恢復ハ極メテ困難ナルノミナラス又戰時中運輸ノ困難又ハ不加^{不能}態ナル為逐ニ独立セル新ナル生産中心地ヲ作り戰時戰後ノ固定及流動資本ノ壊滅ハ歐洲大部ノ貧窮ヲ招キ戰後ノ財政上ノ不安定ハ人間ノ特別ナル精神狀態ヲ作り浪費奢侈ノ弊風ヲ増長セリコノ狀態ハ貯蓄ノ精神ヲ害シ為ニ經濟生活長期貸付ニ必要ナル資本ノ欠乏ヲ招来セリ実ニ地域ノ變更財政上金融上ノ不安定旧經濟平均ノ顛覆關稅或ハ其他ノ保護政策等一層經濟的不安ヲ増加セリ各國民カ何レモ自給自足セントスルト同時ニ他ニ新販路ヲ発見スルノ傾向増加スルニ至レルカ之ハ明ニ相反スル傾向ニシテ之カ為關稅障^壁ヲ高クスル結果ヲモたらセリ高率ノ關稅ハ一種ノ防禦武器ナリト思考スル者アルモ事實ハ利害關係人ノ圧迫ニヨリテ其利益ヲ保護スルタメニ維持セラルルコト多クカ、ハ異常ナ人工的方法ヲトル故ニ其結果トシテ生産増加ノ努力モ無効トナリ生産品ノ分配ヲモ乱ルニ至ルトテ種々ノ矛盾ヲ挙げ現今難局ノ中心ハ通商カ生産方法ノ發展ニ追從シ得サリシニヨルコトヲ説明シ得可シトセリ

本會議ニヨツテ直チニ難局ノ原因ヲ排除スルコトヲ得サル可キモ吾人ハ大ナル仕事ノ根底トナル可キ第一石ヲ置クモノナリトシ各人各国間ノ連帶ノ必要ヲトキ連帶ハ聯盟ノ中心ニシテ目的タリ国内的ニモ國際的ニモ經濟的ニモ政治的ニモ利益ノ相關々係ハ一ノ事實ナレハ須ラク之ヲ認メ之ヲ利用スヘク之カ本會議ノ肝要ナル仕事ナリトス最后ニ會議ノ議事進行整理其他ノ議事執行手續ニツキテ説明スル所アリタリ

カール グスターフ カッセル (Karl Gustav Cassel) (瑞典)

最近ノ經濟發展ニ惡影響ヲ及ホセル思想ヲ攻撃シ本會議ニ於テハ「最高ノ經濟原則ハ協調ノ原則」ナルコトヲ明ニスヘシト述ヘ更ニ戰後減少セル世界ノ購買力ニ適合スルタメ生産力ヲ減少セシムヘシトノ議論ヲ反駁シ社会ノ購買力ハ要スルニ其社会ノ生産力ノ總計ニ外ナラサレハ購買力減退ヲ癒ス可キ唯一ノ方法ハ生産力増加ニ在リトシ生産力ノ市場適合

ノ必要ヲトキ歐洲工業品ノ價格高クシテ充分ナル市場ヲ見出し得サル実状ヲ述フ更ニ独占の傾向ニツキ之ハ世界ノ生産能力ヲ最善ノ条件ヲ以テ利用スルコトヲ害シ工業維持ノ困難労働者ノ失業ヲ招致スルカ故ニ本會議ニ於テハ宜シク独占ノ形式影響ヲ研究シ其有害ナルヲ確認スヘシト云ヘリ次ニ仕上品價格ノ半製品價格ヨリ高く從テ生活費ノ一般卸價格ヨリモ遙カニ高く從テ物価ノ一般的動搖資金ノ動搖ヲ来スノミナラス此傾向ハ農業及原料品生産国ニトリテ甚タ不利益ニシテ即チ歐洲諸国ト海外殖民地国トノ通商ニ影響スル所大ナリトシ加之現今歐ニ於ケル貯蓄減退ト新資本ヲ投下スルコト不可能ナルトノ為ニ植民地国ハ其土地開發ニ必要ナル物質ヲ得ルコト難ク其結果歐ノ必要トスル食料品原料品ノ如キ物質ノ払底ヲ告ケ益々兩者間ノ通商ノ減退ヲ来ス所以ヲ説明シ特ニ現今ノ經濟の不振ニ最モ苦シム者ハ戰前植民地ニ對シ第一ノ輸出者タリシ英独ナルコトヲ遺憾トセリ

ボニン ロンガーレ伯 (Bonin-Longare) (伊太利)

經濟ト世界平和トノ間ニ存スル密接ナル關係ヲ説キ國際の紛争ノ根源ニハ必ス經濟的紛争ノ存セサルナシトシ凡テノ國家カ其能力必要ニ応シテ働キ生産シ得可キ時至ラハ其時こそ一切ノ紛争ノ原因ハ地上ヨリ消ヘ去ルヘシト述ヘ準備委員會ノ作成セル「プログラム」ヲ凡テ完成セントスルハ誤ナル可キモ現在ノ難局ヲ部分的ニテモ解決ニ至ラシメ一切ノ改革ヲ遲緩ナラシムル事情ヲ除キ得タナラハ本會議ノ平和ニ貢獻スル所大ナルヘシトシ各員カ協調信賴ノ念ヲ以テ問題ヲ討議シ自己ノ利益ノミヲ顧慮スルカ如キコトナカランコトヲ希フ更ニ各國家間ニ存スル相關々係ニツキテ一國ノ繁榮ハ他國ノソレニヨリテ害セラル、所ナキノミナラス却テ利益ヲ得ル所大ナリトシ此原則ハ特ニ戰後生産制限ト市場稀薄^{マツマツ}トノ為ニ二重ニ世界カ貧窮トナレルハ今日特ニ各政府ノ一考ヲ煩ハス次第ナリトシ各國家間ノ協調ニヨル努力ノ必要ヲ力説セリ。最后ニ原料品ニ乏シキ一方過剩ノ労働ヲ有スル伊太利今日ノ状態ヲ述ヘ伊太利政府カ如何ニ本會議ノ成功ヲ期スル為多大ノ熱心ヲ傾注スルモノナルカヲ述ヘタリ

ランシマン (Runciman) (國際商業會議所)

國際商業會議所ノ目的トスル所ハ人及ヒ物ノ最モ大ナル移動ヲ確實ナラシムルニ在リトシ從テ會議所カ如何ニ熱心ニ本會議ニ参加シ来レルカヲ叙述スル所アリ次イテ戰爭ニヨル經濟的損害ノ未タ充分ニ癒サル、ニ至ラストテ通商貿易ニ其例ヲ引キ更ニ戰後ノ經濟上ノ大ナル特長トシテ為替ノ甚シキ變動ヲ挙げ關稅カ今日ノ如ク高キ程度ニ達シタルハ主トシテ為替ノ變動カ其影響ヲ及ホシタル為ナリトシ殊ニ此為替ノ變動カ關稅增加ト相俟チテ商人ノ最モ重要ナル原動力タル「長期契約」ノ締結ヲ妨ケタリトテ長期契約カ如何ニ經濟的活動ニ必要ナルカヲ述ヘ關稅騰貴ハ益々長期契約ノ締結ヲ害スルモノトシテ關稅障壁ノ撤廃ノ要ヲ述ヘコノ点ニツキ國際商業會議所米國委員ノ意見即チ

『北米合衆國全地域上ニ通商上ノ障壁ナキ為歐洲ニ於テハ必要トスル手段ヲ米國ニ於テハ之ヲ必要トセサルコト一般ニ認メラル、所ナリ吾人ノ經驗ニヨレハ歐洲ニ於ケル經濟通商上ノ自由ハ歐洲ノ人民ニトリテ大ナル利益タルヲ失ハサルモノト信ス』

ヲ發表シテ其說ノ正當ナルヲ説ケリ

次イテ過去數年間ノ國際經濟ノ協調ニツキ其進歩ヲ認メ例ヲ造船業ニトリ海港條約ノ締結ヲ稱揚シ各船旗ニ對スル差別的待遇ノ消失各商船ノ規則統一ニ關シテノ進歩ヲ認メ更ニ本會議ニハ石炭鉄其他ニ關シ重要ナル調査ノ存スルモ Heavy industries (大機械工業)ノ方面ニ於テ失業最モ甚タシク財政的困難最モ大ナレハ主トシテ本會議ニ於テハ此方面ノ研究ヲナスノ要アルヘシトシ各工業ニ於テ種々ノ困難ハアル可キモ凡テノ場合ニ於ケル共通ノ弊害ハ關稅問題ナリトセリ關稅障壁ノ完全ナル撤廃ハ多數國ノ財政的利害ニ關スル故ニ今之ヲ実行スルコト不可能ナル可キモ本會議ニ於テハ關稅障壁ヲ低下シ通商ヲ戰前ノ状態ニ恢復スル為協調ノ精神ヲ以テ努力スヘク少クトモ國際商業會議所ノ提案ヲ採用センコトヲ希望セリ

最后ニ関税率ノ安定及税率分類ノ複雑ヲ避クルコトノ必要ヲ称へ後者ニ関シテハ関税制度ヲ実行スル世界ノ各国ハ凡テ一様ニ共通ノ方法ヲ採用スルヲ要スト述ヘタリ

グリウィック (Gliwic) (波蘭)

先ツ戰時中經濟的要求ヲ滿スノ唯一ノ手段タリシ紙幣増発ノ弊害ヲトキ次ニ移民ニツキ移入国ハ其侵入ヲ恐レテ障壁ヲツクル為移出国ハ余儀ナク過剰ノ労働ヲ利用セントスルノ目的ノミヲ以テ古キ工業ヲ保護シ又ハ新工業ヲ制設スルニ至レリトシ人口問題ノ經濟生活上ニ極メテ重大ナルヲトキ移民ノ移出国及移入国ハ之ニ関シ充分ニ相互了解スルヲ要ス一国ノ衰頹ニヨリ多国ノ劫久的ナル幸福ヲ招来スルヲ得ストナセリ

次ニ工業生産ノ問題ニツキ生産力ノ増加及生産ソレ自身ノ合理化ノ問題ハ個人並ニ全国家ノ購買力増加問題ト密接ナル關係ヲ有シ若シ生産品ノ販路ナキニ於テハ生産ヲ増加スルモ無益ナリトテ購買力ノ増加ヲ説キ工業品ノ販路ハ工業国ニ見出サル、コト多キヲ述ヘ半工半農ノ国ノ工業モ之ヲ存在セシムルノ理由ヲ述ヘ而シテ之等工業ニ必要ナル資本ヲ得ントスルニハ先ツ之ヲ保護スルヲ要スルカ故ニ通商自由ノ原則ハ常ニ必スシモ適用セラル可キモノナラストセリ

最後ニ世界殊ニ中欧ノ經濟復興ハ極メテ困難ナル問題ニシテ継続的ナル國際協調ヲ必要トシ之ニ基ク聯盟ノ財政經濟委員會ノ如キ組織ノ発達ヲ希ム

チンメルマン (Zimmerman) (和蘭)

欧ノ經濟狀態ト北米合衆國ノ經濟狀態トヲ对照シ合衆國カ今日ノ如キ赫々タル經濟的地位ヲ得タル原因トシテ其國ニ於ケル生産ト消費トノ大ナル統一即チ彼ノ广大無辺ノ地上ニ國境ナク習慣ト需要トカ常ニ同様ナルカ故ニ人ト商品トノ移動自由ニシテ且ツ豊福ナル国内市場ヲ有スルコトヲ指摘シ反之欧ニ於テハ戰後新興國ノ發生ヲ見生産者ト消費者トノ分

離市場ノ分割関税障壁ノ増加等經濟的關係ノ破壊ヲ来シ歐洲貧窮ノ原因ヲ招来セルコトヲ説ケリ次イテ戰後各国共多少工業国トシテ存在ヲ有スルニ至リ自給自足ノ傾向ヲ生シタルカ故ニ歐洲ハ從來ノ輸出政策ニノミ頼ルコト不可能トナリタレハ其生産品ノ捌ケ口ハ之ヲ国内市場ニ求メサル可カラサルニ至レリ之カ為労働階級ノ生活標準ヲ高メ購買力ノ増加ヲ図ルコト並ニ中央諸國間ノ經濟的協調ヲ確定スルコトノ必要ヲ力説セリ

且ツ氏ハ欧ノ經濟的不安ノ其他ノ原因トシテ戰時負債等ヲ片付ケル為ノ財政的負担ト極端ナル社会的法制ニヨリテ職業ノ自由ヲ制限スルコトノ二ヲ挙ケタリ

フランウンドリッヒ夫人 (Freundlich) (奧太利)

先ツ現今世界經濟狀態ノ主タル特長トシテ個人生活並ニ國民經濟ノ不安ヲ挙ケ其原因トシテ過度ノ財政的負担及関税率ノ二ヲ指摘セリ次イテ國際「カーテル」及「トラスト」ニ付

國際間ノ「カーテル」及「トラスト」ハ市場ヲ組織シ各国工業間ニ生産ヲ分配スルノ利益アルモ他方労働条件並ニ價格安定ニ対スル脅威ニシテ労働者消費者ニ対シ甚タ不利益ナレハ之ニ対スル有効ナル国内的及國際的ノ監督方法ヲ設クルコト必要ナリトシ更ニ生活条件ト農業生産トノ關係ヲ述ヘ農業組合ト消費者組合トノ間ニ直接關係ヲ設クルコトノ必要及或常設機關ヲ設ケ社会各階級殊ニ消費者階級カコ、ニ代表セラル、コトノ必要ヲ説キ世界經濟協調ニ対シ女性ノ努力ノ看過ス可カラサルヲ力説セリ

シーメンス (Von Siemens) (独逸)

戰前ニ於ケル國際會議ハ具体的問題ノ解決ヲ目的トシタルカ本會議ハ經濟生活力戰後ノ新条件ニ如何ニシテ適合シ得ルヤヲ研究スルタメ經濟生活ノ全般ニツキ研究セントスルモノナリトシ其適合ノ容易ナラサル所以ヲ説キ此經濟危機ハ各

国民ニ生産増加ノ必要ヲ感セシメタルコトヲ述ヘ更ニ農工業ハ相互ニ相俟テ繁栄スルモノニシテ殊ニ戦後新国境ノ設定後各経済ノ範圍ニ於テ皆斯ノ如シ各政府ノ為ス可キ重大ナル仕事ハ国民ニ出来ル丈高ク且ツ安全ナル生活標準ヲ与フルコトナリトシ不安並ニ急激ナル変化ヲ以テ経済活動ヲ害ストシ凡テノ反経済的障害ヲ除クハ政治家ノ役目ナリト述ヘ本会議カ或勧告ヲ採用シ此勧告ノ実行セラル可シトノ確信ヲ世間ニ与フルナラハ大ナル成功ナリト云ヘリ

次ニ「インフレーション」及国家ノ過度ノ干渉ノ悪影響ヲ説明シ更ニ失業問題ニツキ失業ハ欧工業ノ合理化ヲ必要トスルト同時ニ之ヲ阻害スル労働ノ騰貴ニヨリテ生シタルモノニシテ又失業問題ハ機械使用増加ト密接ナル関係アリトシ更ニ「シーメンス」氏ハ工業協定ハ第一関係国内部ニ於テ各工業カ協調了解スル慣習アルニアラサレハ形成シ得ラレス第二国内團結ハ工業ノ利害関係者ノ数カ余リ多カラス且ツ種々ノ企業ノ生産量カ少クトモ最少限度ニ達セルニアラサレハ構成シ得ラレス要スルニ協定ハ明確ニ定メ且ツ比較シ得可キ商品ヲ目的トセサルヲ得スト

又「オルガニゼーション」ハ万能業ノ如クニ考ラル、モ経済技術ノ進歩ハ先ツ個人ノ絶ヘ間ナキ労働及其努力ノ成功スヘシトノ確信ニ基クモノナリトシ更ニ各経済関係ニ重要ナルコト、シテ同一言語ヲ語ルノ必要ヲ説ケリ尚鉄通税率關稅率ノ統一ヲ必要シ国際協力ノ利益ヲ力説セリ

志立 (日本)

本會議ノ問題ハ歐洲ニ關スルモノ多キモ日本ハ之ニ協力ヲ惜ムモノニアラサル旨ヲ述ヘ日本ノ資源ノ欠乏人口稠密原料輸入製品輸出等ノ理由ニヨリ關稅障壁ノ撤廃及通商自由ヲ主張スル所以ナリトシ又日本ノ占ムル特殊地位ヨリ支那ノ平和恢復ヲ希望シ其ノ大資源開發セラレ各國華府會議ノ成果ヲ享受センコトヲ望ム旨ヲ述ヘ更ニ産業ノ振興ニハ一國生産力ニ有害ナル庄田租稅負擔ノ輕減ヲ第一義トシ殊ニ軍事費削減ハ通商障害除去ノ第一段ナリトシ經濟發展ノ障害トシテ差別的關稅人及貨物ノ不衡等待遇ヲ挙ケ之レニ對シ各種企業ノ自由ニヨル天然資源ノ開發食料品及學科品ノ公平

ナル分配交通ニ於ケル平等取扱沿岸貿易自由ノ許与關稅障壁撤廃通貨安定ノ為ニ努力ス可キト共ニ若シ歐米諸國ト東洋トノ間ニ生産消費ノ調整ヲ實現シ得ハ經濟の繁榮及人類ノ幸福ヲ増進シ得可シト述ヘ日本最近ノ財界ノ危機ニツキテ説明スル所アリ最后ニ要スルニ戦後各國ノ保護政策原料品ノ独占及人口ノ不当分布ノ三事實ハ世界平和ノ障害ニシテ此三點ニ關シ研究解決ノ途ヲ講スルコト目下ノ急務ナリト結ヘリ

ウルヂュア (Urzu) (智利)

先ツ各國カ經濟復興ニ關シ科學的の原則ニ準拠スルコトヲ忘却セルヲ非難シ關稅障壁ノ撤廃ヲ叫フト共ニ工業ノ進歩發達ノ原因タル『競争』ヲ禁シ若クハ之ヲ薄弱ナラシメントスルノ提案ニハ反對ナリトシ其原因トシテ競争ハ中央官憲ノ干渉ナク自働的ニ生産ヲ社会ノ必要ニ適合セシメ價格低減ヲ確實ナラシメ独占ニ對シ消費者ヲ保護シ惡經營ノ企業ヲ淘汰スルコト等ヲ挙ケタリ次ニ中小工業カ經濟的の平和維持ニ貢獻スル所ヲ説キ大工業者ノ為ニ中小工業ヲ犠牲ニス可カラサル旨ヲ述フ

更ニ移民ニツキ天恵無限ノ富ヲ有スル南米大陸ハ未タ之カ開發ニ必要ナル二要素——資源ト労働——トニ欠如セル一方歐ニ於テハ多数ノ労働者カ失業ニ苦シメル矛盾ヲ説キ移民ニ對スル直接間接ニ反對セリ最后ニ通貨安定ニツキテ不換紙幣ノ惡影響ヲトキ實現ニハ困難ナルトモ各國カ一樣ニ固有の価値ヲ有スル一定ノ貨幣ヲ有スルニ至ランコトヲ希ム旨ヲ述ヘタリ

マックス ミュプラット (Sir Max Musprat) (英國)

英國ノ地理的の歴史的地位ノ理由ニヨリテ海外貿易輸運動ハ他國ニトリテヨリモ英國ニトリテ遙ニ重大ナル事實ニ基キテ英國ノ經濟狀態ヲ詳細ニ説明シ元來輸出入ニ於ケル英國ノ支払方法ハ其對外輸出及對外投資利益ナリシトコロ戦後世界

購買力ノ減少並ニ世界通商關係ノ障害ニヨリテ此英國ノ經濟生活ハ著シク攪乱セラレタリ故ニ英國ハ經濟條件ノ安定及全世界ニ於ケル購買力ノ復活ニ最モ大ナル利害ヲ感スルモノニシテ此目的ヲ達スル為ノ合理的ナル誠ニハ英國ハ衷心ヨリ援助ヲ与フ可キ旨ヲ述ヘ更ニ英國内部ノ狀態ヲ説明シ失業問題カ憂フ可キ陰影ヲ投シ居リ又各國ニ於ケル關稅率ノ累次ノ變更及其複雑ナルコトハ英國ニトリテ大ナル脅威ニシテ英國ハ其完全ナル自由貿易ノ政策ヲ變更セサルヲ得サリシヲ述ヘ之等諸問題ノ改善ヲ目的トスル提案ニハ亦大ナル援助ヲ惜シムモノニアラスト

デュボア (Dubois) (瑞西)

戰時中交戦国ニ囲レ海トノ關係ナク原料品薪炭食料品ニ欠如セル瑞西ノ經濟的地位ヲ述ヘ更ニ為替ノ變動ニ對スル安全策ハ政府及中央銀行ノ干涉ニヨル一時的ノモノタルヘカラス更ニ徹底的ノモノタルコトヲ要ストシ經濟上ノ復興工業協定及為替ノ安全ハ健全ナル貨幣制度ノ下ニ於テ認メテ實現セラレ得ラルモノナリトセリ次ニ經濟的不安定ノ一原因トシテ現今ノ通商條約ノ有効期間ノ余リニ短期ナルヲ指摘シ之カ為ニ商工業ハ事業ノ經營方針ヲ立ツルヲ得サルニ至レルヲ述ヘ關稅制度ニ言及シ輸入ヲ制限セントスル傾向ノ最モ危險ナルヲ說キ殊ニ大國中ニ此傾向アルカ故ニ小国ニ及ホス影響ニツキテ注意ヲ喚起シ更ニ國際經濟協定ニヨリ生産ノ安定ヲ得可シト認ムルモ之レニヨツテ價格ヲ騰貴セシメ消費者ノ購買力ヲ減少セシメ生活費ヲ騰貴セシム可カラス

本會議ハ協定ノ精神ヲ以テ國家間ノ通商關係其他ノ經濟關係ニツキ更ニ自由ナル思想ニ歸ル様各國ニ勸告スルノ要アリトス

レオン ジュオー (Leon Jouhaux) (仏蘭西)

今迄労働者ハ絶ヘス人民ノ經濟協調ノ必要ヲ称ヘ來タレリトテ「ベルヌ」及華盛頓ニ於ケル労働者ノ活動及國際労働會

議及事務所ノ為シ來レル所ヲ説明シ聯盟カ數年前智的協力委員會ヲ設立セルカ如ク新經濟政策ノ為ニモ之ト同様ニ經濟協力委員會ノ如キ經濟的國際機關ヲ作ル要アリトシソレニツキ二点ニツキ各員ノ注意ヲ促ストテ

(一)本會議ニ於ケル労働者ノ代表ハ聯盟理事會ノ指定シタルモノニアラサルコト

(二)労働者階級ハ此會議ハ或重要ナル諸点ニツキ條約ヲ締結スルニ至ル可ク此條約ハ參加國政府ヲシテ其條約ニ從ヒテ其經濟政策ヲ決定スルニ至ラシム可シト思考スルモ此條約カ果シテ締結セラル、ヤ否ヤ疑問ナルコト

ノ二点ヲ挙ケタリ次ニ工業ハ市場ノ購買力不十分ナル為ニ苦シミ且ツ之カ為ニ失業狀態ヲ惹起セルヲトキ保護主義實銀抑圧政策ヲ攻撃シタル後今日ノ經濟的危機ニ對スル有効ナル解決ハ各國家ノ特殊ノ行為ニ期待スルヲ得ス各國家ノ協調的努力ニヨリテノミ之ヲ発見シ得可シ農業生産ト工業生産トノ間ニ於ケル不均衡ノ問題工業生産合理化ノ問題工業協定ノ問題殊ニ労働移民ノ問題ト前述ノ如キ精神即チ協調相互理解國際條約ヲ以テシテ初メテ解決シ得ヘシト本會議カ今後永ク其存在ヲ繼續シ其希望ノ實現ヲ確実ナラシムルタメ次ノ如キ決議案ヲ提出セリ

自主的經濟組織カ聯盟ノ中心ニ設立セラル可ク主トシテ次ノ要素ヲ以テ構成セラルヘシ

一、經濟ノ各項(財政工業農業商業労働組合消費等)ニ於テ各政府ヨリ任命セラレ但シ此政府ヨリ何等命令的委任ヲ受ケサル委員ヲ以テ組織セラル諮問會議ヲ作ルコト此諮問會議ハ定期的ニ少クトモ三年ニ一度開會スルヲ要シ決議又ハ勸告ノ方法ヲ以テ其行動ノ方向ヲ執行機關ニ指示ス

二、十八名ヨリ成ル國際經濟理事會中十二名ハ聯盟理事會ニヨリテ指定セラレ各異レル國ヲ代表シ世界ノ經濟ヲ構成スル各異レル利害ヲ代表スルヲ要ス他ノ六名ハ資本家ト労働者ト等シキ割合ヲ以テ國際労働理事會ヨリ之ヲ集ムルコト

三、國際經濟理事會ハ早晚議事日程ニ上セラル可キ種々ナル經濟問題ヲ研究スルタメ必要ナル凡テノ技術的委員會ヲ設定ス理事會ハ委員會ノ意見ニ基キ特別ノ專門會議ヲ招集スヘク此特別會議ノ委員ハ政府ノ任命委任ヲ受ケ理

事会ニヨリテ議事日程ニ上サレタル問題ニ関スル国際条約ヲ作ルコトヲ得

四、理事会常設の事務局ヲ有ス可ク其ノ首班ニ理事会ニヨリテ任命セラレタル「ディレクター」ヲ有ス理事会及其事務所ハ聯盟事務局ト密接ナル關係ヲ有スヘク且ツ現ニ存シ又ハ将来創設セラル可キ国内經濟理事会ト絶ヘス情報ヲ以テ關係ヲ繼續スヘシ

此ノ如キハ高キ文明幸福平和ニ向ハントスル民族的希望ノ具體的ノアラハレナリト結ヘリ

コリヂン (Colin) (和蘭)

現今欧ニ於ケル經濟的難局ノ原因トシテ通商關係ニ於テ自由ノ欠乏セル旨ヲ説キ關稅障壁輸出入禁止通商條約新關稅率ノ複雜ノ如キ諸點ノ改革ヲ力説シ先ツ關稅障壁ニツキ之ハ精製品ノ價格騰貴ヲ來シ人民ノ購買力ヲ害スルカ故ニ關稅ハ財政上ノ必要及国内生産品ヲ輕度ニ保護スルニ止ムヘシトシ次ニ通商條約ニツキ現今ノ條約ハ極メテ短期ニシテ之カ通商關係ヲ害スルコト少ナカラス又最惠國條項ハ其學術的意義ハ明瞭ナルモ其實行ハ充分ナラスシテ通商ヲ害スルコト多ケレハ此解釈ヲ共通ナラシムルヲ要ストシ新關稅率ノ作成ニツキモ其分類 (Nomenclature) ヲ簡單ニスルヲ要スト述ヘタリ

チボー (Tibaut) (白耳義)

其地理的狀態ヨリ白耳義ハ自足スルコトモ亦其生産品ヲ凡テ消費スルコトヲモ出來サル故勢市場ヲ外國ニ求メサルヘカラサルニ至ル狀態ヲ述ヘ從テ白耳義ハ直接又ハ間接ノ保護主義ニ直接ノ利害ヲ感シ人工的障壁ニ凡テ反對スルモノナリト声明シ國際工業協定ノ成立ヲ希望シ此工業協定ノ多クナルニ從ヒ從來ノ保護主義ハ万能藥ナリトノ僻見ヲ打破スヘシト述フ

次ニ白耳義ニ於ケル農業狀態ヲ詳述シ白耳義ノ如ク集約農業ヲ實行スル國ニ於テハ一切ノ障害ノ結果ニ苦シムコト最も甚シキヲ述ヘ白ノ農業ハ事實工業ト同様一種ノ agent de transformation ニシテ從テ白國農業ハ相互主義ニ基ク通商自由及一切ノ障害ノ除去ヲ希望ストシ本會議ニ於テハ主トシテコノ工業ノ母一切ノ文明ノ母タル農業ニツキテ論議ヲ重ヌルヲ要スト結ヘリ

ダクンハレアル (Da Cunha Leal) (葡萄牙)

今日世界ノ政治經濟的団体ハ自足センコトヲ希フモ今日完全ナル獨立ハ不可能ニシテ凡テ相互扶助ニヨラサル可カラサルヲ述ヘ國際經濟間ノ接近ノ必要ヲ力説シタルモ工業「カルテル」ノ危險ナルヲ述ヘ生産者間ノ協定ノ方法ニヨリテ歐洲ノ生産ニ秩序ヲ立テントスルニハ其協定カ各國家間ニ於ケル一般的經濟協定ニ基礎ヲ置クコトヲ求ス凡テ關稅結合ニ基ク國家間ノ經濟上ノ接近ハ工業的ニ危キ國ニ利益ヲ与フモノナリトス

經濟接近及國際協調ハ三段ニ分ケ餘々ニ之ヲ得ルノ外ナシ第一段ハ關稅ノ分類 (nomenclature 及 classification) ノ統一及關稅率制度ノ統一ヲ實現スルコト第二段ハ關稅ハ各國ノ工業的資源ヲ保護スルタメニ之ヲ決定ス可キコト第三段ハ食料品馬糧原料品ハ独占セラレス又輸出税又ハ差別待遇ノ目的トナラサル故ニ同一ノ原則ヲ輸入稅率ニモ適用スルコト更ニ經濟復興期ノ間紙幣流通ニツキ各國家ヲ援助スル為各國ノ發行銀行間ニ一ノ協定ヲ實現シ得可ク又復興ノ目的ノ為ニ國際借款政策モ推挙シ得可シトセリ

サー ノーマン ヒル (Sir Norman Hill) (英國)

其從事シ來レル運輸並ニ交通問題ニツキ戰爭以來之カ為ニナサレタル努力ニツキテ説明シ船舶所有者ハ運賃ノ自由市場ニテ直接競争ヲナス為ニ其運賃ハ貧シキ購買者ニモ之ヲ負担シ得ル程ニ低減セラレタリカクシテ船舶所有者カ事態ノ重

大ナルヲ感知シ茲ニ聯盟規約第二十三条ヲ実施スルノ必要ヲ生シ其結果トシテ一九二一年ノ「バルセローナ」ノ条約トナリ船舶積荷ノ自由平等ヲ確保スルコトトナレルヲ説キ一九二二年一九二三年一九二六年ニ於ケル運輸交通ニ関シ締結セラレタル諸条約ヲ称揚シ此等諸条約カ速ニ批准セラレ国際運輸ノ円滑トナランコトヲ希望セリ

且ツ運搬事業ハ聯盟規約カ凡テノ聯盟国ニ対シ通商自由通過物品ノ衡平待遇ヲ確実ニスル為或ル処置ヲトル可ク命センコトヲ希望スル旨且運搬事業ハ世界ノ生産者並ニ消費者ノ為ニ存スルモノニシテ政府ニヨリテ高メラレタル通商上ノ障害カ如何ニ通商ヲ阻害シ居ルカハ運送事業ノ範圍ニ於テ極メテ明瞭ナリト説ケリ

ブリエバ (Brieba) (智利)

現今ノ社会的不正ヲ無視スル時ハ文明ノ脅威ヲ来スヘシトシコノ社会的不正矯正策トシテ未開發及現存ノ天然資源ヲ開發シ之ニヨリテ非生産国ヲ変シテ生産国タラシメ生産国ノ能率ヲ増進セシムルコトヲ挙ケタリ而シテ之ニ必要ナルハ先資本ニシテ之ヲ得ルニハ最高ノ信用ヲ有スル国際的組織ヲ設立シ之ニ凡テノ小資本ヲ集メ投機ヲ禁シ生産増加ニ協力セントスル国ニ投資スルノ方法ニヨル可キモノトセリ

ロビンソン (Robinson) (米國)

國家間ノ通商ニ於ケル制限並ニ差別待遇カ健全ナル国際通商ノ自由及通商ニ必要ナル諸条件ノ恢復ヲ妨ケル最モ大ナル障害ヲナスモノナリトシ又関稅率ノ不規則ナル變更種々ナル制限ノ増加ノ弊害ヲトキ衡平待遇コソ通商ヲ単化シ國際間ノ種々ナル衝突ヲ禁スルノ手段ナリト述ヘ更ニ北米合衆國ノ經濟狀態ヲ詳細ニ説明シ米國ハ其人民ノ比較的豊富ナル購買力ノ才陰ヲ以テ比較的ニ繁榮シ居ル一方運輸ノ發展ト機械応用トヲ以テ生産能力ヲ増加シ引キテ人民ノ消費力ヲ増加シ労働者ノ地位ヲ安定スト述ヘ安全及簡單化ノ第一階程トシテ「トラスト」ヲ挙ケ「トラスト」ハ当初其力ヲ利用シタ

ル傾向アリ立法的監督ヲナスノ余儀ナキニ至レルモ実ハ立法的監督ヨリモ民衆ノ教育及「トラスト」指導者ノ教育カ監督方法トシテ重要ナル旨ヲ述ヘタリ

次ニ価格ノ低減ニツキ管理ノ改善機械ヲ以テ労働ニ代フルコト種々ナル情報ノ自由交換ニヨリテ價格低減ヲ實現セル次第ヲ陳ヘ初メ労働者ハ機械応用ニ反対ナリシモ企業主ハ管理ヲ改善シ生産費ヲ減シテ労働賃金ヲ高メルコトヲ力メタル故ニ労働者ハ却テ機械応用ヲ希フニ至レリコノ生産法ノ改善經費ノ減少賃金並ニ消費ノ増加ハ主トシテ此北米合衆國ノ広大ナル地上ニ関稅モ差別待遇モナキニヨルコトハ明ナルモ一方又企業主商業會議所組合等ノ作レル公表方法ニモヨルモノナリ即チ大部分ノ工業ニテハ所謂商売ノ秘密ト云フモノナシ製造及分配等ノ新方法ハ製造者間ノ会合ニ於テ直チニ公表セラルカカル組織及監督ノ發達ハ労働者ヲ單ナル労働階級ヨリ或企業ノ責任アル地位ニ向上セシメントスル運動ニヨリテ大イニ刺戟ヲ受クル所アリトシ今日雇主ト被用人トノ間ニ存スル友好ナル關係ノ維持ニ力ム可キコトヲ旨ヘ更ニ「カーテル」ノ方法ニヨリテ歐ノ經濟問題ヲ解決セントスルノ提案ニ関シ米國代表ハ元來工業ノ國際的團結ハ之ヲ利用スヘキモノトハ考フルモヨク之ヲ監視セサルニ於テハ此運動ハ独占若クハ民衆ヲ利用セントスルカ如キ憂フ可キ方向ニ向フノ虞アリト結ヘリ

リドベック (Lydbeck) (瑞典)

戦前最惠国條款カ國際通商基礎ニシテ此條款ノ存在カ戦前ノ各通商条約ノ共通ノ特長ナリシ旨ヲ述ヘ今日ニテモ最惠国條款ヲ基礎トスル通商条約ハ世界通商ニ利益ナル可シト考フルモ今日各国共自ラハ利益ヲ得ルニ汲々トスルニ反シ他國ニ之ヲ与フルヲ好マサル傾向著シキ故ニ最惠国條款ノ原則ノ必要ヲ認メツ、其正確ナル実行ヲ見ルヲ得サルコト多キカ故ニ条約ニヨリテ國際通商關係ヲ規律セントスル普遍的統一セラレタル制度ヲ得ルコト困難ナリトシ関稅率ニ關スル事項ニツキ最惠国條款ノ解釈並適用ニツキ國際協定ヲ締結センコトヲ提議ス

バルボーザ カルネーロ (Barboza Carneiro) (伯刺西爾)

欧ノ経済的難局救済ニ際シ最モ注意スヘキハ欧ト其ノ他大陸トノ相互扶助關係ナリトシ欧ノ繁榮スト否トハ伯刺西爾ニ多大ノ影響ヲ及ホストテ其相關々係ニツキ次ノ三点ヲ例示セリ

- 一 伯刺西爾ノ如キ大陸ニトリテハ移民運動ハ甚タ歡迎ス可キモノナルト同時ニ歐洲ニトリテモ甚タ好都合ナレトモカ、ル運動ハ之ヲ形成スル各人カ移入国ノ種々ナル条件ニ適合スルヲ要ス
- 二 欧ヨリ其海外国ニ供給スル原料品ノ原価ノ變則ヲ除ク方法ヲ探究スルヲ要ス
- 三 不正競争又税関ニ於ケル誤レル申告ノ如キ詐欺的行為ヲ除クコトハ其直接ノ結果ヲ受クル国ニトリテ有益ナルノミナラス其他ノ諸国ニトリテモ有益ナリ

フォンテーヌ (Fontaine) (國際労働事務局理事長)

國際労働事務局ト此經濟會議トノ間ニ存スル密接ナル關係ヲ示シ前者ノ目的モ後者ト同様世界ニ經濟的平和ト社会的正義トヲ設立セントスルニ在リトシ元価ヲ増加センカ為種々ノ社会的設備實行サレタルカ此目的ノ為ノ関稅ハ姑息劑タルニ止ラス北米ノ市場ノ如キ国内市場ヲ有セサル歐洲諸国ニトリテハ屢々危險ナリ關稅問題及通商條約ノ兩問題ハ極メテ複雑ナレトモ經濟的平和及社会的正義ノ確立スルト否トハ此兩問題ノ解決如何ニ在リト「ウイルソン」十四ヶ條ノ第三点——「世界ノ平和維持ヲ欲スル各國間ニ一切ノ經濟障壁ヲ廢シ通商条件ノ平等ヲ設立スルコト」——ニ諸員ノ注意ヲ促セリ次ニ雇主モ労働者モ一般的利益ノ為ニ商工業ヲ更ニ合理的ニ整頓シ衛生的ナル労働条件ヲ以テ生産能率ヲ増加シ一週四十八時間大イニ働キテ自由ヲ得ル目的ヲ以テ國際工業協定ヲツクルコトヲ目的トセルコトヲ述ヘ次ニ國際労働事務局ニ於ケル各組織ヲ説明シ之レ何レモ經濟平和一般的繁榮ノ復活ヲ目的トスルモノナリト述ヘタリ

ドミケリス (De Michelis) (万国農事協會長)

万国農事協會ノ目的ハ經濟的進歩、生産技術ノ發達、經濟危機ノ原因除去ニ対スル国民ノ協力一致ナリトシ農業ハ長期ニ亘ル計画ヲ立テ、活動スルモノナルニ拘ラス長契約ノ締結不可能トナルニ於テハ農業ハ最モ之ニ苦シムモノナルヲ述ヘ現今資本欠乏シ随テ極メテ高利ナルカ故ニ國際農業信用ノ問題ノ提起セラル、次第ヲ説明シ更ニ工業生産品カ豊富トナリ安価トナラサレハ反對ニ農業者ハ其生産ヲ制限シ高キ価ヲ得ントスルニ至ル可ク此問題ハ農業失業問題及労働ノ平均分配ノ問題ヲ惹起ストテ工業生産増加ノ必要ヲトク

次ニ農業ニ於テハ工業ニ於テ力説サル、組合運動ヨリ余程カケ離レ居ルモ農業者ヲ強制シテ此方向ニ向ハシムル不可ニシテ彼等自身ノ固有ノ利害ヨリ刺戟セラレテ自発的ニ之ニ向フヲ要スト云ヘリ

リーグ (Rygg) (諾威)

長期ニ亘ル自由ニシテ安定のナル通商政策ヲ建ツルカ如キ國際條約——形式ヲ確定スルカ本會議ノ重要ナル仕事ノ一ナリトシ最惠國條款ヲ戰前ノ如キ状態ニ帰ラシメ之ヲ有効ニ利用スルノ必要ヲトキ各國船舶ノ交通自由衡平待遇ノ主義ヲ實現セル一九二三年ノ海港條約ノ締結ヲ賞揚セリ

次ニ現今ノ独占的傾向ノ問題ハ各國個々ニ解決ス可キモノニシテ本會議ニ於テ之ニ關スル決定的ナ結果ヲ得ルコト困難ナルヘク唯各國ヲシテ更ニ自由ナル政策ヲトラシムルコト肝要ナリト

ドパラナガ (De Paranaqua) (伯刺西爾)

歐洲諸國ノ間ニ特惠關稅ヲ設ケントスルノ計画即チ歐洲ノ市場ヲ歐洲生産品ノ為ニノミ保有スヘシトノ計画ハ數年來稱

ヘラレ甚タ有効ナルカ如ク見ユルモ此傾向ハ會議ノ國際協調ノ精神ニ反シ各大陸毎ニ異レル特別ノ税率ヲ設ケシメ世界ノ經濟平和ヲ極端ニ攪乱スルノ危険アレハ本會議ハ之ニツキ慎重研究ノ要アリト説ケリ

チュアンチャオ(支那)

支那ノ欲スル所ハ保護貿易自由貿易或ハ國際的商業協定ノ何レニモアラス実ニ其經濟的自主權ナリトシ支那ノ政治經濟上ノ不安定ハ支那カ此經濟的自主權ヲ得サルコトニ基クモノナリトシ列國カ未タ支那ニ華府條約ノ定ムル附加税ノ実施ヲ許サルカ如キハ舊ニ支那ヲ各國商品ノ投売市場タラシムルモノナラス財政的ニモ困憊セシムル所以ナリ即チ中央政府ハ地方各省ニ財政的援助ヲ与ヘ得ルノミナラス地方動乱ニ當リテモ之カ鎮圧力ヲ欠キ其結果支那政界ノ不安定ヲ助長シツ、アリト述ヘ更ニ支那ノ經濟的自主權カ確立セラレサル限り外國資本家ハ支那ノ不安ヲ恐レ支那政府及國民ハ外國資本ノ背後ニ國旗ノ追従シ来ルヲ恐ル、ヲ以テ支那富源ノ開發ニ必要ナル資本ハ之ヲ得ルコト難カル可ク又支那國民購買力ノ増進並失業問題ノ解決モ亦經濟的自主權ノ恢復政治狀態ノ安定ト關係アリトテ支那ノ經濟的自主權確立ノ希望ヲ表明セリ

レイトン (Layton) (英國)

世界一般特ニ歐洲ニ於テ戰爭ニ起因スル各方面ノ損害カ次第二戰前ノ狀態恢復セラレタル原料品食料品ノ生産通商關係等ヲ例示セリ

但シ歐洲ノ經濟的地位ヲ戰爭前ノ狀態ニ復歸セシムルコトノミヲ以テ目的トスルハ不可ニシテソレヨリ更ニ根本的ナル改革ヲ実行ス可キ必要アリトシ其理由トシテ第一ニ世界各国ニ於テ技術的智識ノ發達交通機關ノ發達資本ノ分散等ノ為ニ甚タシク工業化ノ傾向増加シ之カ為從來歐洲ヲ利シタル特惠的地位ハ急速ニ變動シ茲ニ全然新タナル歐洲ノ均衡ヲ樹

テサル可カラサル狀態ニ在ルコトヲ指定シコノ世界生産力ノ新タナル分配ハ單ニ戰爭ノ結果ニアラスシテ數十年來ヨリ存スル傾向カ戰爭ニヨリテ強メラレタルニ止ルトシ第二ニ米國カ資本輸出國中ニアラハ来レルコトヲ拳ケ米國ノ資本輸出ノ狀況ト戰前ノ英國ノ資本輸出ノ狀況トヲ比較セリ第三ニ各國間ニ於ケル人民ノ移動及分配ノ變更ヲ拳ケ戰爭以來歐移民ノ減少セルコトヲ述ヘ最后ニ戰爭ノ賠償及戰時國際借款ノ整理ニ次キ各國間ノ通商關係ニ變更ヲ生シタリ其他歐ニ特有ナル原因アリトテ第一「ロシア」ニ於ケル急激ナル變化ヲ拳ケロシア代表カ現今ノ經濟狀態ニ於テ「ロシア」ノ國際貿易カ戰前ニ復歸スル見込アリヤ否ヤヲ指示センコトヲ希望シ第二ニ中歐カ數ヶノ小國ニ分割サレ歐ニ於ケル關稅障壁ヲ増加セルコトヲ拳ケ之カ為ニ資本ノ損失及通商ノ減退ヲ来セルコトヲ示セリ

カクノ如キ變更アリタルニヨリ本會議ハ本質的ニ可憐ニ直面セルモノトシ會議ニ於テ作成スル勸告ハ少ナクトモ三ノ一般的思想ニ基クコトヲ要ストテ次ノ如キ三点ヲ指示セリ

一 歐洲諸國ノ相互的關係ハ極メテ密接ニシテ經濟的繁榮ノ復興及滅亡ニツキテ各國皆其運命ヲ共ニス

二 物質的幸福ヲ得ルカ為ニハ唯經濟的の生産ニヨルノ外ナク生産制限ニヨリテ利益ヲ得ントスル工業等ハ決シテ劫久的繁榮ヲ招来スルモノナラス

三 歐ハ若シ其經濟的組織カ單ニ特別ノ企業間ノミナラス各國家間ノ一ノ特別化(Specialisation)ヲ許スニアラサレハ自ラ其工業ノ進歩ニ伴フテ行クヲ得サル可シ即チ國際貿易カ増進セラレサルヘカラサルノミナラス經濟的相關々係ハ益々強調セラレサル可カラサルヲ云フモノナリトシコハ單ニ關稅政策ニ於テ第二義的ナ變更ヲナスコトニヨリテ得ラルノモノナラス現存税率ノ實質的ナル減縮ニヨリテ得ラル可キモノナリト説ケリ

更ニ本會議ノ目的ハ單ニ協力ノ為ノ一ノ組織ヲ作ルコトニヨリテ到達セルモノナラストテ「シュエーデン」氏ノ提議ニ反對シ且ツ將來ノ經濟關係ハ孤立政策ニヨル可キカ協調政策ニヨル可キカハ會議ノ決定ス可キ所ナラス唯本會議ニテハ此兩政策ヨリ生スル結果ハ如何ナルモノナリヤヲ示ス可キモノナリト述フ

メー (May) (Secretary of the International Cooperative alliance)

本会議ノ開催ヲ喜フト共ニ組合運動 (Mouvement coopératif) ノ發達ニツキ簡單ナル經過ヲ述ヘ其政策ニ関スル宣言中ニ組合員ハ労働ノ國際的分割ヲ以テ人類進歩ノ必要条件ト認メ國家的排外主義ノ傾向ヲ排除シ通商自由ノ助長ニ賛意ヲ表スル旨ヲ述ヘ個人的利益ニ基ク一切ノ形式ノ競争ニ反對シ相互扶助ノ精神ニヨル可キヲ説ケリ

次ニ組合運動ノ效果ニツキ此運動ハ物品交換ヲ規則的ニ且ツ安定ニシ投機ノ乱用ヲ禁シ独占及國際「トラス」ヲ監督スルタメニ有効ナル手段ヲトリ各國間ニ天然資源ノ分配ヲ公平ナラシムル傾向アリトス更ニ通商條約ノ増加ヲ希望シ工業發展ヲ確實ニナラシムル為ニ長期ノ條約ニ改訂スルヲ要ストセリ

マッスヒュー (Matthews) (加奈陀)

戰爭終期ニ於ケル加奈陀ノ經濟狀態ヲ農業ノ見地ヨリ述ヘ加奈陀ニトリテ重大ナル經濟問題トシテ第一農業ノ生産品ノ為ニヨリ広大ナル市場ヲ見付ケルコト第二市場ノ擴張ニ從ヒ加奈陀ニ多クノ小作人ヲ吸收シ之ヲ適當ニ分配スルコトノ二点ヲ挙ケ其第一点ニツキ加奈陀政府ハ生産品ノ衡平交換ノ為ニ他國ト商議スルコトヲ希望スト述フ

ソヌ (Sonne) (丁抹)

自由貿易の傾向ハ自由論者ニヨク歡迎セラル、モ政治家ハ關稅障壁ノ撤廃ヲ困難ナリト思考ス本會議ノ努力ヲ以テ此悲觀說ヲ變更シ得可シト丁抹農民ハ自由關稅政策ノ發達ヲ歡迎スルモノナル旨ヲ述ヘ國際協調ノ重要ナルヲ説ケリ

更ニ生産費ハ農業生産品トノ價格トノ間健全ナ自由ナル關係ナカル可カラス此結果ハ價格増加ニヨラス生産費ノ減少ニヨリテ得ラル可シト結ヘリ

ハインドル (Heindl) (壤)

聯盟カ壤國ノ財政復興ニ力メタルニツキ感謝シタル後今日尚存在スル個人主義的政策ハ小國ノ經濟ノ尋常ナル發達ヲ不可能ナラシムル危險アリトシ本會議ニ於テ歐ノ經濟復興ノ事實トナル可キヲ望ムモ此復興ハ極メテ困難ニシテ大量生産カ丁度北米合衆國ニ於ケルカ如ク広大ナル經濟的地域ニ其ノ排ケロヲ見出スニアラサレハ實現ハ不可能ナリトシ凡テノ禁止制度ノ減少セラレンコトヲ希望セリ

バンティラ テ メロ (Bandeira de Mello) (伯刺西爾)

農業ニ於ケル危機ハ直チニ工業ニ反映ストテ經濟的危機ト農業トノ密接ナル關係ヲ説キ戰前労働者ノ新大陸移動ノ為ニ世界農工業間ニ存在セル衡平ナル關係ヲ述ヘ戰後歐洲カ新大陸ニ労働者ノ移出ヲ絶チタルヨリ農業労働者賃金食料品價格引キテ生活費ノ騰貴トナリ工業品購買力ノ減退ヲ来シ失業率ノ結果ヲ見一方歐ニテハ食料品ノ欠乏ニ苦シム時他方新大陸ニテハ労働不足ノ為其收穫ノ一部ヲ失ヒツ、アル狀態ナリト云ヒ此世界ニ於ケル労働ノ不正當ナル分配力今日ノ一般的危機ヲ惹起セルモノナリトシ本會議ニ於テ労働ノ合理的ナル分配即チ都市ニ集中セル過剩ノ人口ヲ土地ニ歸ラシムルノ方法ヲ研究ス可ク農業生産ヲ更ニ増進スルコトニヨリテ現今經濟狀態ノ改善ヲ期シ得可シト

サディック ヘニン パシャ (Sadik Henein Pasha) (埃及)

埃及国内ニハ事實上直接稅二服セサル外国人ノ一階級存スルコトヲ説キ之カ為ニ埃及ハ其財源ノ大部分ハ間接稅輸出入口稅ニヨラサルヲ得サルニ至リ又衣食住ノ必要品ニモ課稅スルノ余儀ナキニ至レルヲ述ヘ此財政上ノ制度カ埃及ノ購買力ヲ害シ其經濟的發展ヲ阻止シ教育衛生ニ必要ナル財源ヲモ得ラレサルニ至ルトシカ、ル制度カ廢セラレサル限り埃及ハ

其必要ナル財源ヲ得ルタメ関税率ヲ變更セサルヲ得サルヘシ国際商業會議所ハ内外人ノ衡平待遇ヲ勧告スルモ埃及ニ於テハ之ハ完全ニ行ハル、所ナレハ一方外人ト埃及人及外国人相互間ニ財政上ノ差別待遇ヲ存ス可キモノナラスト

ハディック (Hadik) (洪牙利)

戦後ノ経済的不均衡ノ主要原因トシテ一経済単位トシテ存在セシ奥匈国ノ瓦解及奥匈国人民カ極端ニ自給自足セントシ孤立政策トヲ挙げ戦時戦後ニ生シタル各種ノ障害ヲ除ク可キハ必要ナルモ自由貿易主義ハ国内生産保護ヲ空シクスルモノナレハ之ヲ採用スルヲ得ストシ之ニツキ聯盟財政經濟部ノ準備セル覚書第四十四ニ真価ヲ置クヲ得ストシ次ニ洪牙利カ諸外国ト締結セル通商条約及其輸出入ニツキテ説明スル所アリ

欧ノ経済復興ノ方法ニツキ先ツ外国モ其国内産業保護ノ政策ヲ放棄シ得サルコト及協調政策ヲ以テ孤立政策ニ代フ可キコトヲ念頭ニ置カサル可カラス又通常ナル経済状態ヲ得ルノ第一条件ハ貨幣問題ノ解決信用及資本ノ流通ノ自由ニアリトシ又通商条約ヲ改訂シ長期ノ条約タラシメ最惠国主義ヲ一般ニ適用シ一切ノ禁止及制限ヲ廃スヘシト述ヘタリ更ニ「カーテル」制度ハ国内工業ノ競争ヲ緩和シ市場ヘノ供給ヲ規律のナラシムルモ一方コレハ消費者農業者ヲ脅威スルモノナレハ注意スルヲ要ス工業ノ利益ヲ保護スルコト肝要ナレトモ農業ノ利益ヲ監視スルコトハ更ニ重要ナリト云ヒ最后ニ単ニ経済的方法ヲ以テ今日ノ事態ヲ改善シ得ルモノナラス先ツ吾人精神ノ安定ヲ図ルコトヲ要スト結ヘリ

ヘルメス (Hermes) (独逸)

世界ノ通商トハ要スルニ農産生産ト工業生産品及資本トノ交換ナル旨ヲ述ヘ農業カ世界経済ニ於テ重要ナル地位ヲ占ムル丈ニ現今ノ経済的危機ニ苦シムコトモ甚シキモノアリトシ合衆国カ從來欧洲ニ対シ与ヘ来リシ信用ヲ停止シタルカ故ニ欧洲諸国ハ其莫大ナル食料品ノ輸入ヲナシ得サルニ至リ農業生産品ノ価格ハ大イニ下落シタルモコハ生産過剰ノ結果

ニアラスシテ欧人民殊ニ工業従事者ノ購買力ノ低下シタルニヨルモノナリシカシ一九二四年ノ倫敦協定以来米國ノ信用ヲ得コレヲ以テ稍々人民ノ消費購買力ヲ恢復シ得レトモ尚価格ノ標準カ尋常ナラサルカ為通商上ノ不景氣アル次第ヲ述ヘ農業品価格トノ比較ヲナシ農業品ニ対スル購買力ノ減少ヲトキ欧ノ農業カ如何ニ不利益ナル条件ヲ以テ働キ苦シミツ、アルカラ説明シ此危機ノ根源ハ東欧ノ経済の生産力ノ減少中欧ノ経済的瓦解不生産の支出ノ為ニスル過重ナル負担ニ在リトシ大陸諸國ニ資本ヲ投下セントスルノ試モ極メテ緩慢ニシテ種々ノ困難ノ為未タ土地ノ生産力ヲ増加スルニ至ラスト云ヘリ

次ニ消費者ハ其収入ノ大部分ヲ食料品ニ費ス為自ラ農業生産ノ継続的增加ヲ希望ス又一方経済的均衡ハ国民一般ノ購買力増加ニ俟ツ可キ所農民階級ハ国民ノ大部分ヲナスモノナレハ先ツ農民ノ購買力増加ヲ図ルコト肝要ナリ加之農民階級ノ繁栄ハ其國工業生産品ヲ吸収シ其国内市場ヲ独立セシメ経済的均衡ノ破壊セラル危険ヲ見ルコト少シトテ農業階級繁栄ノ必要ヲ力説セリ

ソコロニコフ (Sokolnikoff) (ソヴェエツト聯邦)

「ソヴェエツト」聯邦ノ経済の将来ニツキ悲觀のノ予言ヲナシタル者ハ其大部分ハ事実ヲ誤解セルニ基クモノナリトテ數字ヲ以テ戦前戦後ノ工業生産ノ状況ヲ比較シ各工業ニ対スル資本投下ノ状態ヲ説明シタル後「ソヴェエツト」聯邦ノ経済的復興ノ目的ハ工業殊ニ大機械工業 (heavy industries) ノ發展ニ在リトシ「ソヴェエツト」聯邦ニ於テ普通行ハル、経済慣習ノ方法トシテ

- 一、聯邦ノ経済機關ニヨリテ各企業及生産各般ノ仕事ノ「プログラム」ヲ一致セシムルコト
- 二、各種ノ生産ニ於テ科学的手段ヲ強調スルコト
- 三、生産改善ニ対シ労働者カ大イニ刺戟セラレ経済復興事業ニ労働者及農民カ参加セルコト

ノ三点ヲ挙げ聯邦ニ於ケル農業ノ進歩ハ聯邦内ニ於ケル社会主義的經濟ト小私有財産制トノ共有ノ問題カ満足ニ解決サレタルコトヲ証スルモノナリトシ其農業ノ發展ヲ説明セリ

次ニ「ソヴェット」聯邦ハ種々農業信用ノ方法ヲ講シタルモ之カ一切ノ要求ヲ満足スルヲ得ス從テ農業失業者ヲ生シタルカ此ノ失業状態ハ西欧ノ工業カ聯邦ヲ信賴セス之ヲ排斥スルニ基因ス何トナレハコレヲノ工業国ハ聯邦ノ市場ノ要求スル所ヲ拒絶スル故ナリトシ此失業状態ハ一時的ノモノニシテ「ロシア」ノ農業ハ近年次第ニ近代化サレテ其發展ヲ期待ス可キモノアリ「ソヴェット」政府ノ政策ハ農業生産品ノ増加ヲ招来シ微弱ナル所有地及各種ノ組合ヲ支持援助スルニ在リトセリ

次ニ其外国貿易ニツキ聯邦ノ外国貿易發展カ遅延シタルハ聯邦ノ社会主義的組織及独占ノ組織ニ基因スルモノナラス戰前ノ帝政時代ニ於ケル驚ク可キ輸出数ハ農民団体ノ強烈ナ輸出欲ニヨルモノニシテ必スシモ国内ニテ消費セル剰余ヲ輸出セル訳ニハアラス反對ニ「ロシア」革命ハ国内ノ購買力ヲ増シソレ丈其輸出力ヲ減少セルモ近キ将来ニ必ス著シキ輸出増加ヲ来スヘシコレ都市農村ニ於ケル生産力増加ノ自然ノ結果ナリトシ更ニ「ロシア」ハ外国商品ニ其市場ヲ閉鎖セス否「ロシア」トノ協定ニヨリテ外国工業ハ継続的且安定的ナル市場ヲ得可シトセリ

更ニ「ソヴェット」聯邦ノ工業化運動ハ輸入ヲ縮減セントスルノ運動ニハアラスムシロ反對ニ工業發展ノ為ニハ其レニ必要ナル諸機械等ノ莫大ナル輸入ヲナササル可カラストシ信用事項ニツキ通常關係ヲ恢復スルコトハ直チニ「ロシア」ノ輸出ヲ強調スルト同時ニ其輸入ヲ激励スルモノニシテ又「ソヴェット」連邦ハ外国資本カ特許ノ形式ヲ以テ連邦ノ經濟生活ニ参加シ来ルコトヲ希望スルト同時ニ資本主義国カ多分ニ有スル技術的力ヲ必要トスルモノナリト説フ

「ソヴェット」聯邦ノ經濟ハ勿論資本主義国トノ關係ナクシテモ發展シ得可シ但シ「ソヴェット」聯邦ノ政治經濟的組織カ如何ニ外国ノ夫ト異ルトモ兩者間ノ協調ハ完全ニ可能ナリト信ス「ソヴェット」聯邦ハ赤化帝國主義ヲ実行スルモノナリト批難サル、モ事實ハ「ソヴェット」聯邦ノ冀フ所ハ一般の平和ノ外ニ他ナク此甚タシク異ナレル二組織ノ両立

ヲ信シテ疑ハス而シテ数年ノ後ニハ此二組織中社会主義的組織ハ最モヨク經濟的矛盾ヲ排シ生産力發達ヲ助長スルモノナルコトヲ知ルニ至ル可シト説キタル後本會議カ資本主義国ト「ソヴェット」聯邦トノ經濟關係ノ改善ニ協力シ得ルナラハ世界平和ニ一大貢獻ヲナスモノナリト結ヘリ

スラヴコ チェツチエロフ (Slavko Čecherov) (ユーゴスラヴィア)

主トシテ東欧及南東欧ニ於ケル消費者ノ購買力減退カ工業生産品需要減少ノ主原因ナリトシ此地方ノ農民ノ生活標準ヲ高ムルコト必要ナルモ該地方ノ農業生産ハ耕作方法ノ幼稚ナルト戰爭ニヨル破壊ト人命ノ喪失トノ為ニ極メテ微々タルモノナレハ之ヲ増進スル為ニハ特別ナル農業貸付ノ形式殊ニ土地抵当ノ貸付ニヨリテ發展ニ必要ナル資本ヲ貸与スルヲ要ストテ同地方ノ農業貸付ノ状態ヲトキ更ニ農民ノ購買力ヲ増加スルニハ農業製品ノ価格ヲ増加スルカ其生産費ヲ減少スルカニアル所前者ハ需要ノ減退ヲ招ク恐アレハ須ラク後者ニヨル可ク而シテ後者ハ機械使用人工肥料土地改善等ノ方法ニヨレハ可ナリト述ヘ本會議ニ於テ各農業組合ノ協力ヲ得テ農業信用國際協會ノ如キモノヲ設立シ以テ或地方ニ過剰ナル資本ヲ他ノ地方ニ移ス可キコトヲ勧告シ且ツ低利ニシテ長期ノ農業抵当貸借ノ組織設立ヲ勧告スヘシト述ヘタリ

ストドラ (Stodola) (智恵士)

現今中央歐洲ノ苦シメル經濟的難局ハ政治的原因ニヨルニアラスシテ戰爭前ヨリ存セシ經濟難局並ニ中欧ノ生活標準カ西欧ノ夫レニ比シテ劣レルニ基因スルモノナリトシ智恵古カ戰後生産ノ危機購買力ノ減少ノ如キ經濟組織ノ破壊セラレタル中ニテ如何ニ努力セシカラ語リ其通商政策財政等ニツキテ説明シ更ニ其農工業及外国貿易ノ不振ヲ述ヘ自国自税ノ低率ナル旨ヲ説キ他国モ之ニ從フヘシトシ且ツ關稅交通一切ノ障害除去國際信用關係ノ簡易中央銀行間ノ國際協力ヲ希望スル旨ヲ述フ

オボレンスキー オシンスキー (Obolenski-Osinski) 「ソヴィエット」聯邦)

現今世界ノ經濟組織ハ經濟的矛盾ノ組織ト云フ可ク若シ各国カ富收入消費労働賃金労働時間ニ関スル一覽表ヲ作ルナラハ各国ノ之等諸事項ノ間ニ大ナル矛盾ノ存スルコトヲ直チニ知ル可ク其ノ最モ一般的ナル矛盾ハ生産能力ト市場ノ購買力トノ間ニ存スル甚シキ軋障ヨリ生スルモノナリトシ英米ニ於ケル事實ヲ例示シカクノ如キ現象ハ多数国ニ於ケル労働農民階級ノ購買力ノ減少国家ノ瓦解「ソヴェット」聯邦及支那ノ如キ大国ニ対スル排外政策ニ基クモノナリト述フ

更ニ労働者階級ノ經濟状態ト資本企業者階級ノ經濟状態トノ間ニ一ノ矛盾ヲ発見ストテ米國及歐洲ニ於ケル労働賃金ノ状態ヲ説明シ斯ク失業者カ無数ニアル一方労働者ノ一日ノ労働時間ヲ延長ス可シトノ說ハ少シク奇異ニ感セラル所コノ傾向ハ独逸英國ニ於テ益々増長ノ勢ナリトテ之ヲ攻撃シ次ニ第三ノ矛盾トシテ資本主義的工業ト農業生産トノ間ニ存スルモノヲ指定シ工業ニ比シ農業ノ不利ナル地位ニアルヲ說ケリ

更ニ資本家階級夫レ自身ノ間ニモ多クノ矛盾アル旨ヲ述ヘ航海路鐵道輸出市場原料品ノ根源等ヲ得ントスル競争ヲ挙ケ之等ノ問題カ本會議ニ於テ議セラレサルハ不思議ナリト更ニ欧米ノ資本主義的組織ト「ソヴェット」聯邦ノ社会主義的組織トノ矛盾ヲトキ欧米諸國ノ「ソヴェット」聯邦ニ対スル財政經濟的排斥カ一層世界經濟ノ混亂ヲ来シタルモノトシ又大国諸國ノ利益ト其殖民地ノ利益トカ互ニ相反スル事實ヲ述ヘ凡テ之等ノ矛盾ノ主要原因ハ資本主義的經濟組織ノ中ニ在リトシ此組織ハ種々ノ競争争闘ニ導クモノナリトセリ此矛盾解決ノ唯一ノ方法ハ經濟組織ノ變更——即チ私有資本主義的經濟ヨリ社会主義的經濟ニ移ルコトニ在リトシ次ニ現今ノ經濟難局ノ解決方法トシテ仏代表「ルーシュール」氏ノ意見並ニ「ジュオー」氏ノ提議ニ其不可ナル点ヲ列挙シテ反对シ自ラ次ノ如キ現状改善ノ為ノ具體的提議ヲナセリ

(一) 一切ノ戰時負債等ノ廃棄

(二) 工業労働者ノ賃金騰貴

(三) 八時間労働制ノ復活

(四) 労働者階級ノ「シンヂケート」組織ノ完全ナル自由及同盟罷業ノ絶対的自由ノ確立

(五) 失業者援助

(六) 工業商品価格ノ騰貴ニ対スル反对

(七) 移民ノ出入ニ対スル一切ノ障害廃止

(八) 保護領及委任統治組織ノ廃止

(九) 支那ニ対スル一切ノ武力干涉ノ停止

(十) 一切ノ形式ニ於ケル「ソヴェット」聯邦ニ対スル政治經濟的排斥ノ停止

(十一) 陸海常備軍ノ廃止完全有効ナル軍備撤廃

ルーシュール (Loucheur) (仏蘭西)

現今世界ノ苦シメル難局ノ原因ヲ解決スルニハ単ニ經濟状態ヲ戰前ノ丈ニ復帰セシムルヲ以テ充分トセストテ「レイトン」氏ニ賛成シ近ク開カントスル各委員会ノ為ス可キ事業ノ大綱ヲ述フヘシトシテ先ツ第一委員会關係ノ問題ニツキ種々指示スル所アリ

関稅率ノ問題ニツキ歐羅巴合衆國ヲ作ルヘシトノ思想ハ政治的ニ見ルトキ歐ノ諸國ハ伝統慣習等ノ見地ヨリコノ思想ノ實現ヲ欲スルモノ少ナカル可ク經濟的ニ見ルトキハ人民ニ政治的安全ヲ与ヘスシテ經濟的安全ヲ与ヘントスルノ矛盾ニ逢スヘシトテ前記ノ思想ニ反对シ次ニ関稅分類ノ統一問題ハ後日機關ヲ設ケテ之カ研究ニ当ラシムル方可ナル可シトシ又関稅率安定ノ問題ハ外交會議ニ讓歩ス可ク又通商協定ノ締結方法ノ統一問題ノ解決ハ関稅分数問題ノ解決ニヨル可キモノナルカ若シ此協定ノ解釈ニツキ兩國間ニ意見ノ相違アルトキ仲裁ニヨル可キモノト思考スト述ヘ稅率問題ハ國家

主權ニ関スルモノナレトモ會議ニ於テ或ル根本的原則ヲ決定スルヲ妨ケスト説キタリ

更ニ歐ニ於テハ生産増加スルモ其購買力減少シ歐ノ生産品ハ内外ニ其販路ヲ見出し得サル一方北米合衆國ハ次第二其國內市場ヲ拡張スルト共ニ其輸出ヲ盛ナラシメ至ル所歐ノ生産品ヲ駆逐スル有様ナルカ之ニ對抗スルニハ更ニ外國市場ヲ征服ス可ク欧全般ニ拡カル合理化 (Rationalisation) ヲ実行スヘシ此点ヨリ見ルモ工業ノ國際的協定ヲ作ル可キ理由ハ存スル也之ト同時ニ歐洲住民ノ購買力ヲ増加スルヲ要スルカ欧ハ北米合衆國トハ事情ヲ異ニスルカ故ニ特ニ大ナル努力ヲナスノ必要アル可ク先ツ所謂横ノ方法ニ從ヒ即チ各工業ニ從ヒテ歐洲工業ナルモノヲ組織スルヲ唯一ノ手段トスコレラハ第二委員會ニテ討議セラル可シ「シンジケート」「カーテル」「トラスト」ノ如キ形式ヲ有スル協定ハ利益アルコト明白ナルモ小ナル生産者労働者消費者ハコレヲ協定ノ偉大ナル力ニヨリテ害セラル、ヲ恐ルヘキモ之等ハ協定指導者ノ精神如何ニヨルコトニシテ殊ニ指導者ハ世界ノ輿論ヲ尊重スルノ必要アリ寿府ハ世界輿論ノ中心地ナレハコ、ニ一ツノ機關ヲ設クルモ可ナル可ク之ニ關スル決定ハ聯盟理事會ノ賢明ナル処置ニ委ストセリ

次ニ農工業ハ相互ニ分離シ得可カラサルモノニシテ兩者ノ均衡ヲ得ルコトハ民族發展ノ要素ナリトシ第三委員會ニテ之ヲ研究ス可キモノナリトシ「ソヴエット」聯邦代表ノ謨述ニツキ一觀察ヲナシ本會議ノ注意ヲ惹ク可キ三事實アリトシ

一 各國民凡テカ協調 (Solidarité) ノ精神ヲ理解セルコト

二 北米合衆國ノ如キ最モ繁榮セル國モ孤立スルコトヲ欲セス世界經濟復興ニ其援助ヲモタラセルコト

三 労働階級カ本會議ニ協力スルコト
ノ三点ヲ指定セリ

ベロニー (Beloni) (伊太利)

工業ノ合理化 (Rationalisation) 及形式一定化 (Standardisation) ノ必要ヲトキ多數ノ國家ノ行フ工業化運動カ世界ノ通

商ヲ減少セシメタリトノ説ヲ反駁シ更ニ消費者ノ購買力ノ問題ニ關シ購買力ヲ増加スルヲ以テ經濟危機ヲ解決スル手段ト解スルハ目的ト手段トヲ混合スルモノニシテ世界ノ經濟的危機カ解決セラレサル間ハ購買力ヲ人工的ニ増加シ得ルモノニアラスト述ヘ次ニ「カーテル」ニツキ其原則ニハ必スシモ反對ナラサルモ「カーテル」ノ政策カ經濟的發展ノ未タ完全ナラサル小國ニ對シ危險ナルコトヲ否定スルヲ得ストシ「ジューオー」氏ノ提議ニツキテハ「レイトン」氏ト同様余リニ複雑ニシテ弾力性ヲ欠クモノトシ聯盟ノ經濟委員會ヲ時機ニ應シテ變更シテ其事業ヲ行ナハシム可シトセリ
人口問題ハ通商障害ノ問題ト密接ナル關係ヲ有シ人口稠密ナルニ天然資源豐富ナラサル國ニ於テ其國民ノ労働ヲ確實ナラシメントスルニ當リテハ關稅障壁農業工業保護主義ノ外ニ道ナシトテ戰前ノ移民ノ狀態ヲ説明シ決定的ナル經濟的平和ニ近ツクノ最モ確實ナル手段ノ一ハ移民問題ノ解決ニ在リトシ國際的協調相互扶助ノ必要ヲ説ケリ

ネクルセア (Neculcea) (羅馬尼)

連盟ノ經濟委員會ノ事業「ドキュメンテーション」統計ノコトニツキ極メテ學術的ナル意見ヲ述ヘタル後世界ノ經濟的均衡ハ迅速ニ之ヲ得ラル、モノナラス一般の經濟均衡ハ部分的均衡狀態ノ累積ニ外ナラス故ニ後者ヲ實現スルニハ前者ヲ招来スルノ所以ナリトシカルカ故ニ經濟委員會ハ問題ノ全部ニツキ國際條約ヲ締結スルノ不可能ナルヲ信シ先ツ規約第二十三條ヲ侵害スルカ如キ問題ヲ漸次研究スルコトトセリトテ次ノ三問題ヲ挙ケタリ

一 不正競争

二 關稅ニ於ケル無益ニシテ^(脱)斷的ナ形式及手續キ其他類似ノ問題

三 不正待遇

セラレーレンス (Serrarens)

国内又ハ国際的「カーテル」ノ形式ニヨル企業者ノ協定ニ反対ニハアラサルモ此協定カ或種ノ危険アルコトヲ認メサルヲ得ストシ団体其レ自身ノ利益ヨリモ先ツ生産ヲ重ス可キ旨ヲ述ヘ此ノ「カーテル」ハ失業状態ヲ生シムル危険アレハ注意ヲ要ストセリ

次ニ経済ノ主要要素タル労働者カ未タ充分ニ高キ地位ヲ有セサルヲ説キ国内及国際「カーテル」ニ於テ労働者カ代表セラレサル可カラス労働ノ科学的組織ハ経済生活ニ貢献スル所多シトシ労働階級ノ生活条件ノ改善ヲ以テ最モ重大ナル目的ノ一トセリ

ド ヴォーグ (De Vogüé) (国際農業委員会議長)

将来ノ経済復興ニ欠カサルモノトシテ農工業両者間ノ相互關係ヲトキ此關係ヲ破リテ工業カ農業ヲ実シテ自ラ発展セシ事實ヲ経済危機ノ主原因トセリ農業生産者ノ生活標準ノ劣等ナルコトヨリ生スル経済的反動及彼等ノ購買力ノ減少ハ絶ヘス工業生産ニ対シ脅威ナリキトテ危機ヲ解決シ人民ノ幸福ヲ致ス為生産者ノ努力ト其報酬トノ間ニ通常ノ關係ヲ設ケタルコト必要ナリトシ又生産品ノ自由流通障礙ヲ除ク要アリ農業ノ組合組織接近ハ之カ為ナリトス

クラヴィテル (Klavitter) (「ダンチヒ」自由市)

「ダンチヒ」市ノ経済的存在ハ其背後地 (hinterland) ニ依リタルカ故ニ中欧ノ分割ニヨリ大イニ苦シム所アリシト述ヘ其国ノ通商ニ付一言スル所アリ

二 第一委員会 (商業)

第一章 会議ノ経過

上田代表 起草

一 五月九日午前及午後ノ二回一般討議ヲ行フ (委員ノ数約百十名議長「コライン」)

二 五月十日「アゼンタ」ノ網目ニ基キ左ノ通り三個ノ小委員会ヲ設ケタリ (委員ノ数各約二三十名)

第一小委員会 (通商ノ自由) 議長「ボイデン」

第二小委員会 (関税及通商条約) 議長「コライン」

第三小委員会 (間接保護手段) 議長「リドベク」

三 五月十日三週ノ小委員会ハ各午前及午後二回其部ニ関スル一般討議ヲ行フ第二小委員会討議ハ十一日ニ及フ

四 五月十一日又ハ十二日ヨリ各小委員ト夫々起草委員会ヲ設ケテ決議案ヲ作成セシム

第二小委員会 (関税及通商条約) ハ問題ノ複雑ナル為起草委員会ヲ更ニ第一第二ニ區別シ其開會度数モ数回ニ亘リタリ
五 起草委員会ノ起草シタル決議案ハ十八日午前迄ニ各小委員会ニ於テ採択セラレタリ

六 五月十八日及十九日各小委員会ノ決議案ヲ集メテ字句ヲ修正シ且前文ヲ付スル為メニ整理委員会ヲ開ク (委員ノ数僅カ二十二名)

七 五月二十日再ビ第一小委員会 (商業) ノ總會ヲ開キ整理委員会ノ作成シタル決議案ヲ討議シ之ヲ完成シタリ此決議案ハ第二 (工業) 第三 (農業) 委員会ノ決議案ト共ニ經濟會議全部ノ整理委員会ニ移サレタリ

第二章 一般討議

一 五月九日ノ一般討議ハ仏国代表「セリエイス」ノ草案提出ヲ以テ開始セラレタリ此草案ノ要点左ノ如シ

第一通商ノ自由ニ関シテハ国際聯盟ノ經濟委員會ニ於テ作成シ各国政府ニ送付シタル「輸出入ノ禁止及制限撤廃ニ関ス

ル条約案」ヲ作ル可ク早キ機会ニ外交會議ニ付シテ決定スヘキコトヲ主張シタリ但シ或商品ノ輸出数量ニツキ「ク
オータ」ノ制度ヲ用フル場合ヲ認メテ之ニ条件ヲ付スルコト、ナシタリ

第二関税目ノ統一ニ関シテハ各国ノ制度ヲ出来ルタケ一定セシムルノ重要ナルコトヲ認メ聯盟ノ機関ヲシテ標準トナル
ヘキ税目ヲ編成セシメ其部分的編成ノ成ルニ從テ外交會議ニ付スルコトヲ提案シタリ

第三関税ノ安定ニ関シテハ各国ハ長期ノ条約ヲ以テ相互ニ関税ヲ協定スヘキコト若シ之ヲナサ、ル場合ニハ国法ヲ以テ
明白ナル規定ヲシ関税變更ノタメニ商人ノ受クル損害ヲ少カラシムルコトヲ勸告セントス

第四関税率ニ関シテハ

(一)「各国ハ其国民の安定又ハ其經濟生活ノ重大ナル利益ノ為メ必要ナル場合ニ限り主要ナル競争国ノ優越ナル生産
条件又ハ価格ノ状態ニ対シ平均ヲ取ラシムル程度ノ保護ヲ自國産業ニ与フルモノトス」ト宣言シ但シ

(二)各国ハ其保護の関税ト外國ノソレトノ間ニ相對關係アルコトヲ認メテ其保護ヲ不当ニ増加スルコトヲ差控フヘシ
トナシタリ

第五関税ノ適用ニ関シテハ関税率ヲ適用スヘキ商品ノ価格(從価税ノ場合)又ハ品目(從価税ノ場合)ニツキ疑問ヲ生
セサルヤウ種々ノ方法ヲ講スヘキコトヲ勸告セントス

二 仏國代表ハ右ノ提案ヲナスニ當リ國際經濟會議ハ現在ノ弊害ト共ニ將來ノ方向ヲ問題トスヘキコト從ツテ其結論ハ原
則ノ發表ト実行の成果トノ兩者ヲ含ムヘキコトヲ述ヘ独逸代表モ亦同様ノ意見ヲ述ヘタルカ之ニ對シテハ各員異論ナカ
リキ即チ本會議ノ決議ハ必スシモ即時実行シ得ヘキ成案ヲ作ルコトノミナラス各國力將來ニ於テ進ムヘキ大方針ヲ明カ
ニスルヲ以テ其任務トスヘキコトハ最初ヨリ一致シタル見解ナリ

三 一般討議ニハ仏独英瑞典瑞西伊澳波蘭ルマニア、チリ、露ノ各代表意見ヲ發表シタルカ概シテ討議ノ焦点ハ関税問題
ニアリ特ニ関税率ノ引下ニ関シテ明カニ二ノ傾向ヲ反射セシメタリ即チ仏國ハ右ノ提案ニ云ヘル如ク税率ニ関スル原則

トシテ専門學者ノ所謂「カウターヴエイリシタリフ」又ハ「コンベチチヴタリフ」ノ保護主義ヲ認メントシ之ニ對シ
英瑞典瑞西等ハ現在ノ関税障壁ヲ出来ルタケ早く且多ク低減スルノ必要ヲ力説シタリ独逸兩國ノ代表モ関税低減ノ必要
ヲ認メタルカ此等ハ当面ノ問題トシテ関税引下ヨリモ寧ろ安定ノ^(原本判斷不能)可能性多キコトヲ論シタリ右ノ関税引下ニ
關スル^(原本判斷不能)□□對立ハ特ニ関税問題ヲ取扱ヒタル第二小委員會ニ於テ益々明白トナリタリ尚此ニ付言スヘキハ今回ノ會議
ニ於テ各代表ハ夫々個人的意見ヲ發表シ得ルコトトナリ居タルニ拘ラス殆ント總テノモノハ自國ノ立場ヲ守リタルモ
ノ、如クニシテ同一國ヲ代表スルモノハ常ニ一致ノ態度ヲ取りタルコトナリ

四 「ソヴェット」代表ハ此討議中ニ自國ノ國際經濟上ニ於ケル立場ヲ明ニセント勉メタリ其主旨ハ同國政府カ外國貿易
ノ独占ヲ行ヒツ、アルハ其社會主義的組織ニ当然含マレタルコトナルヲ以テ此制度ヲ動カスコトハ絶対ニ同意スルヲ得
ス

然レトモ此制度カ毫モ外國トノ通商ヲ阻害スルモノニアラサルコトハ近年貿易高ノ増加シタルニヨリテ證明セラルト云
フニアリ尚同國ハ産業ノ發達セサル國ニアリテハ或種ノ産業ニ對シ國家ノ保護ヲ加フルノ必要アルコトヲ主張シタリ

三 商業部第一小委員會報告

討議題目 通商ノ自由問題

高嶋委員 起草

(一)輸出入ノ禁止及制限ノ撤廃

(二)國營事業ノ法律及經濟的地位

(三)入國后ニ於ケル外國人及外國事業ノ經濟的及法律的地位

第一 商業部第一小委員会ノ構成

商業部第一小委員長ハ最初國際商業會議所代表「ウォルター ランシマン」氏（英）指名セラルヘキ予定ナリシモ同氏ハ一身上ノ支障ノ為メ受諾スル能ハサリシヲ以テ氏ニ代リ「ローランド ボイデン」氏（米）委員長ニ就任シタリ「ボイデン」氏モ「ランシマン」氏モ共ニ國際商業會議所代表ニシテ其明快ナル裁決振ハ委員會全員ノ賞讃ヲ博シタリ当小委員會ニハ「アーサー バルフォア」（英）「トレンデレンブルグ」（独）「ルーシユール」（仏）「ジューオー」（仏）「キヤムベル ローズ」（印度）「デュボア」（瑞西）氏等三十八個國ノ代表委員之ニ参加シ本邦側ヨリハ佐藤（尚）委員及高嶋隨員之ニ出席シタリ

第二 會議ノ經過概要

一 輸出入ノ禁止及制限撤廃ニ関スル件

五月十日午前第一回小委員会開議ノ劈頭國際聯盟經濟部代表委員「レウエリン スミス」（英）氏ハ先ツ本件ノ來歴ニ関シ説明セリ蓋シ本件ハ既ニ國際聯盟經濟部ノ一問題トシテ考究セラレ國際條約案迄モ作成セラレ居ルヲ以テナリ「スミス」氏ノ述ヘタル所ヲ要約スレハ即チ

（一）本件ハ一九二四年九月開催ノ國際聯盟總會ニ於テ伊太利代表ノ提出シタルニ胚胎セルコト

（二）右提案ノ結果國際聯盟經濟部ハ各国政府及國際商業會議所万国議員商會會議等ノ世界主要經濟団体ノ意嚮ヲ考究參酌シ國際條約案ヲ作成シタルコト

（三）而シテ該條約案ハ本年十一月開催ノ國際聯盟外交會議ニ於テ審議セラルヘキヲ以テ現下ノ國際經濟會議トシテハ該條約案カ果シテ外交會議ノ基礎案トシテ妥当ナルヤ否ヤヲ考究スレハ足ルコト之ナリトス

〔備考〕國際聯盟經濟部委員會ノ起草ニ係ル「輸出入ノ禁止及制限撤廃ニ関スル協定案原案」ハ既ニ外務省條約局第三課ヨリ昭和二年一月附調書トシテ發表セラレ居ルヲ以テ茲ニ再録セス

然ルニ之ヨリ曩キ五月九日開催ノ商業部第一回總委員會ニ於テ仏國代表「セリユス」氏ハ（一）通商ノ自由（二）生産及關稅統計表ノ統一（三）關稅率問題ニ関シ其意見ヲ提出シタリ然シテ該意見中通商ノ自由ニ関スル件ハ之ヲ先ツ小委員會ニ附託審議スルノ必要アリタルヲ以テ茲ニ鈔シク「セリユス」案ノ梗概並其審議ノ經過ヲ説明スヘシ

「通商ノ自由」ニ関スル「セリユス」案ノ要項次ノ如シ

（一）國際聯盟經濟部委員會ノ作成ニ係ル條約案ハ出來得ル限り速カニ外交會議ニ上程シ以テ多數國間ノ條約トナスコト
（二）原料品ノ移動ハ輸出稅ノ賦課奨励金ノ交付又ハ價格維持方策ニ依リ各國間ニ難問又ハ差別的狀態ヲ生起セシメサルコト

（三）商品市価ノ激落ヲ阻止スル為メニ設定セラルル輸出數量ノ制定ハ専ラ商品市価ノ調節ヲ図リ以テ自國生産者ノ安全ヲ期スル為メニノミ許容セラルヘク之ヲ輸入國消費者ニ過重ノ負擔ヲ与フルノ具ニ供スヘカラス

（四）右ト異リ一國ノ商品生産量充分ナラサル為メ自國ニ對シ其供給ヲ確保スル目的ヲ有スル輸出數量ノ限定ニ對シテハ公平ノ方法ヲ採リ以テ出來得ル限り商品ノ内外市価ノ均衡ヲ保持スヘキコト

（五）資本及資金ノ輸出管理ハ世界通商ノ自由ト抵触セサルコトヲ要ス

「セリユス」案ノ比評トシテ「レウエリン スミス」氏ハ其國際聯盟經濟部委員會條約案ニ比シ広汎ナル内容ヲ有セルヲ述ヘ且經濟委員會條約案ハ其目的ヲ直接ノ輸出入禁止及制限ニ限局シ關稅率ニ依リ間接的ノ方法ニハ何等言及シ居ラサル旨ヲ説キタルカ之ニ對シ國際商業會議所代表「デュシマン」（仏）氏ハ兎ニ角「セリユス」案ヲ逐条ニ審議スルノ可ナルヘキヲ提案シ採択セラレタリ茲ニ於テ委員長ハ自ラ「セリユス」案ヲ逐条朗誦シ以テ委員會ニ其審議ヲ求メタルカ「スミス」氏ハ更ニ立テ「セリユス」案中其（三）（四）項ハ既ニ國際聯盟經濟委員會ノ作成ニ係ル條約案ト重複セルノミナ

ラス「セリユス」氏ノ提唱スル輸出数量ノ制定ハ同条約案ノ効力ヲ薄弱ナラシムルノ虞アリトノ理由ノ下ニ其削除ヲ可トスヘキ旨ヲ提案シ閉会ス午後第二小委員会ノ開カル、ヤ「デュシユマン」氏ハ直チニ「セリユス」案ニ対スル「スミス」氏ノ批評ヲ反駁シ其意見トシテ委員会カ一応「セリユス」案ヲ審議スヘキコト並来ル十一月二日於ケル國際聯盟外交會議ハ國際商業會議所ノ原案ヲ基礎トシテ一層広汎ナル審議ヲ行フノ可ナル旨ヲ述ヘタルヲ以テ委員長ハ「セリユス」案ノ第三及第四項ハ原案起草委員会ニ於テ適宜斟酌スヘキ条件ノ下ニ「デュシマン」氏ノ提案ヲ採択スルノ可否ヲ諮リ委員会之ヲ承認可決シタリ

二 國營事業及民間事業ノ均等待遇並國際貿易ニ關聯スル法律規定ノ件

五月十日（火）午后ニ於ケル第二回小委員会ニ於テ「レウエリン スミス」氏ハ再ヒ立テ本件ニ關スル國際聯盟經濟部原案ニ就キ説明ヲ試ミタリ其要旨ヲ述ヘンニ歐洲大戰后各國ニ於ケル國營事業及國家の独占事業數著シク増加セルハ明瞭ノ事實ナルカスクノ如キ商業的立場ニ在ル政府カ民間企業者ニ比シ經濟上稅務上多大ノ特權ヲ主張スルハ許容ス可ラス既ニ「ブラッセル」會議ハ海事法規上ノ制裁ヲ忌避スル為メ船舶所有者タル政府カ國家主權ヲ主張スルヲ制限スヘキ旨ヲ提案セルニ鑑ミ同氏ハ平時ニ於ケル國營事業ハ經濟上稅務上民營事業ト同一ノ立場ニ置カルヘキ決議案ヲ提唱シ小委員会ハ之ヲ原案起草委員会ニ附託スルコトニ決シタリ

三 入國后ニ於ケル外國人及外國商社ノ經濟的及稅務的待遇問題

「レウエリン スミス」氏ハ続テ本件ニ關スル國際聯盟經濟部委員會ノ意嚮ヲ説明ス夫レニ依レハ同經濟委員會ハ本問題ニ對スル考量ノ範圍ヲ入國后ニ於ケル外國人ノ待遇ニ限局シ從テ入國自体ノ問題ハ之ヲ除外スルコトシタリ既ニ一九二三年同委員會ハ本件ニ關シ純然タル稅務的性質ヲ有スル勸告ヲ發表シタルカ越テ一九二四年ニハ或種ノ職業及工業ニ關シ外國人ニ均等待遇ヲ許スヘキ勸告ニモ發展シタリ然シテ右勸告ハ共ニ國際聯盟總會ノ容ルル所トナリタルニ付即刻之ヲ各國政府及國際商業會議所ニ移牒シ其考慮ヲ求メタルニ國際商業會議所ハ其内ニ設置セル通商障礙調查委員會

ノ原案トシテ右勸告ヲ採択スルト同時ニ同會議所トシテハ一旦商法ニ入國ヲ許可セラレタル外國人ハ相互的ニ内國人ト同一ノ權利及特權ヲ享有スルヲ希望スル旨ノ意見ヲ發表シタリト

「レウエリン スミス」氏ノ説明終ルヤ國際商業會議所代表「コッツエンベルグ」氏ハ國際經濟會議小委員会トシテハ國際聯盟ニ提出スヘキ勸告案ヲ起草スル為メニ原案起草小委員会ヲ設置スヘシ蓋シ斯クノ如キ條約案ノ成立ハ各國法制上ニ重要ナル變革ヲ招来スルコト疑ナキヲ以テ本會議ニ參加セル各委員ハ右條約案ニ關シ各自國政府ヲ勸説シテ其ニ贊意ヲ表セシムルコトニ努力スル必要アリト述ヘタリ「コッツエンベルグ」氏ノ右提案ハ小委員会ノ採択スル所トナリタルヲ以テ委員長ハ起草小委員会トシテ「セリユス」「レウエリン スミス」「ドレツアル」「デュボア」並「ボイテン」ノ五氏ヲ指名シタリ

大体以上ノ如キ經過ヲ以テ原案起草小委員会ニ附託セラレタル「通商自由」ノ三案件ハ五月十二日及十四日ノ二回ニ亘ル小委員會總會ニ於テ審議ノ結果下記ノ通三箇ノ勸告ヲ作成シテ之ヲ國際聯盟ニ提出スルコトニ決議セラレタリ右小委員會總會ノ席上瑞典代表「カッセル」教授ハ通商自由ノ問題トシテ資本移動ノ自由カ比較的閑却セラレ居ルヲ以テ決議文中ニ此点ヲ一層明確ニ力説シ度キ旨ノ希望ヲ述ヘ又「レウエリン スミス」氏ハ國際經濟會議ハ國際聯盟カ既ニ完成シ又ハ目下著セル諸事業ヲ承認シ且之ヲ奨励スヘキ意味ヲ決議ヲ通過セラレ度キ旨ヲ力唱シタルカ此等ハ何レモ大體委員會ノ認ムル所トナリ決議文中ニ其趣旨ヲ加味スルコトニ決シタルハ茲ニ注意シ置クヘキコトナリトス

A 輸出入ノ禁止及制限問題ニ關スル勸告

國際經濟會議ハ國際聯盟ニ左記ヲ勸告ス

一 國際聯盟經濟部委員會カ立案シ聯盟各國及聯盟非加入主要國政府ニ提出シタル輸出入禁止及制限ノ撤廢ニ關スル國際條約案及其附屬説明書ハ一九二七年十一月十四日開催セラルヘキ外交會議ノ基礎案トシテ甚タ満足のモノナルニ依リ同

条約案カ速カニ出来得ル限り多数国家ノ賛同ヲ得テ其同時的協調ノ下ニ世界各国ノ生産及貿易ノ恢復及發達上良好ノ素地ヲ造ルヘキコト

二右条約案ニ包含セラルル趣旨ノ適用ハ輸出税輸出入量ノ限定衛生規則其他例外且緊急ナル事情ヲ事由トセサル方策ニ依リ間接的ニ障害セラレサルコトヲ要ス

三国際貿易ノ正常ナル進展並世界生産ノ發達ハ資本ノ自由移動ニ対スル制限の方策ニ依リ障害セラレサルコト即チ例ヘハ輸入代価支払用ノ為替手形ノ購入ヲ禁シ或ハ其海外ヘノ發送ヲ禁止スル外国為替管理政策ノ如キハ之ナリトス

B 国营事業ト民間事業トノ均等待遇並ニ国際貿易ニ關聯スル法律規定

国際經濟會議ハ国際聯盟ニ左記ヲ勧告ス

一政府カ工業商業銀行又ハ海運事業ノ經營者又ハ管理者タル場合ニ於テ政府ハ右諸事業ノ当事者又ハ参加者トシテノ資格ニ於テ国家主權及特權ヲ享有ス可ラス又同一事業ニ従事スル民間經營者カ負担セル租税ニ対シ免除ノ特典ヲ享有ス可ラス但シ本勧告ハ平時ニ於ケル一般的商企業ニ対シテノミ適用セラルヘキモノトス

二国際聯盟經濟部ハ税関手續簡捷國際為替手形法ノ統一國際商事仲裁々判制度ノ進歩及不正ナル商慣習ノ抑圧ニ關スル調査ヲ遂行シ以テ其急速且一般的ノ解決ヲ図ルヘシ又同經濟部並各国政府ハ右諸問題ニ關シ既ニ締結セラル又ハ将来締結セラレントスル条約ニ対シ加入国ヲ増加スヘキ一切ノ措置ヲ執ルヘシ

C 外国人及外国事業ノ取扱問題

国際經濟會議ハ国際聯盟ニ左記ヲ勧告ス

一国際聯盟經濟部及國際商業會議所カ既ニ考究シタル所ニ基キ外国人ノ經濟上法律上並税制上ノ地位ヲ定義スヘキ方法ヲ

確定スル双務の取極ヲ結フコト

二国際聯盟經濟部ハ右ト同一ノ精神及目的ヲ以テ国際聯盟理事会ノ指揮ノ下ニ國際条約ヲ作成スヘキ國家會議ノ準備ヲ為スヘシ

三上記ノ双務の取極並國家會議ニ提出セラルヘキ國際条約案ハ特ニ左記諸点ヲ重要視スルコトヲ要ス

(イ) 入国后ノ外国人ニ対シテハ其居住設立移転及移動ニ關シ内国人ト均等ノ取扱ヲ為スコト

(ロ) 外国人及外国企業者ノ商業及其他ノ經濟的活動ニ關スル条件ヲ定ムルコト

(ハ) 右記自然人及法人ノ法律上ノ地位ヲ定ムルコト

(ニ) 外国人及外国企業者ノ税制上ノ地位ヲ定ムルコト

四 第二小委員會 (關稅及通商條約)

上田代表 起草

本小委員會ハ五月十日及十一日ノ三回會合シテ討議ヲナシタリ討議ニ参加シタルモノハ「セリュイス」及「ルシエール」英ノ「レイトン」瑞ノ「カッセル」奥ノ「シュラー」及「リードル」白ノ「アンシオー」及「ゼラール」チェックノ「ドヴォラセク」米ノ「デイヴィス」國際商業會議所ノ「ラヴェルヌ」及「ランシマン」其他日本印度濠洲ポーランドブラジルフィンランドブルガリヤニシテ討議ノ要點ハ左ノ如シ

第一 關稅ニ關シテハ仏代表カ前日本委員會ニ提出シタル保護税ノ制限案即チコンペチヴタリフノ外ニ瑞典ノ「カッセル」ノ提出セル一案アリ此案ハ關稅々目安定適用ニ關シテハ大体ニ於テ「セリュイス」ト同意見ナルモ稅率ニ就イテハコンペチヴタリフニ反對シテ或最高限度ノ稅率ヲ超エテ保護政策ヲ行ハサルノ原則ヲ立ツヘシトナス此兩者ハ共ニ現在

ノ法外ナル高率保護稅ヲ低減セシムルコトヲ目的トスルモノナレトモ前者ハ主義ニ於テ如何ナル保護稅ヲモ認ムルニ反對シ後者ハ低率ノ保護ノ下ニ成立セカルカ如キ産業ハ之ヲ保護スヘカラストナスモノニシテ理論ノ基礎ヲ異ニスルカ故ニ討議ハ激烈トナラサルヲ得ス英ノ「レイトン」ハ原則トシテ「カッセル」案ニ与スルコトヲ言明シ「セリユイス案」ノ如キモノカ採択セラレタラハ何レノ国モ關稅引下ヲ行フコトナラサルナラン」ト極論セリ「レイトン」ハ保護稅ヲ以テ財政上ノ收入トナスノ不可ナルコト及國防上ノ見地ヨリ國民的自給ヲナスノ不可能ナルコトヲ論シ且國際經濟會議ハ眼前ノ成案ヲ得ルヨリモ寧ろ遠大ナル希望ヲ示スコトニ重キヲ置クヘシト主張セリ是ニオイテ英仏兩代表ノ衝突ハ表面ニ浮ヒ出テシカ翌日仏國側ハ「セリユイス」案中右ノ重要ナル原則的條項ヲ削除スルコト、ナスト共ニ「ルシエール」來リテ仏國ハ稅率ノ高低ノミヲ以テ保護ノ程度ヲ計ルノ主義ニハ同意セサルコトヲ附言セリ尚此時「ルシエール」カ簡單ナカラ自働關稅及複關稅制度（現ニ仏國ニ行ハル）ニ反對ノ意ヲ表セルコトハ注意ヲ要スルコト、信ス兎ニ角カクノ如クニシテコンベチチブタリフヲ認ムル文句カ全然今回ノ決議ヨリ葬リ去ラル、コト、ナリシハ自由貿易派ノ勝利ト見サルヘカラス但シ「カッセル」ノ主張シタル稅率ノ最高限ヲ定ムルノ案ハ實行不可能ト認メラレタルモノカ終ニ閑却サレタリ國際商業會議所ヲ代表スル「ラヴェルヌ」ハ曾テ其団体ニテ「カッセル」ト同様ノ案ヲ研究シタルコトアルモ實行困難ノタメニ之ヲ拋棄シソノ代リニ會議所案トシテハ單ニ過度ノ高稅ヲ否認スルコト、ナシタル旨ヲ説明シタリ日本代表カ提出シタル案ハ各國カ其重要輸入品ノ稅率ヲ國際聯盟其他ノ中央機關ニ通告シテ隨時比較表ヲ發表セシムルコト、ナシ間接ニ不當ノ高率ヲ課スル國ヲ抑制セントスルモノナルカ是時々引用サレナカラム實行不可能トシテ閑却サレタリ蓋シ此等ノ案ハ未タ實際的研究ノ熟セサルモノアリト雖モ將來研究ノ余地アルコトヲ信ス

第二 仏瑞典英以外ノ諸國ノ傾向ヲ見ルニ歐洲ニテハ白那塊チエコハ一齊ニ稅率引下ノ急務ヲ説キ保護ノ必要ヲ力説シタルハセルビア一國ノミニシテ波蘭ハ漸進ヲ主張シタリ

本邦ノ輸出貿易ニ大關係アル國々ニテハ米ハ簡單ニ「セリユイス」ノ原案ヲ支持ストイヒ濠洲ハ明白ニ保護主義ヲ取ル

トイヒ印度ハ四年前ヨリ保護稅ヲ行ヘルモ自國ニ不適當ナル産業ヲ起サントスルモノニアラストイヘリ

第三 最惠國條款ニツイテハ瑞典ハ無條件ヲ主張シ且關稅問題ニ適用サル、場合ニ於テ其意義ヲ明白ニスヘキコトヲ力説シタリ之ニ對シテ伊國代表ハ有條件主義ヲ支持シ其理由トシテ今後稅率ノ引下ヲ行フニハ或二國間ニ相互的協定ヲ行フ必要アリ之カ為メニ協定ノ効力ヲ出來ルタケ有効ナラシメサルヘカラスト主張セリ然ルニ米國代表者ハ自國多年ノ經驗ニ有條件主義ハ條約ノ解釈ニツキ疑問ヲ生シ易キヲ以テ一九二二年以來此主義ヲ拋棄シ其後締結セル新條約ハ皆無條件主義ナルコトヲ説明シタリ

第四 右ノ討議ノ後ニ問題ノ研究ハ起草委員ノ手ニ移サレタルカ五月十八日同委員ヨリ本會ニ報告サレタル決議案ハ實質上本會議ノ採択シタル最終ノ決議ト異ラサルモノニシテ最惠國條款ニツキテハ「通商條約ハ最も廣ク最も自由ナル形態ニ於ケル無條件最惠國條款ヲ規定スヘシ」トナシ國際聯盟ハ此條款ノ意義ヲ明白ニスルコト攻究スヘシトナセリ關稅率ニ關シテハ其増加ヲ止メ反對ノ方向ニ動クヘキ時機至レリトナシ次ノ勸告ヲナシタリ

(一) 諸國ハ直チニ戰爭ヨリ生シタル混亂ニ処スルタメニ課セラレタル關稅牆壁ヲ撤廢シ尚引キツ、キ此種ノ障害ヲ除去スルノ手段ヲ取ルヘシ

(二) 諸國ハ右ノ目的ヲ達スルタメ適當ナル條約ノ締結ヲナスヘシ

(三) 條約締結ニ先チ交渉ノ便宜上タリフ・ドコンバ又ハ一般稅法ヲ以テ殊更ニ稅率ヲ引上クルコトハナスヘカラス

(四) 國際聯盟ハ其經濟委員會ヲシテ本決議ノ趣意ニヨリ過度ノ關稅ヨリ生スル國際貿易上ノ障害ヲ取除クタメ各國ノ取ルヘキ手段ヲ研究セシムヘシ

尚本會議ノ最終決議中「現在關稅ノ形勢」「其原因」「商業政策ノ討議」ト題スル諸項ハ大戰後歐洲諸國ノ關稅ノ紛糾シタル狀態ヲ述ヘ且過度ノ保護政策ノ弊害ヲ説明シタルモノニシテ今後本會議ノ趣意ヲ各國ニ普及セシムル上ニ重要ナル意義ヲ有スルモノナリト信ス

右ノ外本小委員会ノ採択シタル決議ニハ税則ノ簡便化税目ノ統一関税ノ安定税則ノ適用税関手段ニ関スル貿易統計ニ関スル件アリ説明ハ之ヲ略ス

五 第三小委員会（通商航海保護ノ間接手段）商業委員会第三分科会

成瀬委員 起草

序 説

「通商航海保護ノ間接手段」ヲ議題トスル商業委員会第三分科会ハ五月十日ヨリ十二日迄三日間聯盟事務局内ニ開カレ委員長リドベック氏（瑞典）議長席ニ着キ本邦ヨリ代表トシテ志立氏専門委員トシテ伊東参事官乾随員等出席セリ
アジエンダニ從ヘハ前記本分科会ノ議題ハ（一）直接又ハ間接ノ補助金（二）ダンピング及ダンピング防止法制（三）運輸制度上ノ差別待遇（四）輸入セラレタル外国貨物ノ課税上ノ差別待遇ノ四問題ニ分ル、モ（四）問題ハ其利害ノ第二次のナルト且時間ノ關係上準備委員会ノ報告（CEJ 23）ニ譲リ殊更ニ之カ討議ヲ見合ハスルコト、ナシ第一日ハ先ツ（一）ヨリ（三）ニ至ル三問題ニ就キ一般討議ヲ行ヒタル後八名ノ起草委員（瑞典ノリドベック氏英ノサーノーマンヒル丁抹ノオーリン教授伊太利ノカラヴァレ氏チエツコスロヴァキアノホラセック氏独逸ノエツカート氏仏蘭西ノマヒエー氏外ニ運輸問題ノ補助委員トシテ聯盟ノ交通通過諮問委員会ノポリチス氏）ヲ選ヒ第二日ハ起草委員ノ手ニ依ル右三問題ニ就キ決議案ヲ作成シ第三日ハ是等決議案ヲ議題トシテ審議ヲ遂ケ後記ノ如ク可決セリ左ニ議事ノ内容ヲ各問題別ニ略述スヘシ

一 直接又ハ間接ノ補助金

本問題ニ於テハ委員ノ多数カ補助金ヲ以テ通商上ニ有害ナリトスルノ意嚮ニ傾ケル為メ「補助金ノ最大危険ハ関税ト同シク通商上ニ大ナル障碍ヲ来スルノ虞アル点ニ存スルヲ以テ本分科会ハ近年幾多ノ大国ニ於テ各種ノ産業ニ補助金ヲ与フルノ事実ニ対シ警告ヲ発セサルヘカラス」トスル議長ノ意見ハ格別ノ意義ナクシテ容レラレ左ノ如キ決議案ヲ原案ノ儘可決セリ

決 議 案

戦後ニ於テ諸国ハ関税ノ障壁ヲ著シク拡大スルト共ニ益々国庫補助金ノ制度ヲ採用セントスルノ傾向アリ就中此傾向ハ現時世界經濟ノ変態の情況ニ鑑ミ多少長期ニ亘リ国内産業並ニ輸出貿易ヲ援助スル目的ヲ以テ信用又ハ保護ヲ与フル間接ノ方法ニ於テ特ニ顕著ナリ

補助金ハ或場合ニ於テハ関税ヨリモ通商ノ自由ヲ妨クルコト少シト雖モ此方法ニ依テ生産及輸出ヲ奨励スルコトノ隠レタル固有ノ危険ハ之ヲ関税ニ於ケルト同様ニ重要視セサルヘカラス而シテ此方法ニ依頼スル国カ多ケレハ多キ程他国ニ取テモ之カ実行ヲ避クルコトハ益々困難トナルヘシ斯クテ外国貿易ヲ正常ノ状態ニ復帰セシメントスル企圖ハ補助金問題ニ於テ現実ノ障碍ニ逢着セサルヲ得ス

故ニ本会議ハ単ニ一種ノ申訳ニ過キササル直接又ハ間接ノ補助金ノ正体ニ就テ各国政府ノ注意ヲ促シ各国政府カ成ルヘク是等ノ方法ニ依頼セサランコトヲ望ム

二 ダンピング及ダンピング防止法制

(a) ダンピングノ定義

本問題ニ於テ先ツ注意スヘキハダンピングノ定義ニ関スル論争ナリ議長「リドベック」氏ハダンピングヲ広義ニ解シテ「国内市場ニ於ケルヨリモ低キ価格ヲ以テ外国市場ニ貨物ヲ販売スルコト」ト為シ「オーリン」教授（丁抹）ハ「ダンピングトハ貿易ノ正常ナル状態ヲ攪乱スルカ如キ方法ニ依リ異レル市場ニ於テ異レル価格ヲ以テ貨物ヲ販売スルノ謂ニシテ何ヲ以テ貿易ノ正常ナル状態ヲ攪乱スルト為スヤハ一ニ輸入国自身ノ認定ニ依ルヘキモノナリ」ト言ヒ「カウトキー」氏（壤太利）ハ普通ノダンピングノ外ニ社会的ダンピング（労働者ヲ安キ賃金ニテ長時間働カシメ之ニ依テ製品

ヲ比較的安ク外国市場ニ売出スカ如キコトヲ意味スノ存在スルコトヲ指摘シ「ライディ」氏（波蘭）ハ更ニ信用ダンピングナルモノ（資本ノ豊ナル国カ其乏シキ国ニ信用ヲ与ヘテ或種ノ貨物ノ購入ヲ事実上強制スルノ謂ナリ）ニ就テ注意ヲ促セリ

(b) ダンピングノ利害ニ就テハ甚シキ意見ノ相違アリ委員ノ多数ハダンピングノ弊害ヲ重大視シテ之ヲ極度ニ制限セントスルノ意嚮ナルニ反シ「サーノーマン・ヒル」氏（英）ハ「ダンピングハ重大ナル不利益ヲ伴フモ同時ニ物価ヲ引下クルノ利益アルヤモ知レス……人カ一国ノ生存ニ必要欠クヘカラサル原料ヲ購入スルニ必要ナル資金ヲ得ンカ為メニ其国ノ過剩製品ヲ国内ニ於ケルヨリモ安ク外国ニ売出スコトハ果シテ罪惡ナリヤ」ト言ヒ「ルシュール」氏（仏蘭西）モ亦「国内ノ市価ヨリモ安ク外国市場ニ貨物ヲ売出スコトハ極メテ普通ノ事ニシテ且ツ正当ナリ」トテダンピングヲ弁護スルカ如キ意見ヲ述ヘタリ

(c) ダンピング防止法制ニ就テハダンピングノ取締ニ必要ナル程度ヲ超ヘテ国内ノ商工業ヲ保護スルカ如キ弊ヲ除カントスル点ニ於テ各委員ノ意見略ホ一致セリ

(d) 日本代表ノ意見 我カ志立代表ハ本問題ニ就キ左ノ如キ意見ヲ陳述セリ

ダンピング防止法制ハ通商ノ自由ヲ促進スル為ニ必要ナルコト言ヲ俟タスト雖モ近時凡ユル種類ノダンピングニ對シテ取締ヲ嚴重ニシ以テ國際貿易上ニ大ナル障礙ヲ來タサントスルノ事実ニ就テハ御同様ニ注意セサルヘカラス

(1) ダンピングノ意義ヲ限定シ之ヲ狹義ニ解スルヲ可トス

(2) ダンピングノ行ハル、国ニ於テ競争者ヲ害スルノ意思ヲ以テ国内市場ニ對スルヨリモ低廉ナル価格ニテ外国市場ニ商品ヲ販売スル所ノ掠奪的ダンピングニ對シテ取ルヘキ手段ハ是認セラルヘキモノトス

(3) 斯カル手段ハ最惠國待遇ヲ矛盾スルモノニ非ス

ダンピング問題ハ大要右ノ如キ經過ニテ左記ノ結論ニ到達セリ

決 議 案

本會議ハダンピングノ問題ヲハ從來自由ナル關稅政策ヲ採用セル諸國ニ取テ特ニ重要ナリト認メ且ツ仮令消費者ハダンピングノ結果トシテ價格ニ就キ何等カ一時的ノ利益ヲ収メ得ヘシト雖モダンピングハ明カニ生産及商業ヲ不安全ナラシメ随ツテ安価ナル輸入品ヨリ受クル一時的利益トハ比較スヘカラサル惡影響ヲ生スル事實ヲ重大視ス

ダンピングカ一国又ハ數国内ニ於テ有力ナル商社又ハ商業聯合ニ依リ他國ノ同種産業ヲ破壊シ其後ニ於テ其國ノ市場價格ヲ釣上クル目的ヲ以テ行ハル、場合ニモ亦同様ニ言ヒ得ヘシダンピングハ之ヲ実行スル國ニ高率ナル輸入税ノ存在スルコトニ依テ容易ニ行ハレ且ツ輸入國ヲシテ必然的ニ高率ナル防禦的關稅ヲ採用セシムルニ至ルコト確實ナリ

本會議ハ若シモ各種ノ形体ニ於ケルダンピングノ最小限度ニ制限セント欲セハ（此一句ハ後ニ委員會ニ於テ「ダンピングハ最小限度ニ制限セサルヘカラス而シテ此目的ヲ達スルニハ」ト修正セラレタリ）凡ユル手段ヲ講シテ生産及商業狀態ヲ世界的ニ安定セシムルト共ニ輸出國ノ極端ナル關稅ヲ低減スルノ要アリト思考ス

然レモ本會議ハダンピングニ對シテ防衛手段ヲ取ルノ已ムナキ狀態ニ在ル輸入國ニ對シテモ極端間接又ハ煩瑣ナル手段ニ訴ヘル所期以上ノ効果ヲ挙クルナカラシコトヲ勸告スルモノナリ

（此項中「煩瑣」ナル辭句ハ我カ伊藤參事官ノ提案ニ依リ挿入セラレタルモノナリ）

三 自由通商航海保護ノ間接手段

本問題ニ關シテハダニープ河ノ輸送問題ニ就テ二三ノ討議ヲ見タル外特ニ記述スヘキ程ノ議論ナク起草委員ノ作成セル左記ノ決議案ヲ原案ノ儘可決セリ

決 議 案

(一) 一九二二年バルセロナ會議ニ於テ締結セラレタル通過ノ自由及國際關係ヲ有スル可航水路ノ制度ニ關スル一般の條約並ニ一九二三年ジュネーブ會議ニ於テ締結セラレタル鐵道ノ國際制度及海港ノ國際制度ニ關スル一般の條約ハ複雜ナル本

問題ニ就テ充分ニ考慮セルカ故ニ而シテ是等ノ条約ヲ一般のニ適用シ一方ニ関税ヲシテ交通ノ複雑ナル要求ニ可及の緊密ニ適応スルニ足ルヘキ弾力ヲ備ヘシムルコトニ注意センカ各種ノ運輸ニ対シテ鞏固ナル自由制度及何等不快ナル差別ナキ平衡ナル國際的待遇ヲ保障シ得ヘキカ故ニ一九二三年ジュネーブニ於テ締結セラレタル税関手續ノ簡捷ニ関スル一般の条約ノ可及的の広汎ナル適用ハ確實ニ各種運輸ノ自由ナル活動ヲ容易ナラシムヘキカ故ニ本會議ハ未タ前記バルセロナ及ジュネーブノ一般の条約ノ批准ヲ了セサル国家カ可及の速ニ之ヲ行ヒ且ツ可及の多数ノ国家カ之ニ加盟センコトヲ勧告ス

(二) 永久のニ運輸問題ヲ研究スル國際の大機關特ニ國際聯盟ノ交通及通過ニ関スル諮問的及専門的機關ニシテ各国政府間ノ協同運動ニ備フヘキ交通及通過機關

商業關係ノ有力ナル人々ヲ網羅スル國際商業會議所

歐羅巴ノ鐵道行政ト亜細亞ノ一部トヲ聯結スル國際鐵道同盟

歐羅巴ノ國際的河川ノ河川委員會並ニ海運及航空關係方面ヲ代表スル諸種ノ國際的機關ノ活動及協力ニ依リ最良ノ結果ヲ期待シ得ヘキカ故ニ

本會議ハ既ニ確立セル緊密ナル協力を將來ニ繼續セラレテ國際運輸ヨリ生スル諸問題ヲ各方面ヨリ考慮シ以テ各種ノ解決案ヲ処理センコトヲ望ミ併セテ各關係当局者カ是等諸機關ノ努力ニ援助ヲ与ヘンコトヲ期望ス

(三) 航海上ニ於テ国旗ニ依リ或種ノ間接的差別待遇ヲ為スコトアリ而シテ其差別待遇ハ海上ノ安全ト云フ点ヨリ見テ船舶ノ構造及設備ニ関シ均一的法規ヲ欠ケル為メ容易ニ行ハル、ノ事實ヲ認ムルカ故ニ

海上ニ於ケル生命財産ノ安全及海外貿易ノ利害上是等ノ見地ヨリ船舶ノ構造及設備ニ関シ均一的法規ヲ一ノ國際協約中ニ包括セシメ各海運国カ斯カル法規ヲ相互ニ承認スルコトハ望マシキカ故ニ

本會議ハ

- (a) 現ニ此点ニ於テ均一ノ國際法規ヲ採用セントシテ各種ノ手段ノ講セラレツ、アル事實ヲ認メ
- (b) 是等ノ法規カ一般ニ適用セラル、ヤウ各海運国カ各自国ノ船舶上ニ一様ナル安全設備ヲ施スコトヲ承認スル諸協約ヲ締結スヘク努力センコトヲ勧告ス

六 工業部委員會

序 言

國際經濟會議ニ於ケル工業部委員會ノ議題ハ

1 重要工業ノ状態

生産能力實際産額消費雇傭等ノ關係

2 現今工業界行詰リノ諸原因

其工業上商業上又及金融上ノ諸原因

3 実行事項

(a) 生産組織

殊ニ生産消費労働ノ三方面ヨリ考慮セル工業上ノ國際的協定

其法律的關係

其関税問題トノ關係

(b) 工業生産ニ関スル統計書類ノ蒐集並其迅速ナル交換ノ必要

倉橋委員 起草

トシ

会議ノ議題トシテハ寧ろ漠然タル取り止メナキ問題ニテ到達セル結果ニ就テ見ルモ亦同様ノ感アリト雖モ斯クノ如キ漠然タル問題ヲ最重要ナリトシ各国出席代表ハ大抵本部会ニ於テ最熱心ニ討議シ又聴取セル所ニ今回ノ会議並ニ本会議ヲ通シテ見タル歐洲經濟界ノ実相ノ半面カ明確ニ看取セラルハヲ見得ヘリ此意味ニ於テ本部会ハ興味アル立場ヲ保持シ或意味ニ於テハ部会ト云フヨリハ總會ノ延長ト見ルヲ適當トスル如キ觀アリキ

会議進行ノ概況

(1)五月九日國際聯盟事務局ニ於テ第一回ヲ開キ其後委員會ヲ開クコト十二回

内 第一回ハ議事方法

第二乃至四回ハ「工業界行詰リノ諸原因」ニ就テ

第五回乃至六回ハ「ラシヨナリゼーション」ニツキ

第七回乃至九回ハ「國際的工業協定」ニツキ

第十回乃至十二回ハ「決議原案」ニ關スル討議修正

等ニ費シ尚別ニ

「ラシヨナリゼーション」決議案起草委員會ヲ開クコト三回

工業統計ニ關スル決議案起草委員會二回並

工業統計専門委員會一回

國際的工業協定勸告案起草委員會四回

ヲ催シ五月九日午前十時三十分第一回委員會ヲ開キ同二十日午後一時半第十二回委員會ヲ閉チテ全ク工業部委員會ノ

任務ヲ終了セリ

(2)委員會議長ハ「チエッコスロヴァキア」ノ「ホタツク」氏副議長ハ「ルーマニア」ノ「ノクルシア」氏「チリ」ノ「ウルツア」氏ノ両氏ヲ推シ後第三副議長トシテ労働者側ヨリ英国ノ「ピュー」氏ヲ追加シ

報告者トシテハ「フランス」ノ「ペイリムホフ」氏及「イタリー」ノ「ピレリ」氏ノ両氏等ヲ挙げ

各国代表トシテ出席セル主ナル者ハ米国ハ「バルフォア」氏「ムスブラット」氏等米国ハ「ロビンソン」氏等仏国ハ「ルシュール」氏「ジュオー」氏「フォンテーン」氏等独国ハ「シーメンズ」氏「ラムマース」氏等伊国ハ「ピレリ」氏「マウロ」氏等露国ハ「オボレンスキ」氏「ソコルニユア」氏等トシ「ルシュール」氏等ニ議長ヲ助ケテ議事ノ進行ヲ図リ「バルフォア」氏亦絶エス各国代表者間ニ説キテ幹施之レ努メ独逸ノ「ラムマース」氏ハ歐洲大陸ヲ代表トシテ本部会ノ指導的演説ヲ二回ニ亘リテ試ミ仏ノ「ジュオー」氏ハ「ベルギー」ノ「メルテンス」氏ト共ニ第二「インターナショナル」ヲ代表シテ屢々發言シ露国代表者亦各事項毎ニ發言セリ

日本代表部ヨリハ斯波代表倉橋長井兩隨員阪本書記官等出席セリ

(3)議事進行ノ順序トシテハ第一回委員會ニ於テ協議ノ結果

1 各種工業ノ状態ニ關シテハ討議ヲナサス會議提出ノ書類ニヨルコト、シ万一會議ノ途中ニ於テ特殊ノ必要ヲ生シタル場合ハ専門家ヲシテ分科委員會ヲ組織討議セシムル事トシタルカ結局分科會ヲ開カス又特別ノ決議ヲナスニ到ラス

2 工業行詰リノ諸原因ニ就テハ一般の討議ヲ行ヒ其結果ヲ報告ノ頭初ニ綜合列挙シ從テ工業委員會ハ實質的ニハ

3 a 生産組織ヲシヨナリゼーション國際的工業協定ニ重キヲオキ傍ラ

b 工業統計ノ問題ヲ取扱フ事トナリタリ

工業行詰リノ諸原因

本問題ニ就テハ五月九及十日ノ両日ニ亘リ三回会合シタルカ独逸ノ「ラムマース」氏ハ独逸聯邦議會議員ニシテ且全獨工業協會ノ理事兼國際カルテル問題特別委員長トシテ今回ノ工業部委員會ノ智囊トモ目スヘキ人物ナルカ氏ハ現時歐洲工業界行詰リノ諸原因ハ全部必スシモ戦争ノ影響ト云ヒ難キモ戦争ノ結果各國ノ相對的地位カ著シク变化シ殊ニ經濟的ニ歐洲カ債務國トナリ北米合衆國カ世界ノ債權國トナリタル事ハ事実ニシテ此兩大陸間ノ經濟關係カ平衡ヲ得ルニ非サレハ歐洲ノ工業家ハ常ニソレタケ「ハンチキャップ」ツケラル、結果トナルハ当然ト云ヒヘク即チ歐洲工業界行詰リノ原因ハ絶エサルヘキヲ述ヘ

此難問ヲ突破スルタメニハ特ニ歐洲ノ現状ニ於テ工業生産物協定ヲ目的トスル「カルテル」組織ノ必要アリトテ転シテ独逸ニ於ケル工業ノ「ラシヨナリゼーション」ノ經過ヲ述ヘ

之ニ対シ労働者側殊ニ第二「インターナショナル」側トシテ仏國ノ「ジュオー」氏ハ

經濟復興ノ基礎ヲ社会正義ニオクヲ要スル事

會議ノ結果カ空論ニ終ラサル^(マ)放^(マ)注意スヘキ事

國際的工業協定ハ消費者労働者ノ利益ヲ充分考慮スルヲ要シ之カタメニハ國際的ニ監督機關ヲ設ケ且ツ協定内容ノ公表ヲ必要トスト論シ北米合衆國ノ「ロビンソン」氏ハ歐洲近年ノ工業界行詰リノ原因トシテ生産設備ノ過大ナル膨張購買力ノ減少關稅政策ニ基ク市場ノ閉鎖等ヲ挙ケ之カ救済トシテハ合衆國ニ行ハルニ方法必スシモ歐洲ニ直チニ適用シ難カルヘキモ尚無駄ヲナクスル運動(Anti Waste Campaign)機械ノ応用ノ生産單位ノ拡大等ハ恐ラク歐洲ノ今日ニ適用シテ効果ナルヘシ然シナカラ本會議ニ於テ合衆國ハ歐洲ニ対シ何等勸告カマシキ発言ヲナス意志ナキ旨ヲ述ヘタルカ事實上歐洲經濟界復興促進ノタメニ計畫サレタル本會議ニ於ル合衆國代表ハ常ニ此最後ノ一句ノ如ク極メテ冷静且傍觀的態度ヲ以テ終始セリ

以上ノ諸説ニ対シ「ソヴェット」聯邦ノ「プレス」氏ハ現在工業ノ行詰リノ最大原因ハ失業問題ナリ然ルニ他ノ歐洲各國ノ代表者等ハ經濟的平和ノ美名ノ下ニ賃金ヲ増サスシテ労働者ニ犠牲ヲ払ハシメントスルハ不可ナリ被國際「カルテル」「ラシヨナリゼーション」ノ如キハ要スルニ資本主義的國家ニ於ケル労働搾取ノ一新手段ニスキサルニ拘ハラスクノ如キ狀態ノ下ニ「ジュオー」其他第二「インターナショナル」代表者等カ資本家ト妥協セントスル態度ヲ難セリ
我カ斯波代表ハ「日本ニ於ケル工業行詰リノ諸原因」ト云フ提出シ朗讀ヲ省略シテ會議關係者ニ議長ヨリ頒布セリ議長ハ其際各國ニ關スル書類ハナルヘク日本代表ノ例ニ倣ハン事ヲ希望シ各國共之ニ從ヘリ決定

以上ノ如キ諸論ヲ綜合シ五月十四日開催セル國際的工業協定ニ關スル起草委員會ハ各國工業界行詰リノ諸原因ヲ概括摘録シ更ニ報告者ニ於テ之ヲ導メテ交渉委員會並工業部委員會ニ提案シ可決ノ上總會ニ提出シテ可決ヲ定見タルモノ即チ工業部委員會決議第一項工業界趨勢(Industrial situation)之ナリ

ラシヨナリゼーション

本問題ニ關スル工業部委員會ハ五月十一日午前及午後ノ二回之ヲ開催セリ

「ラシヨナリゼーション」(産業ノ合理化運動ト訳スル者アリ)ハ戦後合衆國ニ於テ無駄ヲ省ク運動(anti Waste Campaign)單純化(Simplification)規格統一(Standardization)等ノ諸種同一傾向ノ運動ヲ綜合セルモノトシテ提唱セラレテ效果ヲ挙げ歐洲ニ於テハ独逸カ戦後産業界ノ積極的整理ノ根本精神トシテ強調シ勞資並公衆全体ノ協力ヲ得テ顯著ナル成績ヲ挙げ得タル運動ニシテ今回ノ會議ハ之ヲ大觀スレハ歐洲經濟界ノ「ラシヨナリゼーション」ノ可能性ヲ攻究スル會議トモ云ヒ得ヘク此精神ヲ全歐洲ニ普及徹底セシメテ産業經濟復興ノ基礎タラシメントセルハ当ニ然ルヘキ所ナルモソレタケ又一面ヨリ見レハ「ラシヨナリゼーション」ハ總論又ハ序論ノ一部ナルヘクシテ工業部ノ各論ノ一部タルヘキモノニアラサリシタメ結果モ亦自ラ漠然タルモノニアレリ此ハ寧ロ当初ヨリ予見セラレタル所ナリ

其一

經過（一般的討議）

會議ニ於ケル各種ノ議論中「イタリー」ノ「マウロ」氏（万国科学的管理協會々長）ハ本議題ハ単ニ工場組織ノ合理化ヲ意味スルモノナラス全産業組織ノ合理化ヲ意味シ之ニ対シ労働者側ハ失業者ノ激増ヲ懸念スルモノナリト雖モ一時ノ過度期ニ於テハ兎モ角真ニ産業組織全体ノ合理化セラル時ハ当然失業者問題モ亦解決セラルヘキ事ヲ説キ独逸ノ「ラムマース」氏ハ第三回委員會ニ於テ独逸ニ於ケル本運動ノ經驗ニ言及シ独逸ニ於テ本運動ノ奏効セル大原因ノ一ハ労働者等カ祖国ノ危機ニ善処スルタメ一身ノ利害ヲ度外視シテ協力セル結果ニ俟ツ事多キ旨ヲ述ヘタリ（備考、事実独逸ニ於テハ本運動ノ結果一時失業者ヲ増加シタルモ整理カ一段落ヲ告ケタル後ハ却ツテ失業者数ヲ漸減シ今日ハ戦後失業者数最少ナキヲ示セリ）

其他消費者労働者ノ利益ヲ考慮スヘシト説クモノ又家庭内ノ細事台所ヨリノ合理化ヲ急務トナスモノ等労働者側及ヒ婦人代表等ニアリタリ我斯波代表ハ工業ノ合理化ニ就テハ種々ノ方法アリト雖モ他ノ代表ノ詳述セルモノニハ言及セサル事トシコ、ニ最適切ナル二項目ヲ挙クヘシトテ

1 工業ノ合理化ハ原料問題ノ解決ヲ以テ先決的且根本的必要条件トナス而シテ之カ為ニハ

原料ノ合理的開發

原料ノ自由且公平ナル分配

原料ノ効率高ノ利用方法ノ研究ニ関スル國際的協力

ヲ必要トス次ニ

2 工業品規格統一事業ヲ國際化スルヲ要ス即チ今日ノ如ク各国カ夫々異ナル標準規格ヲ設ケテ工業品ヲ各国別ニ統一スル事ハ結局一ノ新ナル國際通商障害タルニ致ルヘシヨツテ一九二六年米国「ニューヨーク」市開催ノ第三回國際工業品規

格統一會議ノ趣旨ニ基キ速ニ權威アル万国規格統一機關ヲ創立スルト共ニ更ニ進ンテ万国共通ノ規格ノ設定ヲ促進スルヲ要ス

ト述ヘタルカ此両点ハ其後ノ演説者皆言及シ決議中ニモ之ヲ採用シ殊ニ第二項ハ殆ント斯波代表ノ演説ノ言句ニ從ヘル事後条ノ如シ

其二

經過（原案ニ対スル討議）

本議題ニ関スル原案起草委員會ハ五月十二日及十三日ニ亘リ三回開催シ「イタリー」ノ「マウロ」氏ノ原案ニ基キ協議シ其趣意ヲ認メ尚報告者ニ於テ字句ノ修正又ハ多少ノ追加スル事トシ仏国ノ「ペイハムホフ」氏改案ノ上第二回ニ提出シ多少ノ字句修正ヲナシ第三回ニ於テ原案ヲ議了決定シ五月十六日工業部委員會ニ報告審議ヲ開始セルカ劈頭「スカンジナビア」諸邦代表等ハ連名ヲ以テ修正案ヲ提出シ起草委員會ノ原案ハ果リ労働者側ノ意ヲ迎フルニ偏シ工業經濟者側トシテハ殊ニ賃金ノ増額失業者手当労働組合トノ協定等ニ関シ種々ノ過重ノ義務ヲ負担セシメラル、惧レアリ元来本議題ノ如キ専門の問題ニ就テハ労働者側ノ意見ヲ徵スル必要ナシ就中「スカンジナビア」諸邦ハ其工業ノ現状ニ鑑ミ殊更カ、ル決議案ヲ採用スル必要ヲ認メスト切論セリ仏国ノ「ジュオー」氏ハ起草委員會ノ原案ハ労働者側ニトリテハ容認シ得ヘキ最低限度ノモノニシテ之ヨリ何等ノ削減ヲナシ又ハ労働者側ニ不利ナル修正ヲナスラ認メ難キ旨ヲ「ベルサイユ」条約第十三章ヲ引用シテ断言シ「ロシア」代表「リウビンウ」氏ハ真ノ「ラシヨナリゼーション」ハアラユル生産手段ノ所有權カ社会自体ニ有スル「ソウエート」聯邦ノ如キ国柄ニ於テ始メテ実行可能ナリ此点ヨリ觀レハ原案ノ如キハ「ラシヨナリゼーション」実行ノ過程ニ於ル労働者ノ利益ヲスラ擁護シ得サルノミナラス本原案実行ノ結果ハ却ツテ全労働者階級カ一層其労働ヲ搾取セラル、事明ナルヲ以テ宜シク大ニ賃金ヲ値上シ軍事費ヲ減シ戦時債務賠償ヲ廃棄シ「ソウエート」聯邦トノ經濟的連絡ヲ密接ナラシメ「ソウエート」聯邦代表ノ總會ニ於ケル演説ノ趣旨ヲ採用実行スルヲ以テ更ニ急務トスヘク此

意味ニ於テ原案ニハ全ク反対ナル旨ヲ声明シタルカ結局原案ハ「ソウエート」聯邦ヲ除ク外全員ノ賛成ヲ以テ五月十七日午後ノ第十一回委員会ニ於テ可決ヲ見タリ

工業統計

工業統計殊ニ世界的ニ重要ナル工業ノ生産ニ関シ原料産出供給貯蔵市価賃銀雇傭關係等ニ付各国政府ハ國際聯盟經濟委員會等トノ間ニ充分ノ諒解ヲ遂ケ以テ正確ニシテ迅速ナル情報ノ蒐集交換等ヲナサン事ハ何人モ反対セサル所ナルヲ以テ工業部委員会ハ本問題ニ関スル一般の討議ヲ略シ最初ヨリ専門家ノ手ニ一任シテ実行ノ範圍方法等ヲ研究セシムルコトナリ

専門家ノ会合ヲ五月十一日ヨリ三回開催セリ
經過

専門委員会ニ於テハ勿論趣旨ニ反対スルモノハナク問題ハ如何ナル実行方法ニヨルヘキ又其種類程度如何ニ帰着シ而シテ小国ハナルヘク工業ノ種類ト共ニ調査項目ヲ減シヨツテ其負担ヲ軽減セン事ヲ主張セリ

我カ斯波代表ハ専門委員会第一回ニ臨席シ國際的工業統計ヲシテ真ニ意義アラシメンカ為ニハ度量衡單位ヲ統一シ以テ比較研究ニ便ナラシムルヲ要ス此意味ニ於テ本會議カ原則トシテ一定ノ度量衡單位例ヘハ「メートル」法ヲ採用センコトヲ勧告セリ

決定

上記専門委員会ノ作製セル案ハ五月十三日及十四日ノ兩回ニ亘リ起草委員會ニ於テ審議シ更ニ報告者カ修正ヲ加エテ可決セル上十七日午後工業部委員会ニ提案シ二三ノ小修正ヲナシ其際「ソウエート」聯邦代表ハ本案ノ実行ヲ「ヘーグ」ニ於ケル國際統計協會ニ一任スヘキヲ提案セルモ否決セラレタルタメ此原案ニ反対シ又北米合衆國代表ハ趣旨ニハ全ク賛成ナ

ルモ同國ハ國際聯盟ノ加盟國ナラサルノ故ヲ以テ聯盟經濟委員會ヲ中心トシテ統計情報ノ蒐集ヲナサントスル原案ニ對シテ投票スルコトヲ保留スル旨ヲ述ヘ

其他全員ノ賛成ニヨリテ原案ヲ可決セリ

國際的工業協定

本議題ハ關稅ト共ニ今回ノ會議ノ二大問題トシテ取扱ハレ

五月十二日及十三日ニ亘リ三回討議セルノミナラス總會工業部委員會ノ終始ヲ通シテ常ニ議論ノ中心トナリタルカ此「カルテル」ノ形ニヨリテ國際的ニ工業上ノ協定ヲナサントスル事ニ就テハ大國ト小國農業國ト工業國トノ間ニ意見ノ一致ヲ欠キ又各國ニ於テモ生産者ト消費者企業者ト労働者トノ利害一致セサルタメ結局吾人ノ最初ニ予期セサルカ如ク一定ノ結論ニ達スルニハ到ラサリシハ当然ト云フヘシ

其一經過（一般的討議）

独逸ノ「ラムマース」氏ハ全獨工業協會理事兼國際「カルテル」問題特別委員會委員長トシテ本問題ニ最精通セリ氏ハ今回提議セラレタル國際「カルテル」ハ戰前ノ「カルテル」トハ全ク其選ヲ異ニシ企業聯合ニヨリテ利害ノ独占ヲナサントスルモノニアラス各國ノ工業界行詰リ状態ヲ打開シ産業状態ヲ國際的ニ合理化シ歐洲戰後ノ經濟的復興ヲ促進助長セントスル新ナル且有効ナル手段意大現漠ナル工業上國際的「ラシヨナリゼーション」ニ外ナラス

消費者労働者側ヨリ懸念セラルカ如キ弊害從テ之ヲ前提トシテ述ヘラル、^{（策カ）}「カルテル」取締ニ就テハ今日國際的ニ有効ナル取締ノ実行ハ殆ント不可能ニ属スルヲ以テ各國カ夫々適當ナル國內的對義ヲ講スルト共ニ國際仲裁々判所ノ如キ機關ノ成立センコトヲ希ミ尚此國際「カルテル」ニ関シ輿論カ今日稍々モスレハ從來ノ「カルテル」ニ對スル觀察ニ囚ハレヨク事ノ真相ヲ究メスシテ反対スルカ如キ態度アルヲ遺憾トシ本會議ニ於テハ宜シク今回提議セラレタル國際「カルテル」ノ

性質ニ就テ正当ナル諒解ヲ進メ公論ヲ指導スル必要アリト切言セリ

仏国ノ「ジュオー」氏ハ今回特殊ノ目的ヲ以テ立案セラレタル此國際「カルテル」ハ國家ノ管理ノ下ニオクヲ要ストシ強力ナル國際「カルテル」ノ出現ニ対シ労働者カ社会政策上ノ見地ヨリ恐怖ヲ感スルハ無理ナラサル所ナリヨツテ労働者ハ消費者ノ立場ニ於テ監督ヲ怠ラサルヲ要スヘク又之ニ關聯シテ國際的労働大会ノ必要ヲ説キ最後ニ各国カ協定ニヨツテ「カルテル」ニ關スル法律ヲ一致セシメン事ヲ提案シ尙國內的乃至國際的機關ニ於テ本問題ノ調査研究調節ヲ実行スル殊ニ「カルテル」内容ノ公表ヲ絶對ノ必要ナリト痛論セリ

以上ニ対シ北米合衆國代表「ロビンソン」氏ハ合衆國ハ國內法ノ關係上産業ノ独占的性質ヲ有スル決議ニハ参加シ難キ旨ヲ声明シ又「ソウエート」聯邦代表「ソコルニコフ」氏ハ同國ニ於テモ「リンネル」白金、礦油「マツチ」等ニ關スル國際「カルテル」存在セル旨ヲ述ヘテ興味ヲ引キタルカ氏ハ進ンテ國際的工業協定ハ工業ノ國ヲ基調トスルヲ要シ從テ資本主義的國家ニ於テ行ハレントスル國際「カルテル」ハ益々資本家ノ横暴ヲ助長スヘキ事想像ニ難カラサルヲ以テ本議題ニ對シテハ全ク反對ナリト論シタリ

其二經過（原案起草並原案ニ對スル討議）

五月十四日本問題ハ原案起草委員會ノ手ニ移サレ第一回ハ重要工業ノ「カルテル」化ニ關スル各種ノ疑問ニ付キ意見ヲ交換シ殊ニ國際的工業協定ニツイテ國際的制裁機關ノ可能性ニ付協議ヲナシタルモ纏マルニ至ラサリシヲ以テ報告者ニ於テ各種決議案ヲ整理シテ今後ノ審議ノ參考資料ヲ提出スルコトトシ爾來報告者ノ整理未了ノ故ヲ以テ再度流會ヲ重ネ此間ニ英仏獨伊等ノ各國委員會ニ屢々會合妥協點ヲ見出スニ努メ消費者並労働者側ノ意見ヲ充分考慮ニ容レテ漸ク原案ヲ作成シ工業部委員會ニ提出セリ

此間ニ商業及農業ノ両委員會ハ總テノ議事ヲ了シテ報告ヲ議長ニ致シ唯工業部委員會ノミヲ残スニ至レリ此事ヲ以テ此國

際「カルテル」問題カ本會議ノ難關ニシテ容易ニ妥協點ニ達シ得サリシ事ヲ想見スルニ足ルヘシ

工業委員會ニ於ケル原案ノ審議ハ五月二十日行ハレ劈頭「ノルウエー」代表「ウエッセル」氏ハ本會議ニ於テ國際「カルテル」ニ關シ如何ナル決議ヲモナササルヘキ事ヲ提案セシカ提案説明後議長並報告者ノ説明ニヨリ動議ヲ撤回シ仏國代表「ジュオー」氏獨逸代表「フルエンドリツヒ」夫人等ハ労働者側又ハ消費者側ノ立場ヨリノ意見ヲ述ヘテ國際的制裁並内容ノ公開ヲ主張シ北米合衆國代表「ロビンソン」氏ハ本報告案ハ「トラス」ト「カルテル」ノ意義ノ明瞭ヲ欠クコト合衆國ハ産業ノ独占ニハ常ニ反對ナルコト從テ投票ニ加ハリ難キ旨ヲ声明シ「ソウエート」聯邦代表「ソコルニコフ」氏ハ本報告案ニ反對ノ旨ヲ宣言シ結局後條ノ如キ勸告ノ案ヲ可決シテ遂ニ具體的ノ決議ヲナスニハ到ラサリキ

結論

工業部委員會ノナセル所ヲ通觀スルニ本部ハ左ノ諸點ニ於テ商業並農業ト稍異ナル行方ヲナセルモノト云フヘシ即チ

I 農商ニ於テハ現ニ差當リ困難ヲ感セル具體的且多クハ技術的問題ニ付其解決又ハ緩和ヲ策セントスルニ對シ工業ノ問題

ハ「ラシヨナリゼーション」及國際「カルテル」トモ米又ハ獨逸等少數ノ國ニ於テ最近抬頭シ來レルモノナルタメ長短得

失ヲ云々スルモ多クハ推理憶測ニ止マリ明瞭ナル理解ニ欠ケルタメ從ツテ又一定ノ結論ニ達セサリシ事

II 問題カ概念ノ域ヲ脱セス且相互密接ノ關聯ヲ有セルタメ分科又ハ小委員會ニ分ツヲ得ス全委員會ヲ以テ終始セルコト

III 農商ニ於テハ細目ニ就テハ勿論異説アリシモ大体ニ於テハ同一傾向ヲ示シ極端ナル反對論ヲ見サリシカ工業殊ニ國際

「カルテル」ニ關シ從ツテ又之ト關聯セル「ラシヨナリゼーション」ニ關シテハ前述ノ如ク大國對小國農業國對工業國

生産者對消費者企業者對労働者更ニ歐洲對米國ノ利害一致セサル為メ議論區々ニ別レ少ナクトモ

イ歐洲大工業國

ロ労働者並消費者側代表者

ハ北米合衆國

ニ「ソウエート」聯邦

ノ四ツノ異ナル流カ絶エス衝突セル事

IV 經濟會議ニ於テ最モ政治乃至社会的色彩濃厚ナリシ事

等ノ諸点ハ顯著ニ看取セラレタリサレハ今会ノ經濟會議ニ於テ工業部委員會ノ所謂具體的成績如何ト云ヘハ種々議論ノ

余地アルヘク例ヘハ

甲ハ國際「カルテル」ニ關スル具體的結論ニ達セサリシ故ヲ以テ國際經濟會議ヲ半ハ失敗ナリトシ

乙ハ兎モ角モ國際「カルテル」ニ關シ各種ノ反對異論ヲ排シ例會妥協ノ結果骨抜トナリシト云ヘ一ノ申合ニ到達セルヲ以テ經濟會議ノ一ノ成功ノ要素ニ數ヘルカ如ク

會議ノ成果ニ對スル世評ハ工業部委員會ノ業績ニ關スル見方ニヨリ樂觀論トナリ悲觀論トナレル觀ナキニアラス然シナカラ真理ハ常ニ中間ニアリテ開會前關稅ノ問題ト共ニ會議ノ二大中心問題トセラレ委員會ニ於テハ各國共最モ重キヲオキ多クハ首席代表（英米独仏露等悉ク然リ）出席シ又各國少クトモ重ナル二三ノ代表出席シ最長キ期間ニ亘リ終始異常ナル緊張裡ニ會議ヲ進メナカラ結局各種利害ノ衝突異論続出ノ結果骨抜案ヲ作製シテ漸ク終リヲ告ケタル間ノ經過ノ表裏ノ消息ハ最モヨク國際經濟關係ノ複雜ニシテ容易ニ安定シ得サル事實ヲ雄弁ニ物語ルモノト云フヘク然シ又一面此漠然タル如キ勸告案中ニ今後ノ歐洲經濟產業界カ如何ニ動キ從テ之カ國際經濟產業界ニ如何ニ影響セントスルカラ略々看取セラルヘク就中國際「カルテル」カ國際關係ノ表面ニ姿ヲ現ハシ來レル結果労働者側ハ之ヲ資本家階級ノ國際的結合トナシ労働組合ノ國際的團結ノ促進ニ利用スル傾向モ見出サルヘクサレハ彼ノ申合セノ字句ヲ見テ工業部ノ成績ヲ云為スルハ寧ロ早計ニテヤハリ結果ニ於テモ國際「カルテル」問題ハ關稅問題ト共ニ兩大問題タルヲ失ハス唯其間ノ相違ハ關稅ニ在テハ解決ヲ求メントセルニ對シ國際「カルテル」ハ新問題ヲ提供セルモノト云フヘク即チ問題ハ將來ニアリテ樂悲左右ハ今俄ニ断定シ難カルヘク歐洲經濟界從テ世界經濟界ノ今後ノ推移進展ニ注意スル者ハ此意味ニ於テ國際「カルテル」乃至之ニ類スル

經濟產業上ノ諸運動ニ對シテ最熱心ナル注意ヲ払フヲ必要トスヘシ

報告書

工業部委員會ノ決議ニヨリ總會ニ報告シ總會ニ於テ可決確定セル報告全文次ノ如シ
(別紙添付)

七 國際經濟會議復命書（農業關係）

農業委員會

農業委員會ハ九日午前十時三十分「オットフランゲツヒ」議長ノ下ニ「ザールドレフォルマシオン」ニ開催セラレ劈頭議長ハ一般討議ヲ十日午前中ニ終リソレヨリ左ノ分科會ヲ組織シ各決議案ヲ作成スヘキ旨ヲ宣ス

一、農業產業組合問題（第二分科會）

一、農業信用問題（第三分科會）

一、其他ノ一般の問題（第一分科會）

一般討議ニ於ケル各國代表演說概要左ノ如シ

仏國代表「ゴージェー」

農業者ノ購買力カ商工業ノ繁榮ニ重要ニシテ世界人口ノ半数ハ農業者ナルヲ以テ農業ニ從事スル者ノ購買力ハ商工業者ノ

佐藤代表
荷見委員
起草

購買力等シカラサルヘカサル所以ヲ力説シ之カ為ニハ各国ニ於テ技術的方法農業機械肥料農業教育農業簿記等ノ活用ニ依リテ生産ノ増加ヲ図ルサルヘカラストシ尚生産物ノ販売ニ関シ若シ小農家ニシテ自ラノ資源ニヨリテ所要物ヲ購入シ其生産物ヲ販売セサルヲ得サルニ於テハ其実権ハ仲買人ノ手ニ帰スルカ故ニ農家ハ須ラク組合組織ニヨリ協力ノ威力ヲ以テ其実権ヲ保持スヘキヲ説キ更ニ進テ農業金融ニ及ヒ農業信用機関ノ完備及資金ノ充実ノ問題ヨリ国際信用組織ヲ考慮スルノ要アリト結ヘリ

波蘭土代表「ステッキ」

農家購買力ノ増進ニ付意見ヲ述ヘ一ノ決議案ヲ提出セリ

(本案ノ主旨ハ確定決議中ニ包含セラレタリ)

和蘭代表「ロビン」

議題中農業ニ関スル有効ナル情報ノ継続的交換ニ付テハ既ニ万国農業協会之レヲ実行シツ、アル事實ヲ挙ケ本委員会カ同協会ト協力センコトヲ望メリ

葡萄牙代表「モニック」

農業委員会分科会ノ組織ヲ左ノ如クセンコトヲ提案セリ

一、国際農業関係分科会

種子肥料ノ交換産地標識ノ保護及国際課税簡捷ノ問題研究ヲ担当ス

二、農業對進ヲ企図セル手段及制度ノ分科会

生産組合農業信用技術的手段農業労働問題ヲ担当ス

三、一般問題及農業ト他ノ生産消費組織トノ関係ニ付テノ分科会

商工委員会トノ関係購買力増進ノ研究其ノ他ヲ担当ス

独逸代表「ヘルメス」

情報交換ニ関シ和蘭代表「ロビン」ニ賛成シ万国農事協会ノ蒐集発行セル統計中ヨリ小麦及人造肥料生産高ノ統計表ヲ挙ケ人造肥料ヲ多量ニ使用スル国ハ多クノ生産ヲ挙ケツ、アル事實ハ注目ニ価スト結ヘリ

瑞典代表「オルネ」

工業ト農業トノ間ニ於ケル不均衡ノ問題ハ瑞典ニ於テハ既ニ戦前ヨリ存在シタル旨ヲ述ヘ右ハ工業「カルテル」ノ成立カ農産物ノ価格ヲ低下セシメ肥料及原料品ノ価格ヲ騰貴セシメタルニ因ルモノニシテ斯ノ如ク「カルテル」化サレタル工業ニ對シテハ強力ナル消費者ノ団体ヲ必要トス而シテ価格高騰ノ政策ニ對抗スル最良ノ手段ハ産業組合運動ニ在リト結ヘリ

国際産業組合聯盟代表「ポアソン」

産業組合運動カ密ニ消費者ノ組合ノミナラス生産者ノ組合ヲ包含セル混合性ニ付キテ論シ東部及南東部歐洲ニハ生産兼消費組合アルコトヲ挙ケ生産組合ト消費組合トノ関係ニ付独逸ニ於テハ農業者ノ組合ト「カウフマン」氏組合トノ間ニ了解成リ仏國ニ於テハ国際産業組合聯盟ハ「ゴージェ」氏及農業生産者組合聯合ト提携シ生産物ヲ最モ經濟的ニ購入スルコトトナレル旨ヲ説明セリ

土耳其代表「レシット サフベットベイ」

土耳其ニ於ケル農業狀況及近時ニ於ケル改革ニ付キテ述ヘ国際農業銀行設立ノ要ヲ説ケリ

英國代表「バーレー」

英國「コペラチブホーセルソサエティ」(CWS)ト諸外國ニ於ケル生産組合トノ間ニ於ケル關係ニ付キ次ノ如ク論述セリ組合カ丁抹ニ於ケル「バター」ヲ購入スル量ハ全丁抹ニ於ケル輸出ノ二割ニ達ス而シテ之レカ價格ノ決定ハ丁抹ニ於ケル商人(CWS代表ヲ含ム)及生産者ヨリ成ル價格委員会ニ依リテ為サレ代金ハ毎週支払ハル亦CWSハ西部「オーストラリア」及南部「オーストラリア」ノ小麦「プール」ノ輸出ヲ取扱ヒタルカ一九二六―二七年ニハ其數量ハ貳千六百七拾四

万六千「フツシエル」四百八十一万四百貳拾磅ニ及ヒタリ

右小麦ハ其ノ代理店及仲買会社ニ依リ倫敦市場ニ於テ販売セラレタリ而シテCWSノ購入シタル小麦ハ何レモ時価ニテ支払ハレタリ

「ニュージールラント」ノ生産物ヲ購入販売スル為ニ「ニュージールラント」生産組合ト称スル一ノ混合団体ヲ組織セルカ右ハCWS「ニュージールラント」組合員ト同額ノ出資ヲ以テ倫敦ニ設置セラレ兩者ノ委員会ニヨリ経営セラル

露西亞ノ組合ヨリ小麦ヲ購入スル為ニハ英國及露西亞ノ資本ニヨリ聯合委員会ヲ組織セリ

CWSノ取扱タル小麦ハ一九二六年ニ於テ六拾八万五千八百噸ニ上レリ

独逸代表「セリング」

大戰以來農業恐慌ノ原因ヲ説明シ農業ノ經濟狀態カ如何ニ一般經濟界ノ情勢ニ左右セラレタルカヲ明カニシ進テ課税運賃國際貸借信用狀態等カ農業者ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤニ付意見ヲ述ヘタリ

英國代表「エンフィールド」

農業生産物ト工業生産物トノ価格ノ不均衡ナル点ニ付注意ヲ促シテ曰ク若シ右ノ不均衡カ事實ニ在リトスレハ遂ニハ工業生産ヲ助長シ農業生産ヲ萎縮セシムルコト、ナル農業生産物ノ萎縮ハ最モ患フヘキ所ニシテ分科会ニ於テハ農業ノ技術的改良ノ方法ヲ討議スヘキモ技術上ノ積極的改善ハ直チニ之レヲ望ム能ハサルカ故ニ斯カル狀態ニ於テハ農業ノ回復ハ商工業ニ於ケル障礙ヲ除去スルニ依リテ望ミ得ヘキノミ若シ夫レ右ノ障礙ニシテ除カレスムハ畜ニ農業生産ノ助長ヲ期シ得ラレサルノミナラス猶其ノ生産ヲ制限セラルルノ結果ニ至ルヘシ

露国代表「オシンスキ」

委員会ハ一八七〇年ニ於ケル農業恐慌ト今日ノ恐慌トヲ區別スヘキヲ力説シ若シ今日ノ恐慌ノ原因ニシテ除カレスムハ恐慌ハ更ニ深刻ノ度ヲ加ヘムト云ヘリ

而シテ露国ノ採レル政策ハ米國ニ於テ屢々唱導セラレタル価格維持ノ為ニセル生産制限ニ非ラスシテ集約經營ニ依リテ生産ヲ増加セントスルモノナリ而シテ生産ノ増加ハ必スシモ価格ノ下落ヲ招来スルモノニアラストセリ

帝國代表佐藤寛次

本邦ノ農業ノ特質及現時ノ農業狀況ヲ説明シ各國代表ノ力説セシ集約度増進ハ歐洲ニ於テ極メテ余地多ク日本ノ土地生産力優越ナル点ニ注意ヲ喚起シタル後日本ニ於テハ單純ニ已ニ進ミタル集約農業ヲ一層集約ナラシムルコトハ困難アルヲ以テ近年幾多ノ效果ヲ挙げタル組合制度ノ活用ニ力メサルヘカラスト為シ尚各國ハ協力シ現在ニ於ケル經濟的不均衡ヲ除去スルノ要アルコトヲ述ヘタリ

「チリ」代表「ブリーバ」

欧米ニ於ケル戰前及戰後ノ智利硝石ノ消費並農業生産高ヲ統計ニ拠リテ示シ人造肥料ニ比シテ優良ナルコトヲ力説セリ

仏國代表「ゴテュー」

一ノ決議案ヲ提出シ委員会ノ討議ノ基礎トナサンコトヲ提言セリ（決議参照）

第一分科会（一般農業問題）

十一日午前三十分「ゴテュー」議長ノ下ニ「サールド、ラ、レフォルマシオン」ニ開催セラレ（本邦ヨリ佐藤寛次出席）議長ハ昨日「ゴテュー」提出ノ決議案ヲ基礎トシテ討議ヲナスヘキ旨ヲ宜ス而シテ討議ハ主トシテ農業ト工業トノ關係ニツキテ為サレタリ

「ルシユール」其ノ他ハ本日午後工業及農業ニ共通ナル傾向ヲ示セル一ノ声明書ヲ提出センコトヲ申出タリ

白國代表「チボウ」

決議案ニ賛意ヲ表シ工業生産物價格カ農業生産物價格ニ比シテ高価ナル事實ニ関シ万国農事協會ハ毎月前二者ノ價格ノ比

較ヲ発表スヘシト云ヘリ

独逸代表「カイザー」

家畜生産統計ノ完全ナルモノナキヲ挙げ委員会カ輿論ヲ喚起シ家畜生産ノ改善ヲ図ランコトヲ希望セリ

丁抹代表「ゾンネ」

農業生産物移動ノ自由ノ必要ヲ論シ関税ヲ直チニ撤廃スルヲ得ストスルモ先ツ税率ヲ低下スヘシトセリ

英国代表「ベラビー」

「ゾンネ」ニ賛成シテ曰ク農産物ト工産物トノ価格ノ不均衡ヲ除ク為ニハ第一ニ工業ト同様ノ保護ヲ農業ニモ与フルコト
第二ニ生産及生産物ノ交換ヲ増進スルコト及関税ノ低下ヲ必要トスト

万国農業協会代表「ルイトップ」

左ノ決議案ヲ提出ス

一、小麦ノ格付統一 (Standardisation)

二、農業ハ工業ト同様ノ制度ヲ有スヘシ (Regime)

三、農業者ハ正当ノ支払ヲ受クヘシ

四、国際交換ヲ容易ナラシムヘシ

五、農業組合ヲ利用スヘシ

六、小麦ニ関スル諸問題ヲ研究スル為各種ノ機関ヲ設置スヘシ

米国代表「ホブソン」

左ノ決議案ヲ提出ス

一、国際経済会議ハ万国農事協会ノ計画セル一九三〇年ノ世界農業実施調査 (「センサス」) ノ施行ヲ是認スルコト

二、国際経済会議ハ各国ヲ懲罰シテ重要農産物ノ消費及在高統計ノ蒐集ニ協力セシムヘシ

三、各国ハ農業所得生産費及粗収入ニ関スル正確ナル統計ヲ蒐集スヘシ

四、万国農事協会ハ右ノ為近ク農業統計専門會議ヲ開催スヘシ

五、會議ハ国際農業問題ニ関シ年報ヲ発刊スルコトヲ首唱スヘシ

仏国代表「ルシュール」

工業及農業カ絶対相依ノ上ニ立ツコトヲ力説シ吾人ハ生産ノ増加ト購買力ノ増進ノ重大問題ヲ忘ルヘカラストシ尚購買力
ノ増加ヲ望マハ農業者ノ為ニ農産物ノ適当ナル価格ヲ保証スヘキナリ諸国ニ於テ工業主義ハモ早ヤ過キ去リタリ工業ハ農
業ノ負担ニヨリテ発達スヘカラサルモノナリ仏国カ戦後回復ヲナシタルハ実ニ仏国カ農業ト工業トノ間ニ或割合ヲ維持
シ来リタルニ因ルモノニシテ本委員会カ農業ト工業トノ均衡ヲ是認センコトヲ求メタリ

議長ハ委員会ハ「ルシュール」ノ論点ノ全部ヲ是認スル旨答ヘタリ

塞古代表「メーヤー」

集約農業ハ高価ナル費用ヲ要スルカ故ニ関税ニヨル保護ヲ要スト述ヘタリ

独逸代表「ヘルメス」

集約農業ヲ営ム諸国ニ於テハ関税ニ依リテ之ヲ保護スル必要アルコトヲ認メ尚自作農ヲ奨励スルコトヲ認ムルモ経済的技
術的準備ナキモノニ小農地ヲ与フルハ推奨シ難シトシ農業進歩ノ最良ノ形式ハ大中小農業ノ発展ニ在ルコトヲ力説シ終リ
ニ農業簿記ヲ論セリ

帝国代表 佐藤寛次

時代ニ応シ小農ニ対スル農業教育ヲ述ヘ万国農事協会カ諸国ニ於ケル農業教育制度ニ付比較研究ヲナスハ無益ニアラスト
シ東西洋ニ於ケル農業ノ経験ヲ交換スルハ勿論一層東洋ノ農業ヲ研究スルコトノ有益ナル旨ヲ指摘シ尚「ヘルメス」ノ農

業簿記ニ関スル諸論及「ホブソン」ノ提案ニ賛成スルモ各国ノ事情ニ相違アルヲ以テ其形式方法ヲ最モ簡單ニスルノ必要アルコトヲ注意シ最後ニ目下ノ状況ニ於テハ農作物価格ヲ安全スル為ニ或程度ノ関稅ノ保護ヲ要スル旨論述セリ

葡萄牙代表「モニッツ」

伊太利及葡萄牙代表ノ名ニ於テ農業聯盟ノ創立ニ関スル勸告案ヲ提出セリ

第二分科会（農業産業組合）

農業産業組合ニ関スル委員会ハ十一日午前十一時半「ザールドレフォルマシオン」ニ開会シ「塞古」代表「クリンデラ」議長ノ下ニ議事ヲ進メタリ（本邦ヨリ荷見安出席）

開会ニ際シテ議長ハ消費者ノ産業組合及農業者ノ産業組合ハ協力スルコトヲ得ヘシ即農業産業組合ヨリ消費者ノ産業組合ニ対シテ信用ヲ与ヘ消費者ノ組合ハ農産物ヲ買入レ生産消費両産業組合ノ利害關係ヲ有スル生産者ノ産業組合ノ設立ニ関シテハ労働分配ニ関スル理解ヲ有スル場合ニ於テ協力ヲ為シ得トス而シテ經濟會議カ両産業組合ノ接触ニ関シテ有力意見ヲ表示セハ其接触ハ容易ナルヘシ生産者ノ産業組合ノ組織ニ関シテ農業生産者カ其ノ生産物ヲ産スル權利ヲ否定スルコト能ハス然レトモ生産々業組合及消費産業組合ノ間ノ協定ハ之レヲ得ヘシトノ意見ヲ述ヘタリ

万国産業組合聯盟代表「ポアソン」

討議ノ基礎トシテ決議案ヲ提出セルカ右ハ大体ニ於テ決議ト同様ナリ

瑞典代表「オルネ」

現在ニ於テ産業組合ノ重要ナル事業ハ私人ノ独占ニ對抗スルコトニシテ消費者及生産者ヨリ独占價格ヲ取ラシメサルニ在リ此ノコトハ産業組合ノ活動ニ依ルトノ説ヲ述ヘタリ

波蘭土代表「チュミルウスキイ」

消費者ノ組合ト農業者ノ組合トノ調和ノ欠欠ニ付一言シ都市及地方ノ相違ニ付キテモ亦一言セリ此關係ハ教育及他ノ方法ニ依リ又ハ農産物工産物其ノ他ノ相互ノ交換ニ依リ救済セラルル必要アリトシ左ノ決議案ヲ提出セリ

國際經濟會議ハ産業組合ノ發達特ニ生産者ノ産業組合並消費者ノ産業組合ノ間ニ於ケル協力ノ發達ヲ浪費ヲ省ク為ニ最モ効果アル方法ト認ム産業組合活動ノ常則的發進ヲ保証セントセハ産業組合ニ関スル立法力統一セラレ制限ヲ最少ナラシムルヲ要ス

生産者及消費者ノ間ノ協力ヲナサシムルニハ吾人ハ労働ヲ充分々配セサルヘカラス一方ニ於テ生産者ノ組合ハ消費者ノ組合ニ対シ供給ヲ保証スルヲ要ス

最後ニ特別ナル産業組合協會ノ各国ニ設立セラルルヲ要ス其ノ研究ハ強制的ニシテ各種ノ産業組合ニ及フヘキモノトス此等ノ決議案ハ順次ニ攻究セラルヘキモノトセラル

奥国代表「ヒーテル」

産業組合カ租稅ニ関シ何等ノ利益ヲ有セス之レハ歐洲ノ再建設ニ付テハ産業組合運動ニ付キ利益ヲ附与セラレンコトヲ希望セリ

独逸代表「グンネス」

独逸ノ産業組合ノ現状ヲ説明シ「ポアソン」ノ決議ニ賛成シタリ

独逸代表「カウフマン」

生産者及消費者ノ間接直接ナル關係ノ必要ヲ論シテ次ノ宣言ヲナセリ

独逸消費組合運動ハ四百万家族以上ヲ抱擁シ人口ノ四分ノ一以上ヲ占メ組織的ニ不要ノ仲介者ヲ排シ直接貨物ノ分配ヲ行フ而シテ相当程度ニ於テ其組合員ノ使用ニ対シ要スルモノヲ其ノ建物ニ於テ生産ス然レ共一般ニ其ノ組合員ノ要スル農産物ハ其設備ニ於テ生産シ得サルモノト認メラレ農業産業組合運動ニ於テハ自身ノ協約制度必要ナル且適當ナル完成

カアル故ニ農業産業組合運動ヲ其ノ力ニ於テ總テノ方法ニヨリ進ムルコトヲ準備シアリ特ニ現在ニ於テハ従前ト同農産物ニ対スル組合員ノ要求ヲ直接ニ農業産業組合ニ仰クコトヲ求メツ、アリ農業ハ優良ナル貨物ノ標準的貨物ノ標準ニ依リ其ノ經濟關係ヲ繁成シ愉快ナラシメ生産者ノ利益ハ農産物ノ相当價格ヲ確保セラレ消費者ノ利益ハ信賴スヘキ生産物ヲ得ルコトニ依リ確保セラルヘシ

塞古代表「メーヤー」

消費者ノ産業組合農業者産業組合ノ相互關係ヲ説キ政治的考慮ヲ省キ両者ノ間ニ於ケル取引ハ商業ノ代リニ協同的トナスコトヲ説ケリ

勃牙利代表「バイノフ」

自国ノ小麦輸出産業組合煙草日廻リ等ノ耕作組合ニ付説明スル所アリ

露国代表「バルガ」

露西亞ニ於テハ農業の産業組合運動カ農民カ社会的生産ヲナスニ至ル道テアル故ニ特權ヲ有シ多数ノ組合員ヲ有スル露西亞ト他ノ国家ト異ルハ自ラ労働セサル富メル農民ハ加入セシメサルニ在リ露西亞ノ代表ハ産業組合ノ性質カ異ナル故ニ投票セス

帝国代表代理 荷見安

日本ニ於ケル産業組合ノ状況ヲ説明シ各国ニ於ケル産業組合ト直接取引キヲ為スニ於テハ相互ニ利益スル所尠カラサルヘク目下ノ状態ニ於テハ日本ハ何時ニテモ蜜柑茶等ニ付海外国ニ於ケル消費組合ト取引キヲ為シ得ル旨論述シ尙直接取引ノ便宜ノ為國際的機關ノ設立ハ望マシキコトナリト結ヘリ

國際労働事務局代表「フォーケ」

論説ハ總テ農業産業組合ト消費者組合トノ密接ナル關係ヲ必要トスルニ一致セリ両者ヲ分離シタル過去ノ説ハ影ヲヒソメ

タリ而シテ共通ノ原則カ設ケラレ産業組合機關ニ依リ集メラレタル材料ハ既ニ兩者ノ關係カ地方的國家的又ハ國際的ニ確立セラレタルヲ示ス此等機關ハスル關係ヲ發進セシムル責任ヲ有ス而シテ既ニ確立セラレタル關係ヲ集メ比較シ注意ヲシ實際トシ發進ヲナサシムル為ニ經驗ノ課程ヲ強ムルヲ要ス

以上ニテ議論ヲ終リ起草委員會ニ付議スルコトナレリ
委員會ノ討議ノ結果決議案ヲ可決セルカ右ハ農業委員會總會ニ於テ可決セラレタリ

第三分科会（農業信用）

第三分科会ハ十一日午前十時三十分波蘭代表「ステツキ」議長ノ下ニ「サールドラレフォルマシオン」ニ開催セラル（本邦ヨリ佐藤代表代理トシテ佐藤書記官及野村淳出席）

會議ニ於テ各国代表ハ各国ニ於ケル農業信用状況ヲ説明シ國際的協力ニヨル救済手段ニ及ヒタルカ主トシテ論議セラレタルハ國際農業信用機關設置ノ能否及右機關設置ニ關スル研究ヲ國際聯盟ニ委スルカ万国農事協會ニ委スルヤノ問題ナリトス

智利代表「プリーバ」

國際農業信用機關設立ノ要ヲ説キ之ニ關スル研究ヲ國際聯盟財政委員會ニ委セントノ意見ヲ表明セリ

芬蘭代表「ヒニーニン」

各国ニ於ケル農業信用發達ノ状況ニ付キテ論シテ曰ク農業ハ長期信用ヲ得テ發達スヘク之レカ為ニハ信用ノ集中(centralization)ヲ要ス而シテ戦後芬蘭羅馬尼亞及仏国ハ中央長期短期土地抵当銀行ノ設立ニ依リ信用ノ集中ヲナシタリト

土国代表「サフベットベイ」

國際農業信用機關ノ設立ヲ唱道シタリ

波蘭代表「ルビンスキー」

農業信用ノ見地ヨリスル波蘭ノ地位ニ関スル「ステートメント」ヲ提出シ更ニ昨年羅馬ニ開催セラレタル會議ニ於テ発表シタル意見ヲ述ヘ世界ノ農業者カ国家及銀行ノ保証ノ下ニ所要資金ヲ得ヘキ一ノ國際的農業銀行設立ノ要ヲ力説シ左ノ提案ヲナシタリ

國際聯盟財政委員會ハ羅馬万国農事協會ト連絡ヲ執リ各国ヲシテ農業上ノ必要ニ応スル為農業財産ヲ抵当トシ政府ノ保証アル証券(抵当証明)(Mortgage Certificate)ヲ發行シテ融通ヲウケ濟シ崩シニ依リテ之ヲ返済シ得ヘキ低利長期ノ貸付資金ヲ保持セシムル為國際的協同ノ原則ヲ樹立スヘキモノナリトセリ

独逸代表「キスレル」

戰時ニ於ケル特異狀態ハ信用ノ集中ヲ誘導シ遂ニ地代銀行ト称スル国内的農業信用機關ヲ設立スルニ至レリ右機關ハ農業資金ヲ増加シ利率ヲ低下シ仲買人ヲ削キ長期貸付ヲ可能ナラシメ外国資金ヲ有利ニ吸收スルコトヲ得シメタルノミナラス亦「ドーズ」案ニ拠ル賠償ヲ容易ナラシメタリ

独逸ハ波蘭代表ノ提案ニ基ク國際信用機關ノ設立ニ不賛成ナリ独逸ハ斯カル機關ノ設立ニハ種々ノ障碍アルヲ知ル殊ニ交換ノ不安定及抵当ニ関スル各国法律ノ相違等然リトス

各国ハ農業信用ニ関シテ地代銀行ノ如キ国内的機關ヲ設置スヘキナリト

伊国代表「マーケシイ」

波蘭代表「ルビンスキー」ニ賛成シテ曰ク万国農事協會ハ既ニ一九二五年農業信用ノ國際的機關設立ニ関スル研究ヲ開始シ各国ニ質問書ヲ送付シタルカ本年秋期ニハ新會議ヲ開催スルコトナレリ本委員會ハ須ラク万国農事協會ト密接ナル關係ヲ保タサルヘカラスト

「セルブクロアートスロヴェンス」代表「チエチエロフ」

東部及南東部歐洲諸国外國ニ信用ヲ獲得セルヲ得サル所以ヲ述ヘ之カ為ニ國際農業信用機關ノ設立ヲ必要トスト論セリ

塞古代表「メーヤー」

塞古ハ國際農業信用機關ノ設立ニハ大ナル關係ヲ有セサルモ之ニ依リテ世界各地ノ農業カ発達スルナラハ之ヲ支持スルニ吝ナラストス

英國代表「エンフィールド」

委員會ハ万国農事協會カ既ニ研究シ結論ニ到達セントスルヲ差措キテ事ヲナサントスルハ宜敷カラス余ハ國際農業信用ニ関スル件ハ全部之レヲ万国農事協會ニ委託スルニ賛成ス聯盟ノ介入ハ事業ヲ二重ニスルモノナリ

北米合衆國代表「ミチエル」

國際農業信用問題ハ米國ニ於テハ無シ歐洲諸國ハ米國政府カ國際農業信用機關ニ参加センコトヲ期待スルコトヲ得ス

國際聯盟財政委員會代表「チャレンダー」

右代表ハ特ニ本委員會ニ助力スル為委員長ノ招請ニ応シ出席シタルカ本件ニ関シテハ文書ヲ研究スルニ充分ノ時日ヲ要スル旨論述セリ

万国農事協會代表「ルイドロップ」

万国農事協會カ今日迄ナシタル事業ヲ述ヘ國際農業信用機關ノ研究ニ関シ國際聯盟ノ助力ハ喜ンテ之ヲ迎フルモ本件會議カ既ニ万国農事協會カ解決セントシツ、アル問題ヲ動揺セシメサランコトヲ望ミ左ノ決議案ヲ提出シタリ

第三委員會ハ國際農業信用委員會ニ関シテ交換サレタル種々ナル意見ニ顧ミ万国農事協會ニ対シ同協會カ國際農業信用問題ニ関スル解決ヲ要スル時同協會ノ信用委員會ニ國際聯盟ノ指示スル財政家ヲ喜ンテ出席セシメンコトヲ勧告ス
議長ハ起草委員ヲ指名セリ左ノ如シ

「ガルシン」「チエチエロフ」「マーケシ」「キスレル」「ミチエル」「エンフィールド」

各分科会ニ於テ夫々作成セル決議案ハ起草委員会ノ修正ヲ經テ本會議ニ於テ左ノ通り可決セラレタリ
決議

前文

農業ハ世界ヲ通シテ大多数ノ労働者ノ職業ニシテ其各種ノ生産物ハ価値ニ於テ人類労働ノ大部分ヲ占ム而シテ其ノ生産物ト工業生産物トノ交換ハ実ニ世界商業ノ基礎ヲナス
工業ノ過度ナル発達ニ因スル急速ナル人類ノ消耗ニ対シ農業者ハ一般人類ノ為ニ国民ヲ維持シ得ル勢力ノ保持者ナリ
農業ニ依リテ生産セラレタル食料品及原料ノ数量ハ工業発達ノ最大限度ヲ決定スル一要素ナリ
各国民間ニ存スル相佑性^{相互性}ハ各主要ナル職業界即農業商業工業間ニ於テモ同様ニ密接ニ存ス而シテ一職業界カ他ニ独立シテ独り永久ノ繁栄ヲ享受セント希望スルモ能ハサルヘシ

農業ハ經濟界ニ於ケル其ノ使命ヲ完全ニ果スニ際シ目下全世界ニ食料原料品ヲ供給スル大多数ノ国家ニ多少共影響ヲ与ヘタル一般的不況ニ喚セラレタリ農業ノ經濟的不況ハ農産物価格ト工産物価格トノ間ニ生セル不均衡ニ依リ特質ヲ帶ヒ来リ其結果大多數ノ農業人口ヲ有スル国ニ於テハ其ノ労働及資本ニ対シテ充分ナル報酬ヲ得ス尚普通条件ニテ信用ヲ得難キコト負担ノ苛重等ハ相合シテ多數ノ国ニ於テ不況ヲ一層深刻ナラシメ一方ニ於テ農業者ノ購買力ヲ減退セシメタリ而カモ消費者ハ必シモ食料品価格ノ下落ニ依リテ利害ヲ受ケサリキ

農業者ノ購買力ノ減退ハ工業生産ニ反動ヲ与ヘ失業ノ一原因トナリタリ而シテ失業ハ農産物ニ対スル需要ヲ減退セシメタリ

乱サレタル価格均衡ノ回復ヲ図ル為ニ實際の方策ヲ採ラサルニ於テハ遲速ノ差コソアレ遂ニ農業人口ノ減少ヲ招来シ人数ノ安寧ヲ害スルノ恐れアリ然レ共農業生産ノ多大ノ発達ニ対スル技術上ノ手段存在ス故ニ技術上ノ手段ハ活用セラレサル

ヘカラス之レヲ一般のニ採用スルコトハ全世界ノ繁栄及經濟平和ニ対シ最良ノ結果ヲ齎ラスヘシ

一般的決議

一、會議ハ農業生産ノ増加ヲ重大ナル經濟問題ト看做ス

尚此見地ヨリ農業者ヲシテ其ノ資本ト労力ニ対シ適當ナル報酬ヲ得テ満足ナル生活標準ニ抛ラシメ農業ヲ工業ト同一立場ニ置クコトヲ重視ス

輿論ハ必シモ農業ノ真ノ立場ヲ理解セス多クノ場合第二義の産業ト看做スモ右ノ必要ハ之レヲ国内ノ輿論ニ訴ヘサルヘカラス

二、農業ノ改善ハ第一ニ農業者自ラ之ヲナササルヘカラス技術的改良法ノ一般的採用生産養畜動植物保護取引生産者及消費者ノ利益ノ為ニスル農産物ノ格付統一農業簿記信用保險等ノ科学的組織ハ農業者ヲシテ其生産費ヲ低下セシメ自ラヲ利スルト共ニ亦消費者ノ利益ヲ招来スヘシ

中小農業経営ハ比較的多数ナルカ故ニ工業ニ於テ見ル処ノ企業集中ノ傾向ハナシ農業者ノ団体ハ既ニ多数ノ国ニ於テ試練ヲ經タル処ノ産業組合協會ノ形ニ於テ継続スヘシ而シテ農業組合ト消費組合トノ間ノ了解ニ其完成ニ有利ナルヘシ

農業及農業者ノ地位ノ向上ヲ其目的トスル農業団体ヲ奨励スルハ各国政府ヲ益スルモノナリ

特ニ相互信用ノ創設及発達ハ政府ノ補助ニヨリ大ニ促進セラルヘシ

會議ハ金利ノ高率ト租税ノ苛重トハ生産物ヲ阻害スルノ事実ニ付各国政府ノ注意ヲ喚起ス

三、其ノ他望ム所ノ方法ハ主トシテ立法行為ニヨル

會議ハ労働者ノ幸福及安全ヲ保証スル社会立法ハ工業労働者及被傭者ト同シク農業者ヲモ利益スヘキモノナリトノ意見ヲ有ス而シテ斯カル立法ハ農業ノ特殊ノ要求特殊ノ生活及農業者ノ労働事件ニ適合スルモノタルヘキハ勿論ナリ

尚會議ハ各階級ノ農業教育及農業者ノ技術的訓練ハ農業団体ト共ニ各国政府ハ之ヲ重視スヘキモノナリトノ意見ヲ有ス

四、農産物ノ自由ナル循環並取引ニ対スル總テノ障害ハ其除去カ各国並其労働者ノ重大利益^{編註三}

(設備ヲ時代ニ適応セシメ耕作ヲ改良シ生産物ヲ貯蔵ス)

産業組合制度ハ又生産者及消費者トシテノ農業者購買力ヲ増加ス産業組合ハ又生産力ヲ増加シ其實ヲ改良シ且土地ノ生産物及其ノ副産物ヲ充分利用スルコトニ依リテ経済上ノ進歩ヲ助ケ最後ニ産業組合制度ハ分配ノ費用ヲ最少ナラシメテ市場ノ組織ヲ助成ス

二、農業産業組合ハ消費者ノ産業組合トノ關係ヲ増加スルニ從ヒ一層大ナル経済ノ合理化ニ貢獻ス生産者及消費者間ニ於ケル及生産者及消費者ノ組合ノ間ニ於ケル直接商業取引ハ無用ナル仲介者ヲ駆逐シ其ノ取引カ相当擴張スルトキハ生産者及消費者ニ有利ナル価格ヲ確定スルニ至物質上ノ利益ノミナラス道德的ノ利益ヲ有ス即チ生産者及消費者ハ直接商業取引ニ依リテ相互ニ相手方ヲ知り相手方ノ特徴及要求ヲ考慮スヘキコトヲ知ル生産者及消費者ノ産業組合ハ彼等ノ共通ノ主義ニ依リテ直接取引ノ価値ヲ理解スルニ至ル

商業取引ニ於ケル相互ニ共同作業スルコトノ可能ナルコトノ明ナル確認及商業取引ニ於ケル相互信頼ノ明カナル確認ハ理論上既ニ久シク決定セラレ居ル問題ナル生産者タル農業者ノ産業組合及消費者ノ産業組合ニ於ケル直接商業取引ノ問題ヲ實際のニ解決スルコトハ重要ナリ實際ノ効果ヲ挙ケントスル努力ハ農業ノ部分ニ於テハ特質ノ品質及均一ノ形式ノ物品ヲ生産スルコトニ依リ消費者ノ産業組合ノ側ニ於テハ出来得ル限り農業生産者ノ産業組合ヨリ農業上ノ生産物ヲ買フコトヲ決課スルコトニ依リ政府及公ノ機關ニ在リテハ大学学会其ノ他ノ制度カ産業組合運動ヲ取扱フ公ノ機關ヲ設ケ

及産業組合運動ヲ防害スル如キ偏頗ナル財政政策ヲ取ラサルコトニ依リ進メラル効果アル共同行為ハ若シ共通ノ形式ニ於テ必要アリトセハ各国ノ生産者ノ産業組合及消費者ノ産業組合ノ共通ノ經濟委員會カ国家的ノ組織セラル、場合ハ一層實現容易ナルヘシ産業組合カ其ノ活動ヲナス各種ノ方面ニ於テ共同動作ノ共通ノ發達ヲ保証スル為ニハ産業組合ヲ支配スル法律ヲ統一シ(統一ナキ場合ニ於テ)出来得ル限り障礙少カラシムルヲ要ス

三、一定ノ生産物ニ関スル産業組合の農業機關ノ國際的職分ハ市場ヲ健全ナル基礎ニ置キ生産ヲ規律のナラシメ生産及消費ノ間ニ於ケル権衡ノ見地ヨリ満足スヘキ標準ニ於テ價格ヲ安定スルコトニ於テ有要ナラン斯ル國際的聯合ハ其ノ目的ヲ達スル為ニ取引キノ規則正シキ道及長期ノ契約ヲ確定スルコトニ依リ國家的消費者ノ機關ト相互ニ信頼スルコトヲ要ス

四、農業及消費組合ノ此等ノ努力ハ農業者及消費者ノ國家的及國際的ノ産業組合機關ヲ代表スル委員會ヲ設クルコトニ依リ進捗セラルヘシ而シテ其ノ委員會ハ調査ノ順序ヲ定メ文書ヲ発行スルト共ニ新事業ヲ遂行スル為ニ既往ノ經驗ニ依リ教ヘラレタル題目ヲ解決スヘキモノトス

農業信用ニ関スル決議

農業生産ノ増加ハ農民ニ対シ必要ナル資金ヲ有利ナル条件ニテ使用セシムル農業信用組織ト密接ナル關係ヲ有ス農業資金ヲ潤沢ニ有スル国アルモ多クハ一般的經濟界ノ影響ニ因リ貯蓄ヲ減シ或ハ優良ナル機關設立セラレスシテ未タ農業信用ニ對スル適切ナル施設ナシ

斯カル状態ハ農業者カ其收穫ヲ増加シ耕作反別ヲ増加シ生産費ヲ低下スルコトヲ妨ケ尚適當ナル設備ヲ使用シ又ハ流動資本ヲ積立テ不時ノ災厄ニ備フルコトヲ得サラシムルカ故ニ当該国ニ於ケル農業ニ多大ノ危険ヲ与フルモノナリ

右等ノ困難ヲ突破スル第一ノ条件ハ未タ適當ナル信用機關ノ設備ナキ諸国ニ於テハ之ヲ設置スルコトニシテ已設ノ国ニ於テハ其ノ發達ヲ期スルニ存ス而シテ右機關ノ最良ノ形式ハ官公ノ理事者ノ援助ヲ受ケ或ハ受ケスシテ機關其ノモノカ獲得

シ増殖シ得ル資金ニ依リテ活動スル信用組合ナリ

尚国内のナルト國際のナルトヲ問ハス必要且有効ナル債權ノ保証ハ国内の機關ノ協力ニヨリテ最も容易ニ履行セラルヘシ
数名ノ代表ハ未タ農業信用ノ不充分ナル地方ニ農業資金ヲ供給シ得ル一ノ國際機關ノ設置ニ關スル計畫ヲ提出シタルニ因
リ然シ乍ラ本件ニ關シ原則的の考察ニヨリ信用ハ有効ナル保証ニヨリ確保サレサルヘカラストノ批評ヲ聞キタルニ因リ而シ
テ万国農業協會カ農業信用問題ニ付特別ノ報告ヲ蒐集シツ、アル事実ニ付注意ヲ受ケタルニ因リ會議ハ國際聯盟ニ對シ農
業資金ノ欠乏セル地方ニ於ケル農業ヲ回復セシメ又ハ之ヲ發達セシムル見地ヨリ其ノ形式ノ如何ヲ問ハス經驗上知り得ヘ
キ最も適切ナル農業信用ニ付國際的協力ヲ為シ得ル見込アリヤ否ヤヲ驗スル意味ニ於テ万国農事協會ノ文書ヲ充分考慮セ
ンコトヲ要求ス

動植物病害防除ニ關スル決議

動植物病害ハ農業生産ヲ減少ス國際協約及國際的計畫ノ下ニ科学的ニ防除セサルヘカラス

此國際的防除ハ既ニ主旨ニ於テ四十三ヶ国ノ容認スル所トナリ國際病理局ノ設立ヲミタルカ万国農事協會ハ植物保護ト關
連シテ國際的共同作業ヲナス為特別會議ヲ召集セントセリ國際協約ニ依リ創始サルヘキ病害監査カ協約国ニ保証ヲ与フル
コトトナラハ主權ヲ侵スコトナクシテ検査法規中ヨリ虚偽ノ保護ノ疑ヲ除キ得ルノミナス生産増加ノ一条件タル貿易ノ
安定ヲ期シ得ヘシ

植民地農業ニ關スル決議

會議ハ殖民地原住民ノ繁栄ヲ増大シ一般の富ヲ増加セシムル為植民地特ニ熱帶亞熱帶植民地ニ於ケル原住民ノ農業ヲ奨励
スル最良ノ手段ヲ研究センコトヲ勧告ス

林業ニ關スル決議

會議ハ工業上ノ必要ヲ規則的ニ満足セシムルコトヲ保証スル為ニ森林ノ開發及資源ニ付特別ノ研究ヲナサンコトヲ勧告ス

農業文書統計調査ニ關スル決議

(一)農業ニ關スル討議ノ基礎トナリタル文書ノ価値ハ大ナリ然シ乍ラ未タ全問題ノ完全ナル分析即チ其ノ解決ヲ指示スルニ
足ルヘキ充分ナル基礎ナキコトヲ認メサルヲ得ス

農業ノ基礎的地位ハ其ノ經濟的立場ニ付正確ナル智識ヲ要求ス斯カル智識ハ農業簿記ノ秩序的分析ニ依リテノミ満足ニ
獲得シ得ヘシ斯カル調査ハ農業ニ於ケル一般の改善ヲ齎ラスヘシ

右ハ各国間ニ於ケル相互ノ了解ヲ促進スヘク之レニ依リテ各国ニ於ケル農業者ノ共通利益ハ精細ニ説明セラルヘシ尚生
産者ト消費者トノ間ニヨリヨキ了解ヲ創ムルコトヲ得ヘシ此目的ヲ達成スル為ニ各国ニ正確ナル農業簿記制度ノ形成セ
ラレンコトヲ望ム

氣候土質經營ノ大小耕作組織重要作物其他ニヨリ分類セラルヘキ各国ニ於ケル各種ノ農企業ニ對シ比較シ得ル結果ヲ得
ル為及生産及生産費ニ於ケル最も重要ナル諸要素(賃金化学肥料消費額租税公課價格農家負担其ノ他)カ農業純生産ニ
及ホス影響ヲ研究シ得シムル為ニ右等簿記ハ各国ニ於テ可及的簡單ニシテ而カモ正確ヲ保証シ得ル方法ニ依リ記載セラ
レサルヘカラス故ニ其ノ方法ノ研究及準備ヲナス為一ノ専門會議ヲ設定センコトヲ勧告ス

(二)會議ハ優良ナル定期農業統計特ニ家畜及家畜生産ニ關スル統計事業ヲ設定スルノ要アリト思惟ス万国農業協會ノ蒐集セ
ル統計數字ニ拠レハ既往二十五ヶ年間ニ於テ農業調査ヲ繼續シツツアル国ハ僅カニ三十七ヶ国ニシテ全面積ノ半ニ滿タ
ス又世界人口ノ三割ニ過キス

万国農事協會ノ提案ニ基ツク世界農業実地調査(センサス)ハ各国統計上現今欠セル統一性ヲ与フルコトヲ得ヘシ収
穫高在庫高消費高及各種商品ノ移動等ハ價格形成上重要ナル要素ニシテ之ニ關スル報告ヲ迅速ニ農業者ニ与フル組織ヲ
構成スルハ國際的ニモ国内的ニモ無益ニアラス農産物ト工産物トノ比較價格ノ指数ヲ毎月発表スルコトハ農産物生産費
ノ重要々素ノ指数ト共ニ最も重要ナルヘシ

(三)會議ハ各国政府ニ対シ農業ノ現況及其発達ノ可能性農地ノ分配経営組織農業生産ト工業生産トノ關係農産物工産物ノ價格ノ比較生産費及販売価格農業者ノ状態土地購入ノ便宜其ノ他一農業ノ經濟的社会的財政的技術的条件ニシテ其ノ研究カ農業ヲ発達セシムル如キモノヲ一般のニ研究スルコトヲ提唱センコトヲ慫慂ス

八 國際經濟會議委員會終了後ノ本會議經過

第一節 總 說

坂本書記官 起草

第三委員會（農業）ハ五月十六日又第一及第二委員會（商業及工業）ハ五月二十日何レモ討議ヲ終リ本會議ニ提出スヘキ報告及本會議決議案ヲ可決シ他方本會議々長及副議長並ニ各委員會議長副議長及報告者ヨリ成ル幹部会（Comité de Coordination）ハ三委員會ノ何レニモ付議セラレサル事項ヲ審議シ本會議再開ノ準備ナレルヲ以テ五月二十一日（土）午后及五月二十三日（月）午前及午后都合三回ノ本會議ヲ開キ各委員會提出ノ報告及決議案並ニ幹部会付議ノ諸問題ヲ討議シ各別ニ之カ表決ヲ行ヒタル後（第二節及第三節ニ詳述ス）最后ニ此等諸決議ノ全部ニ付又右諸報告及諸決議並前文ノ三部分ヨリ成ル理事會宛報告書ニ付表決ヲ行ヒ全会一致ヲ可決セリ右全般的表決ニ際シテハ「ソヴィエト」代表及土耳其代表ハ棄權セリ

右表決ヲ終リタル後本會議ノ提唱者タル「ルシュール」氏ヨリ一場ノ挨拶アリ最后ニ議長「トウニス」氏ハ本會議ノ經過及結論ヲ掲ケタル長文ノ閉會演說ヲ朗誦シタル上國際經濟會議ノ閉會ヲ宣セリ

尚右三回ノ本會議ニ於テ各国代表中今回ノ經濟會議ノ成果等ニ関シ一般の意見ヲ述ヘタル者数名アリ就中我志立代表ハ五月二十三日（月）午前ノ本會議ニ於テ大要左ノ趣旨ノ演說ヲ為シタリ

「予ハ本會議三週間ノ努力カ人類共同ノ目標ヲ明ニシ世界經濟關係ノ新紀元ニ向フノ途ヲ示シタル幾多重要ナル決議、勸告ニ到達シタルコトニ対シ滿腔ノ祝意ヲ表ス吾人ノ討議セル問題ノ多数ハ歐洲問題ナリト雖モ之カ結論ハ多ク我等ノ希求及提案ニ合致シ以テ世界連帶ノ事實ヲ一層明ニセリ尤モ吾人ハ人口分配ノ問題並資本貨物及人ノ移動ノ自由ノ問題ヲ解決スルニ非スムハ吾人最後ノ目的ニ達セリトハ云ヒ難カルヘク此等ノ問題ハ共存共榮ノ精神ヲ以テ之ニ当ラハ之カ解決必シモ困難ニ非スト信スルモノナリ

吾人当面ノ急務ハ本會議ノ決議及勸告ノ即時且具體的ナル実行ナル処之カ為ニハ現存諸機關ノ利用及非聯盟國ノ完全ナル協力ノ二点ニ留意スルコトヲ要スヘシ日本代表ハ右諸決議ノ原則ヲ自國ニ普及セシメ以テ輿論作成ノ運動ニ全力ヲ以テ参加セムトス最后ニ聯盟經濟機關及本會議々長其ノ他ニ深甚ナル謝意ヲ表ス」

又「ソヴィエト」聯邦首席代表「オボレンスキ」氏ハ本會議ノ事業ニ関シ「ソヴィエト」聯邦代表ノ見地ヨリ結論ヲ下スヘシトテ本會議カ「ソヴィエト」代表ノ十一提案ヲ審議採決シタラムニハ一層現実且顯著ナル成功ヲ収メタルナルヘシト云ヒ次ニ「ソヴィエト」代表ノ提案ニ依リ本會議カ資本主義經濟制度ト「ソヴィエト」主義經濟制度トノ平和的共存ヲ確立スルコトニ対シ一步ヲ進ムルヲ得タルヲ喜フ旨ヲ述ヘ（後出決議参照）最后ニ本會議ノ一般報告中ニ掲ケラレタル原則声明又ハ決議ノ多数ニハ反対ナルモ具體的決議ノ或モノハ正当ナモノナリト認ムルヲ以テ「ソヴィエト」代表ハ本會議決議全部ノ表決ニ際シテハ棄權スヘキ旨及國際聯盟ハ平和的機關ニ非ラスシテ支配國ノ利益ヲ擁護スル機關ニ過キササルヲ以テ聯盟ノ諸機關ニ或措置ヲ執ラシムル提案ニハ同意スルコト能ハスト述ヘタリ

第二節 各委員會ヨリ提出ノ報告及決議案討議

五月二十一日（土）午后ノ本會議ハ工商農各委員會ヨリ提出シタル報告及決議案ヲ上程セリ

第一、各委員會報告及決議案提出

(一)第一委員会(商業)議長「コリン」氏(和蘭代表)ヨリ第一委員会報告(SCE24)ヲ提出シ之カ採択ヲ提議ス尚同氏ハ右報告中第三通商政策及通商条約ノ(一)関税率中「通商政策ニ関スル論議」(第八頁)ノ部分ハ農業委員会ノ同意ヲ条件トシテ採択セラレタルモノナル処今ヤ其同意ヲ得タルヲ以テ右留保ハ削除セラルヘシト附言セリ

(二)第二委員会(工業)議長「ホダク」氏(「チェッコスロヴァキア」代表)ヨリ第二委員会報告(SCE25)ヲ提出シ之カ採択ヲ提議ス

(三)第三委員会(農業)議長「ブランゲツシュ」氏(「セルブクロアートスロヴェーヌ」代表)ヨリ第三委員会報告(SCE26)ヲ提出シ之カ採択ヲ提議ス

第二、右諸報告ニ関スル討議

右三委員会ノ報告ニ関シテ八十数名ノ代表ヨリ夫々意見ヲ述フル所アリタルカ其ノ中特ニ注意ヲ要スルモノノ概要左ノ如シ

(一)仏国代表「ジュオー」氏ハ第二委員会報告中「カルテル」等工業上ノ協定ニ関スル決議ニ関シ同決議ハ「カルテル」等ニ対スル嚴重ナル国内的及國際的取締方法ニ言及シ居ラサルヲ以テ之ニ投票スルコト能ハスト声明ス

(二)「ソヴィエト」代表「レオンキンチュク」氏ハ商業委員会報告中左ノ諸決議ニ付反対シ又ハ棄権スト声明ス

甲 反対ノ分

第一、通商ノ自由

(一)輸出入ノ禁止制限

(二)国家企業及私企業ノ通商上ノ均等待遇

(四)外国人及外国会社ノ經濟上及財政上ノ取扱

第二、関税率

(三)関税率ノ安定

乙 棄権ノ分

第一、通商ノ自由

(三)國際通商ニ関スル法規

第三、通商政策及通商条約

(三)輸出税

第四、国内商業及国内航行ノ間接的保護方法

(三)運送条件ヨリ生スル差別待遇

(三)「ソヴィエット」代表「ソコルニコフ」氏ハ工業委員会ノ報告ニ関シ大要左ノ如キ声明ヲ為シタリ

「ソヴィエット」代表ハ五月十七日及五月二十日ノ會議ニ於テ為シタル声明中ニ陳述シタル理由ニ依リ工業ノ合理化(「ラシヨナリザシオン」)及工業上ノ國際協定ニ関スル報告所載ノ決議ニ反対ナルコトヲ声明ス又「ソヴィエット」代表ハ情報蒐集ニ関スル決議中ノ一切ノ提案ニハ實質上賛成ナルモ情報蒐集ノ事業ヲ在海牙國際統計協會ニ委嘱スヘシトノ自己ノ提議カ否決セラレタルニ依リ本決議ニ付テハ棄権ス云々

(四)「ソヴィエット」代表「ヴァルガ」氏ハ農業委員会ノ報告ニ関シ左ノ諸決議ニ反対ナル旨声明ス

前言

一般討議

特別決議

一 農業上ノ協力

二 農業信用

四 植民地農業

(五) 米国代表「ロビンソン」氏ハ米国代表ハ商業委員会及工業委員会ノ決議全体及工業委員会ノ決議中工業ノ合理化ニ関スルモノニハ賛成ナルモ「カルテル」ニ関スル部分ニ付テハ米国民ノ大多数ハ私企業ニ政府ノ関与スルコトニ反対ナルヲ以テ之ニ対スル投票ヲ差控フヘク又国際聯盟ノ或機關ノ職能ヲ拡張スヘシトノ各種決議ニ関シテハ米国代表ハ右拡張ノ有益ナルヘキコトハ信スルモ之ニ対スル賛否ノ表決ヲ為スノ立場ニハ在ラスト思考スト述ヘタリ

(六) 支那代表趙泉氏ハ大要左ノ如キ陳述ヲ為セリ

「支那代表ハ會議ノ成功ヲ希望セルヲ以テ會議中苟モ全会一致ヲ妨クルモノト解釈セラルルノ虞アルカ如キ態度ヲ避ケタリ支那代表ハ會議カ通商上ノ衡平及相互主義ノ原則ヲ採択シタルコトヲ欣フモノニシテ右原則ノ実行セラルル限り支那ハ協力ヲ各マサルヘシ會議ハ保護關稅及過重ナル收入關稅ヲ不可トセルモ相当ナル收入關稅ヲ得ムトスル支那代表ノ主張ハ暗黙ノ内ニ同意セラレタルヲ思考ス外國人ノ入国問題ニ関シテハ支那ハ其ノ全領域ヲ國際通商ニ開放セムコトヲ切望スルモ或外國民カ支那ニ於テ治外法權及領事裁判權並ニ財政上ノ特權ヲ享有シ居ル限り右希望ハ無効ナルヘシ支那代表ハ諸報告ニ賛成ノ表決ヲ為スヘシト雖モ之カ為特權及制限ノ撤廃ニ関スル支那ノ要求ハ何等害セラレサルモノト了解セラルヘシ」

第三 表決

右三委員会ノ報告ハ可決セラレタリ但シ「ソヴィエツト」代表ハ上記ノ如ク決議ノ或ルモノニ付反対投票ヲ為シタリ

第三節 幹部会決定ノ決議案討議

五月二十三日(月)午前及午後ノ本會議ハ商工農三委員会ノ何レニモ付議セラレスシテ直ニ幹部会ニ於テ審議セラレタル事項ニ関スル決議案ヲ上程セリ此等決議案ハ(一)經濟原則ト世界ノ平和ニ関スル決議案(二)輿論啓発ニ関スル決議案(三)軍備ノ

經費ニ関スル決議案(四)經濟會議ノ諸勸告ヲ実行スル為ノ執ルヘキ措置ニ関スル決議案(五)「ソヴィエツト」制度ヲ執レル国トノ經濟的協力ニ関スル決議案ノ五ニシテ以下之ヲ分説スヘシ

第一、經濟原則ト世界平和ニ関スル決議案

本決議案ハ英國代表「ヒュー」氏 (General Council of Trade Union Congress 議長) ノ提出ニ係ルモノニシテ二十三日午前ノ本會議ニ於テ同氏ヨリ右決議案提出ニ関シ説明スル所アリ別ニ論議ナク全会一致可決セラレタリ決議文左ノ通り

「國際經濟會議ハ世界平和ノ維持カ各國經濟政策ノ決定及実行ノ基礎タル原則ニ拠ル所大ナルコトヲ認メ茲ニ代表者ヲ出セル諸国ノ政府及国民相共ニ經濟問題ノ此方面ニ対シ不斷ノ注意ヲ払ハンコトヲ勸告シ且平和的ニシテ調和的ナル進歩ニ依リ得ル所大ナルモノアル世界ニ紛争及誤解ヲ招致スル經濟上ノ困難ヲ除去スヘキ一定原則ノ確立ヲ希望ス」

右決議可決後「ソヴィエツト」代表「ヴァルガ」氏ハ諸国ト「ソヴィエツト」聯邦トノ間ノ經濟關係ノ問題ヲ仔細ニ研究シ二個ノ經濟制度共存ノ原則ヲ確立スルコトハ一般經濟狀態ニ対シ最大ノ意義アルモノナリト認ムルニ依リ本提案ニ賛成セリト述ヘタリ

第二、輿論啓発ニ関スル決議

本決議案ハ瑞典代表「カッセル」氏ノ提出ニ係ルモノニシテ二十三日午前ノ本會議ニ於テ同氏ヨリ本決議案ニ関シ説明スル所アリ別ニ論議ナク可決セラレタリ決議文左ノ通り

「國際經濟會議ハ同會議ノ決議所掲ノ原則ノ受諾及実行ハ政府及行政機關ノ誠意ノミナラス全世界ノ輿論ノ啓発及支持ニ拠ルコト大ナルモノアリト認メ右目的ノ為經濟的其ノ他ノ各方面ニ於ケル學術的及教育的諸団体間ノ一層密接ナル國際的協力並ニ新聞其ノ他ノ重要ナル機關ノ助力ニ依ル輿論ノ啓発ヲ歡迎ス」

右決議可決ノ後「ソヴィエット」代表「ヴァルガ」氏ハ右決議ノ前半ハ社会ニ於ケル各種階級ノ相反スル利益及之ヨリ生スル各種經濟政策ノ相違ヲ記述セルヲ以テ之ニ賛成シ難キモ後半ニ付テハ之ニ同意スト述フル所アリ

第三、軍備經費ニ関スル決議案

本決議案ハ瑞典代表「エルネ」氏ノ提出ニ係ルモノニシテ二十三日午后ノ本會議ニ於テ同氏ヨリ本案ニ付説明スル所アリ何等ノ議論ナクシテ可決セラレタリ決議文左ノ通

世界ハ全体ニ於テ今尚軍備及戰爭準備ニ莫大ナル金額ヲ支出シツ、アリ之カ為工業商業農業ノ發達ニ利用セラルヘキ資金ヲ減シ各国ノ財政ニ重キ負担ヲ裡シ從テ各国ノ全經濟生活ニ影響シ其ノ生活標準ヲ低下セシムル重税ヲ招致シツ、アルニ顧ミ國際經濟會議ハ国家間ノ協定殊ニ國際聯盟ノ主催ノ下ニ審議セラレツ、アル協定ニ依リ軍備ノ制限ヲ実行セントスル一切ノ努力カ功ヲ奏シ以テ前記ノ負担ヲ輕減スルニ至ラムコトヲ希望ス

右決議ニ対シ「ソヴィエット」代表「ソコルニコフ」氏ハ「ソヴィエット」代表ハ之ニ賛成投票ヲ為スヘキモ軍備縮少ニ対スル國際聯盟ノ行動ニ関スル部分ニ付テハ同意シ難シト述ヘタリ

第四、國際經濟會議ノ諸勸告ヲ実行スル為執ルヘキ措置ニ関スル決議案

國際經濟會議ノ事業繼續方法ニ関シテハ五月五日（木）ノ本會議ニ於テ仏国「ジューオー」氏ヨリ（一）少ナクトモ三年ニ一回開催セラルヘキ經濟會議（二）國際經濟理事會（三）常設事務局ヨリ成ル獨立ノ經濟機關設置ヲ提議スル所アリタルモ幹部會ニ於テハ右提案ハ採択セラル、ニ至ラス又現存經濟委員會ノ権限ヲ拡張スト云フカ如キ具體的決議案ヲ見ルニ至ラスシテ五月二十三日午后ノ本會議ニ於テハ左ノ如キ漠然タル決議案ヲ議長ヨリ提出スル所アリ直ニ可決セラレタリ

「國際經濟會議ハ第一ニ國際聯盟ノ經濟機關ニ依リ為サレタル事実ニ対スル賞賛ノ意ヲ表明セムトス同會議ハ其事實ノ成功ハ採択セラレタル原則ノ実行如何ニ係ルモノナリトノ意見ヲ有ス

同會議ノ勸告ニ付執ラルヘキ措置ニ関シテハ同會議ハ常設機關ニ関スル何等ノ提案ヲモ為ササルト共ニ經濟會議準備

委員會ノ権衡ヲ保テル構成カ本會議ノ準備事業ニ付良好ナル結果ヲ生シタルコトニ付理事會ノ注意ヲ喚起スルヲ最適当ナリト信ス

第五、「ソヴィエット」ノ制度ヲ採レル国トノ經濟的協力ニ関スル決議案

今次經濟會議ニ全然別異ナル經濟主義ヲ採レル「ソヴィエット」聯邦代表ノ参加セルコトハ一般ニ多大ノ興味ヲ惹起シタルカ就中資本主義国ト「ソヴィエット」主義国トノ間ノ經濟的協調ノ問題ニ関シテハ會議当初ヨリ屢々論議セラレ「ソヴィエット」代表ハ遂ニ幹部會ニ於テ第一ニ今次會議ハ「ソヴィエット」聯邦ノ經濟主義ヲ論議セサリシニ依リ「ソヴィエット」代表ハ右原則ニ反スル會議ノ決議ニハ賛成スルコト能ハス又第二ニ本會議ハ資本主義及「ソヴィエット」主義ノ平和的共存ヲ基礎トスル「ソヴィエット」聯邦トノ經濟的協力ヲ一般平和ノ為正式ニ各国ニ勸告スヘシノ趣旨ノ提案ヲ為シ幾多論議ノ末遂ニ一ノ妥協的決議案ニ達シ之ヲ議長ヨリ二十五日午后ノ本會議ニ提出スルコト、ナリ本會議ハ直ニ之ヲ可決セリ右決議左ノ通

「國際經濟會議ハ世界通商ノ再開ノ重要ナルヲ認メ且政治問題ニ立入ルコトヲ絶對的ニ避クルト共ニ經濟制度ノ相異ヲ問ハス茲ニ出席セル一切ノ国ノ代表ノ参加ヲ以テ一切ノ国民ノ平和的ナル通商上協力ノ善兆ナリト思考ス尤モ「ソヴィエット」代表ハ別表ノ決議ニ賛成ナルコトヲ声明シ其ノ他ノ決議ハ「ソヴィエット」聯邦ニ関シ効力ナキモノト認メラルヘキモノトス

右決議ノ附屬書トシテ本會議ノ決議中「ソヴィエット」代表カ同意シタルモノヲ列記セル表ヲ附シタリ

國際聯盟ニ於テ発表セラレタル國際經濟會議報告書ノ末段ニ記載アル一般の決議ノ末項二点即チ(d) 各國間ノ平和的商業協力、「ソビエト」共和国ニ対スル決議ノ適用並ニ(e) 國際聯盟ノ經濟機關ト題スル決議ハ兩者共ニ幾多ノ紛議ヲ經タル後決定セラレタルモノニシテ其經過ヲ知ルコトハ該決議ノ意味ヲ諒解スル上ニ便利ナルノミナラズ國際間ノ關係ヲ知悉スル上ニモ亦多少ノ利益アリト信スルガ故ニ國際聯盟ニ於テ発行セラレタル印刷物ニ記載ナキ前記兩決議ノ經過概要ヲ茲ニ記述シ以テ經濟會議ニ臨ミタル予等委員ノ政府ニ提出スベキ報告ノ補遺ト為サント欲ス

先ツ前記兩決議ノ第一即チ「各國間ノ平和的商業協力」、「ソビエト」共和国ニ対スル決議ノ適用」ヨリ記述センニ本決議ハ該共和国(以下便宜上「ソビエト」共和国ヲ露国ト書ス) 主席代表者タル「オボレンスキーオッシンスキ」氏ノ提案ニ基クモノトス、露国ガ經濟會議ニ参加シ、代表者ヲ派遣シタルコトハ世界一般ノ寧ろ意外トセル所ニシテ彼等代表者ノ態度言動ハ會議關係者ノ深く留意スル所ナリキ、開會後間モナク會長「トウニス」氏ハ英國主席代表者「サー、アーサー、バルフォア」、米國主席代表者「ヘンリー、ロビンソン」、独逸主席代表者「カール、フォン、ズイーメンス」、以國主席代表者「ボニン、ロンガール」伯、仏國主席代表者「ルシュール」、日本主席代表者志立鐵次郎六名ヲ會長室ニ招キ當會議ノ副會長ヲ先ツ是等ニ依嘱シ「ルシュール」氏ハ當會議開催ノ提案者タル關係上当日午前ノ總會ニ於テ會長ヨリ特ニ副會長ニ指名セラレ全会ノ承諾スル所トナレリタル後猶ホ数名ノ副會長並ニ商業、工業、農業之部ノ議長及各部ノ報告者(Rapporteur)ノ撰定ニ付前記ノ六名ト協議センコトヲ陳ヘ乃チ波蘭ノ主席代表者「グリキツク」、伯刺西爾ノ主席代表者「リオ、ブランコ」、國際共働組合協會々長「フロインドリヒ」夫人(墮國)、國際労働組合幹事長「ウードゲスト」(和蘭) 及丁抹代表者「ゾンネ」ノ五氏ヲ副會長ニ追加シ和蘭ノ「コライン」氏ヲ商業部ノ議長ニ「チェコスロバキヤ」ノ「ボダツチ」

氏ヲ工業部ノ議長ニ「セルプ、クロアツ、エンド、スロベーン」ノ「フランゲシ」氏ヲ農業部ノ議長ニ推挙スルコトニ決シ報告者ノ候補者モ夫々協議決定シタリ、是ニ於テ「トウニス」氏ハ言ヲ改メテ他ニ協議スベキ一要件アリ露國主席代表者ヲ副會長ニ加フベキヤ否ヤノ点即チ其ノ義ニシテ特ニ諸君ノ考慮ヲ煩シ度シト陳ヘシガ暫クノ後米國ノ「ロビンソン」氏露國主席代表者ヲ副會長ニ推スノ可ナル旨ヲ先ツ發言シ志立之ヲ贊シタル後別段ニ異論ナキヲ見テ「トウニス」氏ハ明日露國代表者演説ヲ為ス予定ニ付其ノ論旨ノ調和的ナリヤ否ヤヲ聴取り不穩ノ点ナケレバ其ノ主席タル「オッシンスキ」氏ヲ副會長ニ加フルコトト為シテハ如何ト提言シ一同之ヲ贊シテ分レタリ

其ノ翌日午前ニ露國代表者ノ一人タル「ソコルニコフ」氏ノ為シタル演説ハ露國ノ經濟組織及ビ其ノ情態ノ真相ヲ説明シ、同國ト他ノ諸國トハ經濟組織ノ相違ニ拘ラズ當會議ニ於テ互ニ諒解シ兩者ノ經濟關係ヲ改善スルハ平和ノ維持ニ貢獻スル所アルベキ旨ヲ陳ベ頗ル調和的ナリシヲ以テ會長ハ当日午後ノ總會ニ於テ前日六國代表者ト協定ノ通り十一名ノ副會長及三部議長ヲ推挙シ全会ノ同意ヲ得タリ

然ルニ其ノ後露國代表者共ノ為シタル演説漸ク激越ニ赴キ他國經濟組織ノ攻撃ニ及ブ者少カラザルニ至リ資本家側ノ人々就中英國代表者ノ反感ヲ高ムルノ傾キヲ生ジ會議終末ニ近クニ從ヒ此ノ反感一層甚シク成リ(倫敦ノ「アルコス」事件亦反感ノ主因ナルベシ) 五月二十日ノ Commission of Co-ordination of the Conference (會長一名副會長十二名商業工業農業三部議長三名其ノ副議長七名及其ノ報告者六名都合二十九名ヲ以テ之ヲ組織ス仮リニ之ヲ幹部會ト訳シ置ク)ノ席上露國主席代表者「オッシンスキ」氏左ノ決議案ヲ提出スルニ及ンデ感情ノ勃発ヲ見ルニ至レリ、其ノ決議案ノ要旨ハ「ソビエト」共和国ト他ノ諸國ト政策ノ相異ヲ来ス根本主義ニ関スル議論ハ經濟會議ノ問題外ト為シ「ソビエト」共和国ノ根本主義ト兩立セザル諸決議ハ同國以外ノ國々ニ存在スル組織ニ適用スル目的ヲ以テ起案セラルベキモノトス、從ツテ「ソビエト」共和国代表者ハ諸決議中自國ニ適用シ得ル條項ニ對シテノミ贊意ヲ表ス、世界ノ通商ニ「ソビエト」共和国ガ充分協同スルコトノ甚ダ重要ナルニ鑑ミ經濟會議ハ二個ノ異リタル經濟組織ノ平和的共存ノ基礎ニ抛リ「ソビエト」共和国

トノ關係ヲ増進センコトヲ其ノ他ノ諸國ニ勸奨ス」ト云フニアリ、之ニ對シ英國ノ「バルフォア」氏最先ニ反對シ英國ハ斷ジテ斯ル決議案ニ同意スル能ハズト爲シテ烈シク「オッシンスキ」氏ヲ攻撃シ仏國ノ「ルシュール」氏等モ亦之ニ反對セシガ「オ」氏ハ冷靜ニ一々等ニ酬イタリ、英國ノ「ピュー」氏和蘭ノ「ウードゲスト」氏等労働者側ハ露國代表ニ同情シテ協和ノ余地アル旨ヲ陳ヘタルモ英露兩國代表者ノ論争ハ益々激シクナリ決定ヲ翌日ニ持越シテ分レタリ、翌日米國ノ「ボイドン」氏（國際商業會議所代表者ニシテ商業部副議長ノ一人タリ）ハ穩当ナル修正案ヲ提出シテ英露間ノ調停ヲ図リタルモ英國代表者ノ同意スル所トナラズシテ將ニ決裂ニ至ラントセシガ會長ノ計ヒニテ事ナキヲ得「バルフォア」「ロビンソン」「ボイドン」「オッシンスキ」「コライン」志立等會長ノ指名ニ由リ調停案ノ起草委員トナリ別室ニ於テ起案シ、幹部會ノ同意ヲ得後總會ノ承諾ヲ經タル者即チ經濟會議ノ一般の決議（d）項（國際聯盟發行英文經濟會議最後報告第四十九頁參照）ニシテ「ボイドン」案ヲ基トシ前記起草委員ノ苦心協定シタル所ノモノナリ

前記露國代表者ノ提案ト相並ンデ幹部會ニ紛争ヲ齎ラシタル者ハ經濟會議ノ決議ヲ実行スベキ將來ノ機關問題即チ該會議ノ一般の決議報告（e）ニ記載アル事項是レナリ、開會ノ第二日仏國労働者ノ大立物タル「ヂューオー」氏ハ其ノ演說ノ末段ニ會議ノ決議実行ノ必要ニ言及シ國際聯盟ニ四個ノ經濟機關ヲ新設スベシトシテ其ノ組織ヲ陳說シタリ、之ニ對シテ英國ノ「レイトン」氏ハ翌日ノ演說中実行機關ノ必要ヲ認ムルモ「ヂューオー」案ノ如キ込ミ入りタル考案ニハ同意シ難ク追テ別案ヲ提出スベキ旨ヲ陳ベタルガ會議ノ進ムニ從ヒ実行機關問題漸ク諸國ノ主ナル代表者間ニ交話セラレシモ意見ノ一致ヲ見スシテ末期ニ近ツキ五月二十一日ノ幹部會ニ於テ之ヲ決定スルコトナレリ当日現レタル案ハ要スルニ前記ノ「ヂューオー」案ノ外「バルフォア」「ズイーメンズ」「ウードゲスト」ノ三案ニシテ「バルフォア」氏ハ英國委員ヲ代表シ國際聯盟ノ經濟部ヲ中心トシテ將來ノ活動ヲ期スベク是レ以外新ニ經濟機關ヲ設置スルハ不可ナリト爲シ強ク「ヂューオー」其ノ他ノ案ニ反對セリ此ハ經濟會議ニ於テ英國代表者共ノ主張セル所ナルノミナラズ五月下旬伯林ニ於テ開カレタル國際聯盟協會總會ニ於テモ英國委員ノ一致固執セル所ナリ「ズイーメンズ」氏ノ提案ハ簡短ニシテ抽象的ナルモ經濟機

関新設ノ意ヲ含ミタル決議案ナリ而シテ「ウードゲスト」氏ハ經濟會議準備委員會ノ組織ヲ稱揚シ之ニ抛テ新ニ機關ヲ設置スルノ可ナル所以ヲ說キタリ、彼等各自說ヲ主張シテ止マサルヲ以テ「ルシュール」氏ヲ委員長トセル少数委員ニ依リ妥協案ノ作成ヲ図リシモ議決セザルガ爲メ再ヒ幹部會ニ移リシガ「ボイドン」氏各案ヲ折衷シタル新案ヲ提出シテ調停ヲ企テシモ「バルフォア」氏等依然自說ヲ固持シテ讓ラズ會長試ミニ各案ニ付可否ヲ問ヒシニ孰レモ少数ニテ成立セス是ニ於テ殆ト行詰リノ状ヲ呈シ將來ノ機關問題ニ就テハ何等ノ定案ナク將ニ總會ニ臨マントスルニ當リ仏國ノ「ペーリモフ」氏甚タ之ヲ遺憾トシテ遽ニ一案ヲ作り提議セシカバ會長ハ同氏ノ外「バルフォア」「ボイドン」「ウードゲスト」「ズイーメンズ」氏等ヲ委員ニ指名シテ更ニ提案ヲ協議セシメタル結果最後ノ瞬間ニ出来上リシ決議コソ經濟會議最後報告ノ一般の決議（e）ノ項（英文報告第四十頁參照）ニシテ全ク連日ニ亘リシ激論ノ末漸ク到達セル所ノモノナリ

以上ノ二問題中最モ稱賛スヘキハ「ボイドン」「コライン」二氏ノ態度ニシテ常ニ異論ノ協調ニ力メ其ノ言フ所簡短ナルモ極メテ要領ヲ得經濟會議カ短時間ニ多種多樣ノ意見ヲ綜合シテ一定ノ主義ヲ決議シ得タルハ會長「トウニス」國際聯盟事務局經濟部長「ソルター」両氏ノ功績ヲ別トシ前記二氏ノ力多キニ居ルト信ズ

經濟會議ノ一般の決議ハ以上經過ヲ概說シタル二者即チ露國ニ對スル決議ノ適用並ニ經濟機關ニ屬スル事項ノ外世界ノ平和ニ影響スル經濟傾向、教育並ニ宣傳軍事費削減ノ三者ナルカ此三者ニ就テハ特ニ記スル程ノ議論ナカリシヲ以テ其ノ經過ヲ叙說セス、此ノ外「經濟會議」決議ハ各國政府ノ行為ニ由リ効果ヲ生スルカ故ニ各國ノ商務其ノ他經濟的行政ヲ司ル國務大臣カ該決議ニ對シテ最モ考慮ヲ払ハンコトヲ望ミ且是等國務大臣相會シテ決議ノ実行ヲ期スル方法ヲ協議センコトヲ國際聯盟理事會ニ於テ發議センコトヲ望ム」トノ意見英國ノ「ラン・レマン」氏ニ依テ發表セラレ「ボイドン」氏ニ依テ幹部會ニ提案セラレ賛成者少カラサリシモ國務大臣ノ國際的會合ハ事實困難ナリトノ意見出テ該提案ハ幹部會ノ決定ヲ見スシテ止ミタリ（終）

昭和二年七月三十一日

編注一 本報告書は、昭和二年八月十日付在パリ佐藤（尚武）国際連盟帝国事務局長より田中（義一）外務大臣宛公

信普通連本公第四〇六号によって本件会議の報告書として送付されたものである。

編注二 本報告書の末尾に昭和二年八月二十日付在パリ佐藤国際連盟帝国事務局長より田中外務大臣宛公信普通連本公第四二五号によって送付された志立（鐵次郎）代表起草の「国際経済会議報告補遺」を収録した。

編注三 以下原本一頁脱。本件脱頁の内容については、本巻所収「国際経済会議報告書」(Final Report)の当該箇所（259頁以下）参照

一 ジュネーヴ経済会議

3 「国際経済会議報告書」(Final Report)